

平成 28 年度

弘前大学生涯学習教育研究センター年報

第20号

平成 29 年 5 月

弘前大学生涯学習教育研究センター

# 目 次

---

挨拶 弘前大学生涯学習教育研究センター長 曾 我 亨

## I. 論文等

地域生涯学習と「大学開放」の展望

弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授 藤 田 昇 治…… 1

## II. 事業報告

### 1. 生涯学習教育研究センター主催・共催事業

事業報告・アンケート集計結果…………… 13

### 2. 学部の主催事業など

人文社会科学部…………… 56

医学研究科…………… 59

保健学研究科…………… 60

理工学研究科…………… 61

農学生命科学部…………… 64

地域社会研究科…………… 66

白神自然環境研究所…………… 67

被ばく医療総合研究所…………… 69

医学部附属病院…………… 70

研究・イノベーション推進機構…………… 84

COI研究推進機構…………… 85

COC推進機構…………… 89

男女共同参画推進室…………… 90

事務局…………… 92

## III. センター関連規則など

1. センター関連規則…………… 101

2. 組織…………… 106

3. 地図・連絡先…………… 107

編集後記

## 地域の人びとを力づける大学

弘前大学生涯学習教育研究センター長

曾 我 亨

地方の国立大学にとって地域に貢献することは、とても重要です。今、弘前大学は、地域の経済・文化・生活を守り育てる学生を輩出すること、研究成果を活用して地域の人びとの健康を増進したり、新産業を生みだしたりすること。地域文化の価値を高めること等に取り組んでいます。これらの貢献に加え、生涯学習教育研究センターは、地域の人びとに寄り添い、力づけることを自らのミッションにしています。

その具体的な取り組みのひとつとして、昨年度、白神山地の自然環境を守りつつインバウンド観光などにも対応できる人材を育成するために、140時間からなる体系的な「白神自然環境人材育成講座」を開講しました。現在、第1期生として9名の社会人が大学生と共に講義を受けたり、ワークショップに取り組んだりしています。今年度、さらに新たな第2期生を募集し、地域に活力を与える人材を育成していきます。

「地域おこし協力隊」の研修会も地域を力づける取り組みのひとつです。青森県には30名あまりの協力隊員が、県内の各自治体に所属しながら地域おこしに取り組んでいます。生涯学習教育研究センターでは、彼らが地域の課題を発見するお手伝いをしたり、課題を解決していくプロセスを整理したりする研修会を継続的に開いてきました。今年度からは、協力隊のOBを研修会に招き、講師やメンターとして活躍してもらう予定です。

平成29年3月、20年間にわたって社会と大学の結び目となってこられた専任教員の藤田昇治先生がご退職なさいました。大きな戦力を失いましたが、弘前大学の各部局からあつまった8名の協力教員とともに、地域の人びとを力づける大学としての責任を果たして参ります。

青森県に限らず、日本全国どこでも若年人口の減少、高齢化の進行、地域コミュニティ機能の低下など多くの課題が生じています。地域の皆さんには、地域づくりの主役として、是非、生涯学習教育研究センターのプログラムにご参加いただけたらと思います。一緒に、地域の未来を創っていきましょう。

# I. 論 文 等

# 地域生涯学習と「大学開放」の展望

藤田昇治

## I. はじめに

地域生涯学習の推進を図る上で、大学が果たすべき役割、地域から大学に期待されていることは極めて大きい。「地方創生」の課題を考えた場合、「独立行政法人化」以降予算や人員削減が一段と顕著になっているが、改めて社会的存在としての大学の役割・可能性と「大学開放」の在り方を探究することが必要とされているのではないか。

今日、人々が学習する環境は大きく変容し、ICTを利用した社会的に提供される情報・学習内容を活用することが大きな比重を占めるようになってきている。それは、大学等で発行されている学術的な研究成果はもちろん、公的機関がとりまとめた様々な調査報告書・『白書』、さらに、個人の研究者が発信している自己の研究成果、あるいはブログなど多様なものが活用し得る。また、SNSを利用した「コミュニティ」における情報交換なども「学習」という意味からすれば、一定の重要な役割を果たしていると考えられる。しかし、真に「科学的世界観の形成」ということを考えた場合、ICTを利用した「学習」には、大きな問題点が内在しているのではないかと考える。

この小論では、最近の社会的状況や生涯学習をめぐる動向を踏まえながら、「知の拠点」である大学が果たし得る、果たすべき役割を考えながら、「大学開放」の方向性について検討してみたい。

## II. 国立大学における取り組み

### (1) 生涯学習の重要性

ここで簡単に生涯教育・生涯学習について確認しておきたい。周知のように1965年にユネスコで議論された生涯教育・生涯学習に関する議論は、学校卒業後も継続的に学習し続けることの必要性和、社会的に教育するシステムを確立していくことの重要性について言及したものであった。当時、第二次世界大戦後20年を経て、欧米諸国では、様々な領域で技術革新がなされ、社会システムが大きく変容しつつあった。そうした状況にあって、学校で学んだ「知識」が短期間で陳腐化してしまうことから、常に社会的に蓄積された研究成果や技術開発に対応できる「教育と学習」を、社会システムとして確実にしていくことが必要とされたのである。

その後の50年の変化を概括した場合、世界的に見れば、グローバル化の進行が顕著となり、自動車産業やIT等の様々な部門での技術革新もめざましく発展してきた。他方で、地球温暖化の影響も顕著となっている。発達した資本主義国と発展途上国との間の格差が拡大し、発達した資本主義国の国内での格差も顕著となっている。

こうした中で、一人ひとりの学習を生涯にわたって保障することが、社会的に重要な意義を持つという認識は、確実に普及してきている。また、個人の立場からすれば、自己の能力開発・キャリアアップを図るため、また、在学中はもちろん社会人として労働・生活していくためには、常に学習し続けることが不可欠とされている、という認識も深まっている。また、公民館や図書館、博物館などの社会教育施設を利用したり、ICTを活用した学習活動も、追求し得る条件は整ってきている。

## **(2) 生涯学習の推進と大学**

これまで、国立大学では「生涯学習教育研究センター」等が設置され、その後組織再編を経てきたが「地域に開かれた窓」となり、地域住民に対して「公開講座」などの「学習機会」を提供してきた。また、正規の授業を住民が受講できる「授業公開」（「オープン・クラス」等の名称の場合もある）や、「履修証明制度」の取り組みも実施されてきている。さらに、ミュージアム・ボランティア活動の育成に取り組んできた例もある。

こうした住民を対象とした「社会貢献」の事業も、自治体の教育行政や他のセクションとの「協働」で実施されてきている。住民の学習をサポートする、さらに学習した成果を生かす、そうした展望のもとに「協働」が追求されてきている。近年、自治体において予算・人員の削減が迫られる中で、また、社会教育・生涯学習の専門職員の力量向上が重要な課題となっている中で、「大学の知」への期待は大きく、大学と自治体との「協働」の意義は一段と高まってきている、ということができよう。それはまた、地域生涯学習推進という課題での大学への期待でもある。

「地方創生」といった課題を考えた場合、中小企業の発展を軸とした「経済モデル」や発展方向の模索が不可欠だが、そこでも大学の果たすべき役割は大きい。

## **Ⅲ. 弘前大学におけるこれまでの取り組み**

### **(1) 生涯学習教育研究センターの設置**

弘前大学では、平成8年に「生涯学習教育研究センター」が設立された。限られたスタッフではあるが、この20年間に、公開講座の企画・実施や学習相談など多様な事業を追求してきた。ラジオやテレビを利用したの、東北地区国立大学と共同による「公開講座」や、青森県の観光行政などと共催による「観光人財育成（青森県では敢て「人財」と表記）」の事業などを実施してきた。「観光人財育成」の事業では、行政や観光コンベンション協会・商工会議所などと、企画段階から協働により取り組んできた。また、弘前市では公民館職員を主たる対象として、また、七戸町では民生委員を主たる対象として、専門職員研修も実施してきた。

さらに、設立当初、専任教員が医学を専門とする教員であったこともあり、地域課題・生活課題と生涯学習に焦点を当て、「介護と生涯学習」に関する研究活動などを実施してきた。平成9年度からは、「科研費」の補助を受けて、共同研究を追求した。

### **(2) 生涯学習教育研究センターとして目指してきたもの**

センター設置以来20年になるが、この間、生涯学習教育研究センターの事業を実施する

に当たって、第一に、地方国立大学であるということから、全県的なエリアをカバーする形で地域との連携を図る、第二に、大学として蓄積してきた研究・教育の成果を積極的に地域に発信・提供する、ということを目指してきた。その一環として、地域FM放送局・NPOと連携し、弘前大学の教員が出演している番組の内容をセンターのホームページで公開している。大学が持つ「資源」を積極的に地域に「公開する」ということである。第三に、対象を絞った多様な事業を企画実施するようになってきた。教育・子育て・健康・福祉・産業・地域づくりなど、多方面にわたる領域での地域課題・生活課題の克服を目指し、課題解決を目指す「人材育成」を図ってきた。換言すれば、自治体等との「協働・協同」を積極的に追求し、課題についての共通の認識の形成を基礎として課題解決に向けた「人材育成」を追求してきた、ということである。

また、平成28年度からは、新たな試みとして「世界自然遺産白神山地」と関連したテーマ・内容で、「履修証明制度」をスタートさせた。そこでは、より専門性を育む教育プログラムの開発を目指している。

## IV. 今日的社会状況と生涯学習

### (1) ポピュリズムの台頭

近年、欧米ではポピュリズムの台頭が顕著になっている。2016年の国民投票において、イギリス国民はEUからの離脱を選択した。賛否両論が渦巻く中で「離脱派」が必ずしも圧倒的多数を占めたわけではないが、「離脱派」が多数派となったのである。マスコミの報道によれば、EU内での労働力市場をめぐる矛盾の激化が「離脱派」を多数派に押し上げた、と言われている。つまり、かつて東欧諸国であった国々から、安い労賃で働く人々がイギリスに押しかけ、イギリス国内で既存の労働者を失業に追い込んだことが社会的背景にあった、というのである。確かに、EUという一つの経済共同体の中で、資本や労働力が自由に移動することは、本来EUが経済的発展を志向する必然性から当然の論理である。したがって、イギリスの労働力市場をめぐるEU内の他国から「安い労働力」が流入してくることは、経済的合理性からいって当然のことである。しかし、イギリスに即して見た場合、労働者保護の視点から、あるいは労働者の技能・能力の開発の視点からすれば、イギリスの経済発展を展望した上でとるべき必要な対応策があったのではないかと考える。イギリスでは、「金融資本」が肥大化する中で、様々な産業部門での競争力が低下してきたことは、紛れもない事実である。「金融市場に投入される資金」といういわば「相対的過剰資本」（勿論、すべての資金が過剰資本だと言うのではないが）をいかに有効に活用していくのか、新たな技術開発や産業部門の創出・イノベーションを図っていくのか、ということが基本的な課題として問われていたのではないかと。換言すれば、「資本対賃労働」という基本的な問題が「労働者間の職をめぐる戦い」にすり替えられた中で、あたかもEUからの離脱が正しい選択・解決策であるかのように取り沙汰された、ということではないのか。

周知のように、EUの設立は20世紀における世界大戦の戦禍を再び生じさせないという思想が基本に据えられていたものである。「自由競争」が極限まで追求されたとき逆に保護主義化し、国家間・民族間の激しい対立を生み出し、第一次世界大戦で1,700万人、第

二次世界大戦では5,000万人を超える人命が犠牲になった。こうした歴的事実から、ヨーロッパが一つの経済的共同体となることで、「戦争の火種」となることを除去しようとしたのである。

近年、ヨーロッパ各国では、右翼・国家主義的勢力が台頭してきている。イギリスのEU離脱と、そうした傾向とは無関係ではない。また、国際的なテロ活動が活発化していることも関連しているものと考えられる。しかし、イスラム社会からの移民や難民が大量にEU諸国に押し寄せている原因を考えてみた場合、そこには、第一次世界大戦以前からの発達した資本主義諸国による植民地支配があったことは見逃すことが出来ない。

アメリカにおける大統領選挙においても、ポピュリズムの台頭が懸念された。イスラム教徒や、ヒスパニック系の移民などに対する差別的・排外的言動を繰り返したトランプ氏が、結果的に大統領として選出された。トランプ氏が勝利した要因として、アメリカにおける白人層の支持が重要な意味を持ったと言われているが、トランプ氏が主張した内容には、ポピュリズムに基づくものが多かった。

大統領に就任した後、特定の国からの入国禁止を命じる法令に大統領が署名した。これに対して、アメリカの最高裁判所で差し止め処置がなされるといった事態が生じたり、あるいは、政策として掲げていたメキシコとアメリカの間に壁を建設することについて、議会では予算措置が認められなかった、といった事態も生じている。とはいえ、ブログで発信されているトランプ氏の「政策」にはポピュリズムに基づくものが多い。

今年フランスの大統領選挙が行われ右派の候補は退けられたものの、この間テロ行為が頻発し、また、多くの難民がヨーロッパに押し寄せていることもあって、今後実施されるドイツ等の国政選挙などで正しい解決の方策を見いだせないままポピュリズムに流されていくことが懸念される。

## (2) 日本における教育問題をめぐって

日本の国会における議論の中には、教育問題として考えた場合に重大な問題が浮き彫りになっているのではないかと考える。例えば、「教育勅語」をめぐるとの問題である。

明治23年に発布された教育勅語についてここで若干検討してみたい。

周知のように「教育勅語」は、法律を超越した天皇の言葉として発布されたものである。前半部分では、父母に尽くす、あるいは兄弟、友人、夫婦といった人間関係の中では、仲良くすることを説いている。また、「博愛衆二及ホシ」と、いわば公共心の涵養を説いている。確かにこうした面での「道徳心」は時代を超えていつの世にも普遍的に通用するもののように見える。しかし、「教育勅語」で最も重視されているのは、「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」とあるように、戦争等の危機的状況においては、国（天皇）のために一命を捧げることを強調していることである。つまり、明治憲法という法体系のもとで唯一の主権者である天皇に対して「臣民（国民）」は忠誠を誓うことを求めているのである。こうした思想は、日本が資本主義的経済発展を遂げる中でも、教育の場面で徹底され、軍国主義や絶対主義的天皇制の基盤を形成していった。

昭和23年、「教育勅語等排除に関する決議（衆議院・参議院決議）」にて、「教育勅語」は現在の日本国家の精神と根本から相容れないものとして失効となった。ところで、「教育勅語」をめぐっては、一部に、道徳の基本に据えるべきであるとする議論がある。ある



いは、前半の「臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ…」といった部分を強調し、「教育勅語」の精神を積極的に評価しようとするものもある。しかし、そうした人々は「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」という部分には意識的に触れず、昭和23年に国会で失効決議されたということについてもあえて触れようとはしない。結果として、国民主権と基本的人権の尊重をうたった現行日本国憲法の精神を根本から否定するものとなっている。

「森友学園」をめぐる報道によれば、塚本幼稚園では「教育勅語」が教育の基本に据えられていると言われている。そして、実態としては、体罰的な「自由にトイレに行かせてもらえない、だから、水分はとらない」「幼稚園バスから家に帰るまでに必ずおもらししてしまう」といったことが報じられている。また、運動会で「安倍首相、がんばれ」と叫ぶことを強制している。そこでは巧妙に権力者・体制に順応するように刷り込みが図られていると言わざるを得ない。

ここで、「教育勅語」とも関連するが、「墨塗り教科書」について紹介しておきたい。

かつて、太平洋戦争が始まった昭和16年当時、日本の小学校は国民学校に改組されていた。そこで使用されていた教科書は、敗戦を迎えた昭和20年8月以降、根本からその在り方が問われることになった。

それまで使用されていた国定教科書の扱いは、修身・歴史・地理については全面的に使用禁止、回収後廃棄ということになった。軍事教練で使用されていた木銃なども同様であった。

国語は多くの単元で時には全ページ、文章・語句について墨を塗ることになった。単元丸ごと削除される例もあった。算数や理科の場合、およそ軍隊や国家神道、天皇制に結びつくような語句や挿絵は、悉く墨が塗られた。

国民学校時代の国語の教科書は、その多くが「戦記物」のような内容のものであって、およそ戦後の新しい国家作りには相容れないものばかりであった。そうした中で『小学校国語読本巻十（五年生用）』に収録されていた「稲むらの火」という単元は、全文削除とされた。「稲むらの火」は、江戸時代に和歌山県のある地域で実際に起きた大地震・大津波の際のエピソードを綴ったものである。平成23年度から使用されている教科書にも、再び掲載されるようになっているが、大筋を紹介すると、大商人であった浜口梧陵が、大津波が発生したとき、「稲むら」に火をつけ多くの人々を救った、ということである。この件については、東日本大震災以降、歴史番組や防災関連の番組などで紹介されることも多い<sup>1)</sup>。

『小学校国語読本巻十』で取り上げられた「稲むらの火」では、浜口梧陵が多くの村民の命を救ったという事実を踏まえた記述となっているが、ポイントは浜口梧陵という絶対的なリーダーに対して、村民が畏敬の念を抱きひたすら平伏する、ということにあった。つまり、大津波の難を逃れようと指導したリーダーに対して、一般の人々はひたすら従順に従うべきであるという価値観・行動規範が前面に打ち出されたものであった。従ってそれは、自然災害や防災についての教訓を引き出すと言うことではなく、「指導者（権力者）に人々は従順に従うべきである」ということを教え込むことを主眼としたものであった。従って、ポツダム宣言を受け入れ、天皇制・軍国主義的国家体制と決別し国民一人ひとりの主権を尊重して、平和国家を建設するという理念からすれば、全く相容れない

ものである。相容れないものとして、全面的に削除されたのである。

ここで、改めて「軍事」ということについて考えてみたい。現行の憲法の前文や第9条には、「戦争の放棄」ということが明記されている。この理念は、それまでの世界大戦の戦禍をふまえて到達した、崇高なものである。先にも触れたが、第一次世界大戦で1,700万人、第二次世界大戦では、5,000万人の人命が犠牲になった。また、日本の場合に「自衛のため」という名目で対外侵略を行ってきた。戦争は、確かに財閥や軍人、政治家、高級官僚などにとっては多大な「利益」をもたらすものであろう。しかし、圧倒的大多数の国民にとっては、思想・信条の自由や表現の自由などが抑圧され、基本的人権が侵害され、財産が奪われ、さらには人命さえも奪われるものでしかない。イデオロギーの面からすれば「国を守る」という美辞麗句は心地よく響くかもしれないが、戦争の本質を見失い、ポピュリズムに流されたものでしかない。「戦争の放棄」という理念こそがこれからの新しい国内及び国際社会の基本原則として据えられるべきではないか、と考える<sup>2)</sup>。

## V. 「大学開放」として追求すべき課題

### (1) 「生涯学習」の捉え直し

ITや新素材・医療など、様々な領域で技術開発がなされている。それらは労働・生産過程に導入されたり、私たちの日常生活で様々な商品として提供されてきている。最近では、VR（バーチャルリアリティ）の技術開発がめざましく、様々な商品も開発されてきている。また、ICTの教育現場への応用の可能性も高まっている。VRについては、博物館の展示・教育普及活動での活用の可能性も高い。

また、アンドロイドや接客ロボットの開発も注目される。長崎県のハウステンボスでは、ホテルの接客業務を基本的にロボットが行っている。従来ロボットと言えば生産過程に利用される産業用ロボットが主流であったが、近年急速に対人サービスを行うロボットが注目されている。今後、人工知能の開発やアンドロイドの開発が急速に発展すると予想される中で、対人サービスロボットの市場拡大が予想される場所である。

NHKの経済番組で、ハウステンボスにおける接客ロボットの活動状況が紹介されていた<sup>3)</sup>。その中で注目されることは、人間に代わってロボットが対人サービスを滞りなく提供している姿である。今後、様々な業種・労働場面で対人サービスを行うロボットの開発が急速に進行し、多くの労働者を失業に追い込むのではないかと危惧される。また、もう一つの注目される点として、こうした対人サービスを行うロボットの実験的な使用が、ハウステンボスという私有地で行われていることである。ロボット自体の開発はハウステンボスが行うのではなく、ロボットを開発した業者がハウステンボスに持ち込んで実験的に使用し、その中から改良・克服すべき点を見だし、改善することによって実用化・商品化を図ろうとしていることである。対人サービスロボットの市場をめぐる国際競争の激化が予想される中で、積極的に社会的条件を整えていくことが必要とされているのではないか。ロボット開発に限らず、企業・行政・大学等との連携が技術開発に求められている。介護用ロボットについては、理学療法等の医療における場面や、食事・入浴等の介助の場面で開発が進んでいる。また、精神的な「癒やし」の場面での商品開発も進んでいる。ロボットと人間が会話することで心の癒やしになったり、脳を活性化させることが

可能となっている。今後の予想として亡くなった人（先立った妻や子どもなど）に関する様々な情報をデータとしてロボットに集積しておき、あたかも亡くなった人とコミュニケーションをとることができるような環境を作り出すことが技術的には可能になっている、と考えられる。人工知能の開発がこうした介護用ロボットで活用されるならば、医療・介助・メンタルヘルス等の場面で新たな市場を拡大していくものと考ええる。

IT技術が急速に発展する中で、「教育と学習」の視点からすると危惧される状況も生まれている。NHKの「クローズアップ現代+」では、2日に渡って「フェイクニュース」を取り上げていた<sup>4)</sup>。その中で、実際に日本であったこととして、平成28年4月に起きた熊本地震の際に「動物園からライオンが逃げた」というニュースが発信され、一定の人々に信憑性のある「事実」として受け入れられた。こうした災害時における流言飛語は、様々な局面で発生し、人々の心の動揺をもたらし、あるいは、「異常な行動」を引き起こすことがある。関東大震災の際は、流言飛語により、多くの朝鮮人や社会主義者が殺害された。

今日では、テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディアによる情報の提供が恒常的に行われており、政治・経済・文化・スポーツ等の、様々な領域における「ニュース」が発信されている。さらに、インターネットでの「情報」も次第に大きな比重を占めるようになってきている。最近では、若い層での「新聞離れ」も顕著である。個人がSNS等を利用して情報発信することが技術的に容易になり、「YouTube」に動画を投稿することも容易にでき、また、世界中の多くの人々がアクセスしている実態もある。それは、一面では、従来のマスメディアと比較して、より迅速な情報発信（例えば、列車事故や大火に遭遇した人が、リアルタイムで状況を報告する）が可能になっていくということの意味している。テレビクルーや新聞記者が取材に訪れる前に、リアルな情報発信ができるということの意義は大きい。しかし、他面では、情報発信する人の恣意的解釈が成立するという問題点も見逃すことは出来ない。映し出された画面を、どのような文脈で伝えるか、解釈するか、という基本的なところで恣意的解釈がなされる危険性がある。先に挙げた「クローズアップ現代+」の番組では、もともとは正しい事実として報道されていたことが、ネット社会で大きく歪曲された「フェイクニュース」がむしろ、全世界に発信され、大きな影響力を与えた、という事実もある。

アメリカの大統領選挙をめぐることは、「フェイクニュース」が数多く発信され、結果的に、トランプ氏に有利に作用したものが多かった、とされている。例えば、「ローマ法王がトランプ候補を支持している」といった「フェイクニュース」が流され、トランプ候補に有利に作用した。こうした政治的イベントの際に限らず、日常的に「フェイクニュース」が発信され、また、多くの人々がその真偽を確認することなく、他者に拡散させる役割を担っている、ということも指摘されている。「フェイクニュース」を発信する人の中には、いわば「ジョーク」や「面白い話」、「他者から注目される話」として発信している場合もあるようだが、広告手数料を見込んで、目的意識的に情報発信している人も決して少なくはない、とされている。

このような「フェイクニュース」について考える場合、個人の「思想・信条の自由」や「表現の自由」を尊重することは大前提としつつも、特定の個人が大きな被害（名誉毀損や、あるいは経済的不利益など）を受けたり、社会的に悪影響を及ぼすことが頻繁にあり

得ることであるということについては、極めて重要なこととして確認しておきたい。「フェイクニュース」の受け手、あるいは拡散者に求められることとして、「情報リテラシー」（フェイクニュースの発信者の倫理観を含めて）の在り方を指摘する人も多いが、教育学習論の視点からすれば、「科学的世界観の形成」をどのように図るか、という課題として設定されるべきではないか、と考える。つまり、多様な「情報」や「ニュース」がネット社会で氾濫しているなかで、それを批判的に捉え直し、真偽を見極めるうえで必要とされるものは、「科学的世界観の形成」ということが基本的な問題なのではないか、ということである。そしてそれはまた、生涯学習の議題である、と考える。

ここで「フェイクニュース」が一定の影響をもっているということについて考えてみたい。先にも触れたが、アメリカ大統領選で現実に行き起きている投票行動を規定する要因となっている。それまでトランプ氏を支持していた人にとって「ローマ法王がトランプ氏を支持している」というフェイクニュースは、よりトランプ氏の支持を強固にするものと考えられる。また、それまで支持していなかったあるいは態度を決めかねていた人の一部からは、トランプ氏支持に回る人を生み出す働きをしたものと考えられる。

また、ポピュリズムとも関連している、と考える。フェイクニュースを鵜呑みにし、「科学的認識」とかけ離れた情動に揺り動かされ、排他的・差別的行動規範を形成する傾向は確実に強まっている。

一般的動向として、一度親密感を抱いた社会集団に同調する傾向が強い。とりわけ帰属意識を持ち、他者からの批判に耳を貸さない、ということは、政治の場面では顕著で、自分の支持する政党の代表者の発言や政策に無批判的に共鳴する傾向が強いように思う。それはまた、ポピュリズムとも関わって、今後いっそう「科学的世界観の形成」が問われることとなる。

こうした文脈で捉えた場合、改めて、大学の社会的存在意義が再評価されるべきではないか、と考える。それぞれの研究課題に即して見れば、立場の違いや方法論の違いがあるとは言っても、科学的な探究が行われており、そのプロセス・成果が大学教育において「教育内容」として設定されている。大学において社会的役割として行っている「科学的な探究」こそが「科学的世界観の形成」の基盤を成している、と考える。

ところで、生涯学習について考えてみる場合、現代社会において「社会的存在である人間」の内実をどのように捉えるかということが問題になる。

ここで改めて、「人間」をどのように捉えるべきか、ということについて考えてみたい。教育論に引きつけてみると、少なくとも以下の3つの視点が重要になる、と考える。

第一に、人間は自然的存在である、ということである。

人間は、生物体としての存在であり、「生命」の機能は、40億年の生命進化の歴史に規定されている。地球上の生命は、これまで約2,600万年の周期で、何度も生命絶滅の危機に遭遇してきた。それを乗り越えながら、進化してきたのである。

生命体としては、タンパク質などの物質で構成されているが、さらに分解すれば多くの元素で構成されている、ということになる。それらの元素の多くは、恒星の中で核融合の結果として生成されたものである。その意味では、人間の生命の根源は、宇宙と直結しているのである。

近年、DNAの分析が可能となってきた。それで、生命体としての進化や、人類史を解き明かす手がかりが多数発見されてきている。

7万年前に、人類は東アフリカから移動をはじめ、全世界へと居住地域を拡大していった。人骨や石器などの発見は今後も追求され、基本的にはDNAの分析から推測される人類史を「証明」することになるのではないかと考える。

日本人のルーツについては、福島県の遺跡などから縄文人の遺伝子が分析されているが、未だに謎は多いようである。しかし、縄文人のDNAの一部は、確実に今日に受け継がれている。

人間の感情や理性の働きを規定する「脳」についても、長い生物の進化のたまものである。「魂」も、「脳の働き」からきりはなされて存在するのではなく、「脳」という器官・物質的基盤の上に「観念」が成立するのである。決してその逆ではない。事故や病気などで「脳」が十分機能せず「我思う」ことができなくなっても、「我在り」であり、客観的に外界は存在し続ける。

第二に、人間は社会的存在である、ということである。

歴史的にみれば、人類700万年のなかで「家族」の形態や機能は大きく変容してきた。日本の戦後に限定しても、かつて農村部では「大家族制」が主流だったものが、「核家族制」へと変化してきた。「世帯」でみれば、「単身世帯」が最も多い。とはいえ、人間は「家族」という社会的関係の中で誕生し養育され、やがて自立するようになっていく。

近代以降、国民教育制度が確立し、社会システムとして学校教育制度が整備されてきた。

大学を含めた教育システムは、今日の社会を再生産する上で重要な役割を果たしていることは間違いない。

法律などの整備により、「基本的人権」が保障されている。

直接・間接に、他者との相互規定的な関係にある。文化やイデオロギーの問題が大きい。その基礎には、経済的・政治的利害関係が作用している<sup>5)</sup>。

第三に、人間は歴史的存在である、ということである。

現在の日本社会の在り方を規定する憲法は、第二次世界対戦の災禍を経て実現したものである。「平和主義」は、「実現不可能な理想」として否定的に捉える傾向が強い。自衛隊についても、「自国の防衛に必要」という言葉に踊らされている。

政治制度では、小選挙区制の下で、政治家や高級官僚などが権力を私物化している。「森友学園」をめぐる問題などを見ても、一見すると国民から隠れたところで政治家・権力者がその権益をむさぼっている。そこには、「歴史的必然」もあるのだが、同時にいつまでも続かないという「歴史的必然」があることも、また、明白である。「社会」と「人間」は、ともに相互規定的な関係の下で変化していくのである。

今日、自然科学・社会科学・人文科学の様々な領域で研究がなされているが、その成果に如何に学ぶのか、ということが「人間」の内実を規定することになる。

## (2) 「大学開放」への期待

「地方創生」や「持続的な発展」といった課題について考えた場合、企業におけるソーシャルイノベーションという考え方が新たに提起されており、注目される場所である。

また、著しい人工知能の開発のもとで、それが労働者の「大量失業」に結びつく可能性が大きいのだが、むしろベーシックインカムを確立し、人間は自由な時間を満喫できるようにしようという考え方が提起されるようになってきていることにも注目したい。

NHKの番組で、「ソーシャルイノベーション」が取り上げられていた<sup>6)</sup>。これまで、イノベーションという場合、企業内における商品・技術開発やシステムの開発を基本として考えられてきた。グローバル化が進行する中で、個別企業は、常に国内市場・国際市場の競争の中で生き残ることが求められており、その意味ではイノベーションは、常に求められているものである。しかし、個別企業の枠を超えて、同じ産業部門間での連携や異業種との交流が、新しい商品・技術開発に結びつくことも多い。新しい商品・技術開発がそれなりに成功すると言うことは、客観的に社会にニーズが存在しそのニーズに合致した、ということの意味している。したがって、社会的にどのようなニーズが存在するのかということ適切に把握し、それに対処していくことが企業活動として求められている、ということである。

今日、「地方創生」や「格差拡大」、「超高齢化」、「地球温暖化」などの問題が深刻化する中で、企業や行政・大学、さらに様々な社会組織において、どのように対処すべきかということが問われてきている。こうした課題に対応するに当たっては、個別企業の利益を追求することにとどまらず、より広い視野をもって他の企業や行政・大学等との連携（協働・協同）が必要とされている。幅広い視野をもち、課題を掘り下げ、社会的協働・協同を追求することで対処していくことが求められている。こうした文脈からすれば「ソーシャルイノベーション」という視点は現代社会において極めて重要な、そして実践的に追求すべき課題設定であるといえよう。

ところで、「地域づくり」という場合、コミュニティの中で、様々な人的交流を基礎としてコミュニティの機能を活性化させる取り組みに重点をおいた実践例も多い。確かに、都市において、隣人との付き合いが希薄化したり、あるいは、中山間地域で人口減少が著しく、触れあう人が減少し従来のコミュニティが機能しなくなっている状況が広範に存在している。高齢化率が30～40%を超える地域も決して珍しくはない。こうした状況にあって、様々な「地域づくり」や「まちおこし」、「人々との繋がり」を重視した取り組みも各地で行われており、一定の成果をあげている。

しかし、「地方創生」の課題もそうなのだが、「地域づくり」の基本に経済活動・経済の論理を位置づける必要があるのではないかと考える。その意味では、地方では、基幹産業である農業の振興や「グリーンツーリズム」などの観光業に活路を見いだそうとする傾向も多い。農業について考えた場合に、超高齢化が進行し担い手が不足しているのは事実であるが、若者の積極的な参入を、JターンやUターン・Iターンという形で実現している地域もある。

観光客の増加は、第六次産業として、宿泊業関係者のみならず、交通・食料生産など、関連する産業部門が多いことで雇用の創出・地域の活性化につながるものとして期待されている。

改めて、「ソーシャルイノベーション」ということと関連づけて考えた場合、社会的なニーズを正確に把握するとともに、地域に存在する様々な資源を再評価し、そして、「人材育成」を図るために、企業・行政・大学・社会組織・ボランティア・NPO等が社会的

協働・協同を志向していくことが鍵になるのではないかと考える。

以上のようなことを踏まえて今後の「大学開放」を展望すると、第一に、成人・高齢者などの学習の場として、高齢者や成人・現役世代の「学び直し」のニーズにこたえていくことが必要とされている。また、研究・技術開発の場として積極的に開放される必要がある、と考える。第二に、専門的な研究の成果をいかして、専門職員のキャリアアップ・キャリア形成をサポートするべきである。また、「人工知能」等の技術革新が進行することが予想される中で、長時間労働を改善し、「労働力の質的向上」に積極的に関与していくことが必要とされてくるのではないかと考える。第三に、学習相談の機能の充実が必要とされている。今後、IT技術が発展し、住民の学習活動が多様化する中で、個人の学習活動をサポートすることが重要になるものと考えられる。とりわけ「科学的世界観の形成」という課題との関わりでは、大学の果たすべき役割が大きい。第四に、地域課題・生活課題に取り組む「人材の育成」に積極的に関与することが必要とされている。大学は、そうした課題解決のため行政、企業、地域の社会組織、ボランティア・NPOなどと「協働・協同」することが必要とされているのであり、行政・企業・社会組織・NPO等との「協働」により「生涯学習ネットワーク」を組織化する上で、重要な役割を果たすことが期待されている。

## VI. 結び

大学の機能・社会的役割は、日本社会の持続的発展に大いに関係してくるものであり、今後いっそう充実が図られる必要がある。そして、住民の学習や「地方創生」といった課題の克服に向けて、積極的に「開放」されることが求められている。

最近の傾向として、若手研究者育成の課題や「文系学部の縮小」等が取り沙汰されている。しかし、社会的に捉え直してみると、人口減少の傾向が強まる中で、「持続可能な発展」を目指す上で、あるいは「科学的世界観の形成」を図る上で、大学が社会的に果たすべき役割は非常に大きく、社会に「開かれる」ことが求められてくる。

なお、この小論は、平成28年9月に開催された「日本社会教育学会」の研究大会において、「開催校企画」として実施されたシンポジウムのシンポジストとして報告した内容を基本として、その後大幅に加筆修正したものである。

### 〈注〉

- 1) 例えば、「BSプレミアム 英雄たちの選択」(2016年9月1日放送)などで取り上げられていた。
- 2) 例えば、「クローズアップ現代+」(2016年9月28日放送)では、最近の動向として、軍事研究費の増加にともなう問題が取り上げられていた。併せて、学術会議が、従来の「軍事研究は行わない」という戦後一貫して掲げてきた方針を転換しようとしている動きがあることについて取り上げている。
- 3) NHKの「ニュースサキどり」、2016年6月12日放送。
- 4) NHK「クローズアップ現代+」、2017年2月6～7日放送。
- 5) この点に関連して、筆者はかつて「自己完結的な自己」という概念を提起したことが

ある。参照されたい。拙稿「生涯学習を拓く大学での学び」(大坪正一他編著『学校・教員と地域社会』、第7章、東信堂、2012年)。

- 6) NHK「TVシンポジウム 社会課題の解決に向けて～ソーシャルイノベーションの取り組み」、2016年12月24日放送。



## II. 事 業 報 告

# 1. 生涯学習教育研究センター主催・共催事業

「地域おこし協力隊研修会」				
対象者	本学の教員・学生、自治体職員、地域おこし協力隊（近県も可）、本学の教職員、学生		受講者数	延べ 169名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催・後援	弘前大学大学院地域社会研究科・青森県
会場	①弘前市中央公民館相馬館、②弘前大学総合教育棟2階大会議室、③南部町バーデパーク内アヴァンふくち多目的ホール、④～⑤弘前大学創立50周年記念会館2階 岩木ホール			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年5月11日(水) 13:00～17:30	前田 哲佳 氏	山形県鶴岡市役所 地域振興課	「協力隊をいかに受け入れ、いかに根づかせるか」	全国の地方国立大学として初めて地域おこし協力隊研修会を組織的かつ定期的 に実施してきた。引き続き本事業を実施することにより、地域人材育成手法を本学に定着させると同時に、現実の地域づくりの改善に貢献する。また、青森県と共催実施することにより、起業も視野に入れた研修会に拡張するとともに、一元的フォローアップの窓口設置と、東北圏内他機関とのさらなる連携を目指す。
②平成28年7月6日(水) 14:00～17:30	平井 太郎 氏	弘前大学地域社会研究科 准教授	弘前大学担当 ※ワークショップ	
③平成28年8月31日(水) ～平成28年9月1日(木)	平井 太郎 氏	弘前大学地域社会研究科 准教授	青森県担当 ※南部町へ合宿形式	
④平成28年12月16日(金) 13:00～17:30	永井 尚子 氏	二戸市観光協会 コーディネーター・ 二戸市地域おこし 協力隊OB	「二戸市地域おこし 協力隊の活動紹介 と協力隊の「その後」	
⑤平成29年3月3日(金) 13:00～17:30	佐藤 恒平 氏	まよひが企画代表・ 朝日町地域おこし 協力隊OB	「着ぐるみからゲストハウスまで～山形県朝日町の協力隊活動のあゆみ～」	

## ①第1回「地域おこし協力隊研修会」 第1部「協力隊をいかに受け入れ、いかに根づかせるか」

講師：前田 哲佳（山形県鶴岡市地域振興課）

有効回答票数：18票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	12	3	1		2
内容	12	3	1		2
資料	12	3	1		2
話し方	13	2	1		2
雰囲気	12	3	1		2



## ②第2回「地域おこし協力隊研修会」

### ワークショップのみ

有効回答票数：15票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
内容	10	4			1



③第3回「地域おこし協力隊研修会」  
南部町へ合宿形式 ※アンケート集計なし

④第4回「地域おこし協力隊研修会」  
第1部「二戸市地域おこし協力隊の活動紹介と協力隊の「その後」」  
講師：永井 尚子（二戸市観光協会コーディネーター二戸市地域おこし協力隊OB）

有効回答票数：13票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	10	2	1		
内容	10	2	1		
資料	6	4	2		1
話し方	9	3	1		
雰囲気	11	2			



⑤第5回「地域おこし協力隊研修会」  
第1部「着ぐるみからゲストハウスまで～山形県朝日町の協力隊活動のあゆみ～」

講師：佐藤 恒平（まよひが企画代表・朝日町地域おこし協力隊OB）

有効回答票数：17票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	12	4			1
内容	13	3			1
資料	6	7	3		1
話し方	13	3			1
雰囲気	14	2			1



受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		9	14	9	1	1	1	
女	1	12	11	2				
無回答		1	1					

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌							1	
新聞								
DM		2	6	4				
テレビ・ラジオ								
知人から		8	5	2				
インターネット								
その他	1	12	14	5	1	1		
無回答			1					

## 平成28年度「地域おこし協力隊研修会」(全5回)を終えて

平井 太郎

(弘前大学地域社会研究科 准教授)

本事業は平成27年度から開始したもので、地域おこし協力隊のスキルアップや活動のブラッシュアップを図る実践的な研修会である。地域おこし協力隊とは平成21年度に創設された総務省の制度で、人口減少に悩む地方の地域づくり活動を、大都市から人材を迎え活性化させようとするもので、平成28年度には全国で4158人が活躍している。その活動の成否は、隊員と地域住民、行政担当者が目標設定や達成度の把握について綿密なコミュニケーションを重ねているかにかかっていることが、平井ほか（2015）などの研究を通じて明らかにされている。この知見を受け本事業では、そうしたコミュニケーションを活性化させるべく、隊員・地域住民・行政担当者を対象としたレクチャーとワークショップを定期的で開催してきた。本年度の参加者は、（地域おこし協力隊、自治体、ファシリテータを含む）169名を数え、2年間にわたり継続的に参加してきた隊員2名が、地元女性と結婚して定住することとなり、研修会の成果も少なくなかったと考えられる。今後は隊員数の増加に合わせ、県レベルでの研修実施が国費で支弁されることともなり、青森県ともより連携した研修会の充実が求められる。さらに北海道や秋田県、岩手県等、隣県の協力隊の参加も促す働きかけも重要であろう。くわえて本研究会で重ねてきたWS手法の検証も行い、その成果を早期に世に問うべきだと考えられる。

参考文献：『地域おこし協力隊』 学芸出版社 平井太郎ほか（2015）

# 中泊町子育て支援講演会「『当たり前』からの開放!! 世界から見た日本の子育て」

対象者	中里・小泊地区で育児中の保護者	受講者数	延べ17名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	中泊町教育委員会
会場	①こども園こどもり、②なかさとこども園		
日時	講師	所属	実施概要
①平成28年6月6日(月) 10:00~11:30	飯野 祐樹 氏	弘前大学教育学部 講師	育児の違いを知ることによって、世界の子育て(教育・食育・遊学など)に関心を持ってもらい、他国の良いところを吸収し、日本・世界の子育て環境に興味を持つことをねらいとします。
②平成28年6月28日(火) 10:00~11:30			



弘前大学地域連携推進事業

## 『当たり前』からの開放! 世界から見た日本の子育て

世界にはいろんな子育ての方法があります。  
遊び・食べ物・病気の時の対応・学びetc・・・  
私たちの子育てを振り返りながら、世界と比べてみましょう。  
きっと、子育てが楽しくいろんなものに興味が湧きます。

日時 6/6 月 10:00~ 託児付  
申込〆期1週間前 電話にて住所・氏名をお知らせください。

参加無料 先着15名

場所 こども園こどもり

講師:飯野祐樹(弘前大学教育学部 家政教育講座・保育学)  
愛媛県今治市生まれ。専門は幼児教育学と保育学。研究主題は「保育者の振り返り(省察)」と「保育評価」。中でも、ニュージランドの保育については強い関心を持っている。平成21年にはニュージランド・クライストチャーチにあるカンタベリー大学に特別研究員として滞在し、現地の保育園施設で補助教員として勤務する。帰国後、弘前大学大学院にて博士号(教育学)を取得。現在は、弘前大学教育学部の家政教育講座で保育学を担当。

申込・問合せ:中泊町教育委員会 社会教育課 ☎0173-69-1112  
主催:弘前大学生涯学習教育研究センター ・ 中泊町教育委員会

## ①『『当たり前』からの開放!! 世界から見た日本の子育て』

講師:飯野 祐樹(弘前大学教育学部 講師)  
会場:こども園こどもり

有効回答票数:6票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	4	1			1
内容	4	2			
資料	4	1	1		
話し方	6				
雰囲気	6				

## ②『『当たり前』からの開放!! 世界から見た日本の子育て』

講師:飯野 祐樹(弘前大学教育学部 講師)  
会場:なかさとこども園

有効回答票数:10票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	8	2			
内容	6	4			
資料	5	4	1		
話し方	7	3			
雰囲気	7	3			

弘前大学地域連携推進事業

## 『当たり前』からの開放! 世界から見た日本の子育て

世界にはいろんな子育ての方法があります。  
遊び・食べ物・病気の時の対応・学びetc・・・  
私たちの子育てを振り返りながら、世界と比べてみましょう。  
きっと、子育てが楽しくいろんなものに興味が湧きます。

日時 6/28 火 10:00~ 託児付  
申込〆期1週間前 電話にて住所・氏名をお知らせください。

参加無料 先着15名

場所 なかさとこども園

講師:飯野祐樹(弘前大学教育学部 家政教育講座・保育学)  
愛媛県今治市生まれ。専門は幼児教育学と保育学。研究主題は「保育者の振り返り(省察)」と「保育評価」。中でも、ニュージランドの保育については強い関心を持っている。平成21年にはニュージランド・クライストチャーチにあるカンタベリー大学に特別研究員として滞在し、現地の保育園施設で補助教員として勤務する。帰国後、弘前大学大学院にて博士号(教育学)を取得。現在は、弘前大学教育学部の家政教育講座で保育学を担当。

申込・問合せ:中泊町教育委員会 社会教育課 ☎0173-69-1112  
主催:弘前大学生涯学習教育研究センター ・ 中泊町教育委員会

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男			1					
女		1	5	4	2	1	1	
無回答				1				

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌 新聞 DM				1				
テレビ・ラジオ 知人から		1		1				
インターネット その他			6	3	1	1	1	
無回答					1			

## 「当たり前」からの開放！世界から見た日本の子育てを終えて

成 田 寿 美

(中泊町教育委員会社会教育課)

今年度は、世界と日本の子育てを比べ、『当たり前』を少しでも変えたいと思い講座を依頼した。

デンマーク・モンゴル・インドネシア・中国・イタリア・オーストラリア・オーストリア・スウェーデンの子育てと保育の紹介、お母さんのホルモンや子どもの夜泣きの仕組み、イヤイヤ期の仕組みを飯野先生に分かりやすく解説いただいた。講座は参加型で時間があっという間に過ぎた。

この講座で、『子育て』の正解とは何か、改めて考えることができた。如何に周りのメディアに影響されて生活しているのだと感じた。受講された方が固定観念・当たり前・ルーティンからの卒業を目指し子育てに携わっていただけるよう願っております。

8回目を迎えた子育て支援事業は、弘前大学との連携強化のほか様々な情報提供をいただいている。限られた時間での講座は重点を絞り、密度の濃いものであった。

今後も継続していくために、弘前大学、こども園との繋がりを大事にしていきたい。

飯野先生、弘前大学生涯学習教育研究センターの皆様、ありがとうございました。

中泊町中央公民館「自分史を作ってみよう」			
対象者	65歳～80歳までの男女	受講者数	延べ 21名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	中泊町中央公民館
会場	中泊町中央公民館会議室		
日時	講師	所属	実施概要
①平成28年6月18日(土) 9:30～11:30	松本 大 氏	弘前大学教育学部 講師	「自分史」を作成することで、家庭・職場や地域の中で、これまで自分が歩んできた人生を振り返り、得られた経験を今後の地域作りに生かすことについても理解を深めていきましょう。
②平成28年7月2日(土) 9:30～11:30			
③平成28年8月6日(土) 9:30～11:30			
④平成28年9月3日(土) 9:30～11:30			
⑤平成28年10月8日(土) 9:30～11:30			
⑥平成28年12月3日(土) 9:30～11:30			



①～⑥「自分史を作ってみよう」

講師：松本 大（弘前大学教育学部 講師）

有効回答票数：3票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	2	1			
内容	2	1			
資料	2	1			
話し方	2	1			
雰囲気	2	1			

**弘前大学地域連携事業**

みんなことやこんなこと色々あったよ！  
みんなが集まって昔話に花を咲かせよう！  
そして、自分や地域のことについて語り  
合いましょう！  
ふりかえれば、そこに自分がまっとう

**自分史をつくらう！**

平成27年度に自分史「宝蔵」第1号を作成しました。

**期 日**  
平成28年6月18日(土)、7月2日(土)  
8月6日(土)、9月3日(土)  
10月8日(土)、12月3日(土)  
計6回

**時 間** 午前9時30分～午前11時30分

**場 所** 中泊町中央公民館会議室

**対 象** 65歳～80歳までの男女

**募集人数** 10名(最低2名以上で開催)

**参加条件** 計6回の日程に参加できる人を希望

**申込期日** 5月31日(火)までに電話または  
FAXで中央公民館へお申し込みください

**問い合わせ** 中央公民館 ☎57-2341 FAX57-2343

**主催・共催** 中泊町中央公民館・弘前大学生涯学習教育研究センター

---

平成28年度 自分史をつくらう申込み

氏 名	( 歳 )	生年月日	大正・昭和	年	月	日
住 所	中泊町	電話番号				

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男								
女						1	2	
無回答								

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌						1	2	
新聞								
DM								
テレビ・ラジオ								
知人から								
インターネット								
その他								
無回答								

## 地域連携事業を活用して

古川 優  
(中泊町中央公民館)

高齢者の生きがいづくりを目的とした「自分史づくり」ですが、今年度も無事終了することができました。今年度は「地域をふりかえってみよう」のサブタイトルで自分について話すとともに当時の地域はどうであったかと話しあい、地域と関連付けた内容にし進めることができた。参加者の中には幼少時に戦争体験をしている方もいて戦時中の話や、女性の方からは嫁入りに来た時等の当時の様子を聞くことができた。参加者同士が個人や地域のことを互いに話し合うことで、時間の共有ができたと思っています。

また、話すことによって過去に嫌な思いをしたことが今改めて思えば違うことだったことなどの気づきもできたようです。

約半年かけて行った本講座ですが参加者からは「この講座に参加してよかった」「月1回の楽しみだった」「この講座を続けてもらいたい」など嬉しい言葉をいただきました。

また、自分史を書いてみて、まだまだ付け加えたいことがあると言っていた方もあるのでこれを最後ではなくして付け加えて自分史を完成させて頂ければよいのではないかと思います。

来年度も本事業を活用して、この講座を開催したいと思っています。

託児付の育児支援連続講座「*パパラボ*あそび研究所」				
対象者	主に未就学児の父親		受講者数	延べ 49名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	弘前市
会場	①～③ ヒロロ3階 駅前こどもの広場多目的室、イベントスペース			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年6月18日(土) 10:00～12:00	深作 拓郎 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター講師	遊びの企画～学び考える～	主に未就学児の父親を対象に、子育てに積極的に関わり、自信を深めてもらうことを目的として、子どものために父親だからできる「遊び」を創作する講座を開催する。家庭でも役立つものを製作することで、母親からも喜ばれるものを目指します。
②平成28年6月25日(土) 10:00～12:00	尾崎 暁子 氏	弘前市駅前こどもの広場主任保育士	遊びの創作～考えを形に～	
③平成28年7月2日(土) 10:00～12:00	弘前大学教員・学生研究会「らぶちる -Love for children-」		遊びの実践～共に楽しむ～	





**託児付き育児支援連続講座**  
**\*パパラボ\*あそび研究所**  
～父親だって子育てがしたい!!そして家族に褒められたい!!～

遊ぶことは学ぶ事。子どもは遊びを通して様々な経験をし、たまたまの学びと知恵を身につけていきます。遊び相手によってそれぞれの役割があり、父親が遊び相手として果たす役割は非常に大きいと考えられています。  
お子さんの離れが輝くような、パパだからこそできるダイナミックな「遊び」を一緒に作りませんか。

【コーディネーター】  
弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎 氏  
弘前市駅前こどもの広場 主任保育士 尾崎 暁子 氏  
【ファシリテーター】  
弘前大学教員・学生研究会「らぶちる-Love for Children」

会場：ヒロロ3階（駅前こどもの広場多目的室、イベントスペース）  
対象：主に未就学児の父親（先着20人）  
※①と②の託児は15人まで、③はお子さんと一緒に参加。  
参加費：無料  
申込締切：6月13日(月)  
主催：弘前大学生涯学習教育研究センター・弘前市

**内容・日時**

① 遊びの企画～学び考える～  
6月18日(土)  
10時～12時

子どもに関する活動している学生と共に学びながら、主体的な役割を担って子どもが夢中になれる遊びを考える時間です。

② 遊びの制作～考えを形に～  
6月25日(土)  
10時～12時

1回目で考えた遊びの形にしています。参加者同士協力して、遊具やキッズ付きの広いお家を作るのも楽しそうですね。

③ 遊びの実践～共に楽しむ～  
7月2日(土)  
10時～12時

お子さんと一緒に最後の仕上げをして手作りの遊びの世界を親子で楽しみます。

※①と②の託児は15人までです。  
③はお子さんと参加できます。

**■お申し込み■**

弘前市駅前こどもの広場  
TEL：0172-35-0156

※お電話または窓口で、参加される方の氏名、連絡先をお知らせください。  
(託児を希望される場合は、お子さんの氏名、性別、年齢をお知らせください。)

**■お問い合わせ■**

弘前市駅前こどもの広場  
弘前大学生涯学習教育研究センター  
TEL/FAX：0172-39-3146

### 託児付の育児支援連続講座「\*パパラボ\*あそび研究所」

コーディネーター：深作 拓郎（弘前大学生涯学習教育研究センター 講師）  
尾崎 暁子（弘前市駅前こどもの広場 主任保育士）  
ファシリテーター：弘前大学教員・学生研究会「らぶちる - Love for children -」

有効回答票数：10票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	4	3	2		1
パパ同士のコミュニケーション		2	2	4	2





問 参加しようと考えた理由を教えてください。

- ・お母さんにオフ日を!
- ・妻を通じて、尾崎先生の紹介で参加。
- ・面白い取り組みと思い参加を決めた。
- ・知り合いからの招待。
- ・パパラボということで、身近な段ボールでどんな玩具が作れるか興味があった。
- ・楽しそうだったので。

問 参加により、どのような気づきがありましたか。心境の変更があればお書きください。

- ・シンプルなものほど子どもは遊ぶ。(ルールは無用)
- ・父親同士が繋がるような仕掛けが必要と感じる。しかし、こういったコミュニティは、つかず離れずの微妙な距離感を保つことが大事。
- ・手作りする玩具の大切さ。子どもが面白いと感じる事、大人が面白いだろうと思って作ることのギャップ。
- ・子ども達の遠慮のない笑顔が見れた。
- ・工夫することから段ボールで遊びの幅が広がる。
- ・大人がルールを作ってはいけないなど感じた。
- ・ママとパパのコミュニケーションの取り方の違い。パパ同士のつながりもイクメンが増えてきた現在は大事だと思った。
- ・子どものイメージ力。

問 参加した感想等を自由にお書きください。

- ・また参加したい。
- ・とても楽しかった。
- ・男なので女よりもコミュニケーションを深めるのは難しかったかも(作業に夢中)。
- ・または是非参加したい。
- ・機会があれば次回参加してみたい。
- ・汗をかきながら工作ができて良かった。子ども達の遊ぶ姿を想像するのが楽しかった。
- ・子ども達と一緒に作って楽しむことも大事だと思った。いろんな遊びがあることに気付いた。参加させていただき感謝。
- ・作業時間が短く、パパ同士のコミュニケーションを深めるには時間が足りないと感じた。
- ・他の人と話ができて良かった。

## 託児付育児支援連続講座振り返り「\*パパラボ\*あそび研究所」

尾崎 暁子

(弘前市健康福祉部子育て支援課駅前こどもの広場 主任保育士)

- ・参加人数が心配されたが、お父さんの講座としては10名がちょうど良かったのではないかなと思う。(これ以上多いと自分は参加しなくても良かったのではないかなと思ってしまう。人数が少ないので、3回来なければ迷惑がかかる。等)
- ・大学生と一緒にという事で、意見や考えを出しやすかったのではないかなと思う。
- ・3日目は製作した後何をしていいかわからない様子だったので、作る余裕のある方には何かお願いして作ってもらうか、係をお願いしたほうが良かったように思う。
- ・3日目の配置が一番目立つところにダイナミックな新聞がきてしまったので、逆に目立つ位置にお父さんが製作したものがくるようにして、「すごい」と言ってもらえるようにしたほうが良かったように思う。
- ・参加者の奥さんからは、自分の時間ができて良かったと大好評だった。

今回は「お父さん」という難しい講座をお願いしてしまいましたが、弘前大学という事で、協力しよう、参加しようと思っていただけたのではないかなと思っています。「お父さん講座」は必要なかと良く聞かれますが、今回実施し、参加させていただいて、もしかして弘前でもネットワーク作りが出来るのでは!?!と思うほど皆さん積極的でとてもいい会になったと思います。ぜひまた「お父さん講座」やってみたいと思いました。

企画、準備、進行等すべてお任せで本当に申し訳ありませんでした。

楽しい時間をありがとうございました。

むつ市講演会「文化ボランティアガイドの育成を目指して」				
対象者	北の防人大湊ボランティアガイド養成講座受講者、その他ボランティア活動に興味・関心のある者		受講者数	延べ 24名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催・後援	むつ市教育委員会・むつサテライト	
会場	みどりのさきもり館			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成28年6月18日(土) 14:30~16:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	「文化ボランティアガイドの育成を目指して」	ボランティアガイド養成講座参加者が、ボランティア活動とはどのようなものを学び、実践に生かすこと、また、ボランティア活動に興味のある参加者は、ボランティア活動に対して理解を深めることを目的とします。



## 弘前大学生涯学習講演会

むつ市で弘前大学の講義を聴くことができます！

1回目は、水源地公園周辺を案内する北の防人大湊ボランティアガイド養成講座の一つとして、文化ボランティアの基礎を学ぶ講演会を開催します。ボランティアに興味がある方は是非ご参加ください。

2回目は、高齢社会が進む青森県での、家族介護に関して考える講演会も開催します。誰しもが直面する可能性がある介護問題について、みなさんで考えてみませんか？

### 1回目

演題：「文化ボランティアガイドの育成を目指して」

講師：弘前大学生涯学習教育研究センター  
准教授 藤田 昇治 氏

期 日：6月18日(土)

時 間：14:30 ~ 16:00

会 場：みどりのさきもり館

定 員：30名



### 2回目

演題：「地域包括ケアの時代の家族介護を考える」

講師：弘前大学保健学研究科  
教授 木立 るり子 氏

期 日：7月2日(土)

時 間：15:00 ~ 16:30

会 場：むつ市立図書館 あすなろホール

定 員：80名



受講料：無料  
事前申込：不要

★あおり県民カレッジ・高校生スキル  
アッププログラム単位認定講座です。  
L1講座で2単位取得できます。



主 催：弘前大学生涯学習教育研究センター・むつ市教育委員会  
後 援：むつサテライトキャンパス  
問合せ先：むつ市教育委員会 生涯学習課  
0175-22-1111 (内線3144)

「文化ボランティアガイドの育成を目指して」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：23票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	6	10	7		
内容	7	8	7	1	
資料	2	14	6	1	
話し方	8	7	7	1	
雰囲気	7	10	5	1	

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男	1	1			1	3	6	
女	2			1	1	2	1	
無回答					1	3		

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌	1							
新聞		1			1	7	4	
DM					1	1	2	
テレビ・ラジオ				1				
知人から								
インターネット								
その他	2				1			
無回答							1	

むつ市講演会「地域包括ケアの時代の家族介護を考える」				
対象者	市内高校生、一般		受講者数	延べ 50名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催・後援	むつ市教育委員会・むつサテライト
会場	むつ市立図書館 あすなるホール			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成28年7月2日(土) 15:00~16:30	木立るり子氏	弘前大学保健学研究科 教授	「地域包括ケアの時代の家族介護を考える」	青森県内における介護する側（被介護者の家族）の諸問題を知り、前向きな介護生活を営むための術を知ることを目的とします。



### 「地域包括ケアの時代の家族介護を考える」

講師：木立 るり子（弘前大学保健学研究科 教授）

有効回答票数：32票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	4	21	6	1	
内容	13	11	6		2
資料	15	12	4		1
話し方	8	16	7	1	
雰囲気	8	16	7		1

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男	5	1					2	
女	10	1			2	4	3	
無回答	1				1	1	1	

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌	4					3	3	
新聞								
DM							1	
テレビ・ラジオ					1			
知人から	3	1			1			
インターネット								
その他	8	1			1	2	1	
無回答	1						1	

## 平成28年度弘前大学生涯学習講演会事業評価 (平成28年度は各回別テーマで全2回実施)

新 保 詠美子  
(むつ市教育委員会生涯学習課)

### ○事業の効果

むつ市には大学のような高等教育機関がないので、進路を考えている高校生にとって身近で大学の雰囲気を感じることができる良い機会である。また、専門的な知識を得ることができる機会なので、参加した市民の学びに対する向上心が高まる。

### ○担当者意見

今回は実践者向けと一般市民向けを実施した。1回目の実践者向けの講演会は、北の防人大湊ボランティアガイド養成講座とのタイアップで実施したので、講座受講者が多く参加した。講演内容は、実践者向きとして設定したものの、高校生参加者から「ボランティアに対する考えが変わった。」という感想もあり好評であった。しかし、講演の途中で流した映像の長さが少し物足りないという意見もあったことから、事前に講師との直接的な打ち合わせが必要であると感じた。

第2回目の一般市民向けの講演会は、同日同会場で別の講演会が開催されたものの特段、影響を受けることなく、昨年度よりも多い人数の参加であった。本講演会は、高校生スキルアッププログラム単位認定になっているため、例年多数の高校生が参加している。今年度も多くの高校生が参加していた。高校生以外にも、将来のために、または現在まさに介護に携わり、講演会の内容を参考にしようとする参加者も多く見られた。講演会終了後、講師へ直接質問していた参加者もあり、会場を閉じる寸前まで質問が続いていたので、質疑応答の時間に余裕を持つことが必要であったと感じた。参加者からの感想は、「ためになった。」という声が多かったことから、講演内容は市民のニーズに合っていたと感じた。

高校生・保護者のための学習講座「大学で『学ぶことのおもしろさ』を体験しよう」				
対象者	高校生とその保護者		受講者数	延べ 65名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	聖愛高校PTA
会場	弘前大学総合教育棟306講義室			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成28年7月2日(土) 14:30~16:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	「大学進学や就職を考える際に大切にしたいこと」	「大学での授業を体験してみたい」という人や、大学進学を希望している人、そして就職を含めて「進路について考える上で参考にしたい」という人とその保護者を対象に、大学で学ぶ意義や就職を考える重要な点を理解する機会とします。



弘前大学公開講座 地(知)の拠点 参加無料

**高校生・保護者のための学習講座**  
「大学で『学ぶことのおもしろさ』を体験しよう」

「大学での授業を体験してみたい」という人や、大学進学を希望している人、そして就職を含めて「進路について考える上で参考にしたい」という人とその保護者を対象に、大学で学ぶ意義や就職を考える重要な点を理解する機会です。

**【テーマ】**  
「大学進学や就職を考える際に」

日時：平成28年7月2日(土) 14時30分~16時  
講師：弘前大学生涯学習教育研究センター准教授  
藤田 昇治 氏  
会場：弘前大学総合教育棟306講義室 ※変更となりました。  
※ 裏面の地図をご確認ください。  
対象：高校生・保護者 定員：30名 受講料：無料  
主催：弘前大学生涯学習教育研究センター  
共催：聖愛高校PTA

申込先：弘前大学生涯学習教育研究センター  
申込方法：①学生氏名、②学校名、③学年、④保護者氏名(参加される場合)、⑤住所、⑥電話番号をご記入のうえ、ハガキ・FAX・E-mailでお申し込みください。  
個人・各高校からの申込みも可能です。  
お気軽にお申し込みください。  
TEL/FAX 0172-39-3146  
E-Mail sgcenter@hirosaki-u.ac.jp

**「大学進学や就職を考える際に大切にしたいこと」**

講師：藤田 昇治 (弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授) 有効回答票数：55票

**講座の評価**

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
内容	20	30	4		1

**受講のきっかけ (複数回答可)**

大学で学び たかった	内容に興味 があった	先生からの すすめ	友人・親か らのすすめ	進路選択の 参考	弘大を受験 したい	PTAの事業 となっていた	その他	無回答
12	22	5	8	38	12	15		

## 聖愛高校PTAとの共催事業を終えて

藤 田 昇 治

(弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授)

今年度初めての事業として、聖愛高校のPTAと共催による事業を7月2日(土)に実施した。高校生・保護者のための学習講座で、「大学で『学ぶことのおもしろさ』を体験しよう」というテーマで開催した。これは、昨年度まで実施してきた「高校生のための学習講座」を、開催回数を1回にし、高校のPTAと共催で実施する形に発展させたものである。

事業の主たる狙いは、「大学での授業を体験してみたい」という人や、大学進学を希望し「進路を考える上で参考にしたい」という生徒達に、弘前大学で「学ぶ機会を提供する」ということである。

講座の内容では、自然科学・人文科学・社会科学のエッセンスを紹介するとともに、高校生と保護者が講座終了後その内容をもとに話し合えることも期待して、職業選択や進路を考える上で参考になるように配慮した。

当日は、高校生と保護者・教員、あわせて65名の参加があった。「弘前大学で学ぶ」ということへの期待・関心もあって、当初の予想より多くの参加を得ることができた。昨年度までと比較すると、大幅な参加者増である。アンケートで示された参加者の感想は概ね好評であり、また、事業共催の担当者からも高く評価された。

昨年度までは、直接高校に出向いて広報活動を行ったのだが、必ずしも期待された参加者を得ることができなかったこともあり、今年度、あらたな挑戦として、高校のPTAとの共催で事業を開催しようとしたのである。なお、聖愛高校以外の高校生・保護者も参加対象にしていたが、申し込みは無かった。

来年度以降も、高校側と連携した事業を計画する上で、貴重な経験の蓄積ができたのではないかと考える。

## 七戸町講演会「『福祉のまち』づくりをめざして」

対象者	民生委員、一般町民	受講者数	延べ 81名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	七戸町教育委員会	
会場	①、② 七戸町中央公民館			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年7月14日(木) 13:30~15:00	木立るり子氏	弘前大学保健学研究科 教授	「家族介護と地域ケア」	民政委員を主たる対象として、地域課題・生活課題について理解を深めてもらい、あわせて行政や企業・地域社会組織などとの連携の下に、「福祉によるまちづくり」を目指します。
②平成28年10月5日(水) 13:30~15:00	藤田 昇治氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	「トークと歌で広げよう、他者との輪・福祉の輪」	



### ①「家族介護と地域ケア」

講師：木立 るり子（弘前大学保健学研究科 教授）

有効回答票数：35票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	3	11	13	3	5
内容	4	11	16		4
資料	5	12	14		4
話し方	3	11	17	1	3
雰囲気	4	9	17		5

**弘前大学生涯学習  
生涯学習地域連携講座受講者募集**

急に訪れる家族の介護  
介護者の負担  
介護のための離職  
貧困 孤独死  
一人で悩まないで！  
**地域の方で解決しましょう**

**日時** 平成28年7月14日(木) 13:30~15:00

**会場** 七戸中央公民館 大ホール(七戸町字森ノ上 210番地)

**内容** 演題：「家族介護と地域ケア」 ★★加賀健利★  
講師：木立 るり子 先生（弘前大学大学院保健学研究科 教授）

**対象** 一般、民生委員 40名 ※町外の方の参加も可能です。

**申込み方法** ①氏名、②郵便番号、③電話番号を明記の上、**FAX、Eメール**、または直接でも申込みください。  
**〆期：平成28年6月24日(金)**

**申込み問合せ** 七戸町教育委員会生涯学習課 担当：今泉  
TEL 62-9702 FAX 62-6256  
E-mail: kyouku-imazumi@town.shichinohe.lg.jp

主催：弘前大学生涯学習教育研究センター / 七戸町教育委員会

**弘前大学生涯学習  
生涯学習地域連携講座受講者募集**

「トークと歌」という、いつも異なる視点で楽しみながら地域福祉を考えます。

**日時** 平成28年10月5日(水) 13:30~15:00

**会場** 七戸中央公民館2階 第1・第2会議室(七戸町字森ノ上 210番地)

**内容** 演題：「トークと歌で広げよう、他者との輪・福祉の輪」  
★★加賀健利★  
講師：藤田 昇治 先生（弘前大学生涯学習教育研究センター准教授）

**対象** 一般、民生委員 40名 ※町外の方の参加も可能です。

**申込み方法** 氏名と電話番号を、電話、FAX、Eメールでも申込みください。  
**〆期：平成28年9月30日(金)**

**申込み問合せ** 七戸町教育委員会生涯学習課 担当：今泉  
TEL 62-9702 FAX 62-6256  
E-mail: kyouku-imazumi@town.shichinohe.lg.jp

主催：弘前大学生涯学習教育研究センター / 七戸町教育委員会



## ②「トークと歌で広げよう、他者との輪・福祉の輪」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：36票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	23	6		1	6
内容	17	9	2		8
話し方	20	5	4	1	6
雰囲気	27		3		6

### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男						9	1	
女					8	25	16	
無回答					3	4	5	

### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌						4	3	
新聞								
DM						1		
テレビ・ラジオ								
知人から						1		
インターネット								
その他					10	27	17	
無回答					1	5	2	

## 平成28年度 七戸町生涯学習講座「『福祉』のまちづくりをめざして」内容評価

今 泉 今日子

（七戸町教育委員会生涯学習課 社会教育係）

### 1. 成 果

第1回の「家族介護と地域ケア」では、参加者の大半を占める民生委員の問題点に触れ、民生委員では家族の深い問題にまで入り込めない事を挙げ、家庭の問題の根源である「世話になる罪悪感」や「家制度」についてご講演頂き、家族や地域について今までよりも深い視点で見ることができた。第2回の「トークと歌で広げよう、他者との輪・福祉の輪」については、子どもから老人まで全ての世代が知っている「歌」を通して色々な話題提供をする事で、先人の知識や経験、かつての出来事などを今の世代に伝えることが出来、それが輪となるという事を実感した研修であった。

これらの講座を通して、民生委員の方々においては、民生委員という自己の役割を改めて考えるよい機会となっており、また民生委員には60～70代の方が多く、自身の老後の不安を解決するよい材料ともなっているようであった。一般町民の参加者についても同様の年代の方々が多く、高齢化社会の中で生き抜く方法について興味を持って参加しており、それぞれの課題解決のきっかけとなったようであった。

### 2. 課 題

この連携事業は、一般町民向けに広報で募集をした上に、民生委員にも個別に案内している。その結果、民生委員の方の出席が大半を占めているのだが、特に今年度の1回目のテーマについては認知症の方に対するケアの話題が多かったのも、より地域福祉の向上へ繋げるよう、民生委員だけではなく保健協力員等の保健分野の方々にも声掛けをするべきであった。

弘前市公民館関係職員研修会			
対象者	公民館職員、生涯学習担当職員、社会教育委員	受講者数	延べ 92名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	弘前市教育委員会
会場	①泉野多目的コミュニティ施設、②弘前大学総合教育棟2F 大会議室、 ③弘前市立千年公民館		
日時	講師	所属	実施概要
①平成28年7月14日(木) 14:00～16:00	阿部 恵子 氏 藤田 昇治 氏	堀越公民館 社会教育指導員 弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	今日、健康問題や教育問題、地域活性化、住民の「絆づくり」など、様々な課題が生じています。こうした中で、市内地区公民館や全国の公民館の活動の実践例などをもとに、社会教育・生涯学習の担当職員として必要とされる専門的知識・技能の修得を目指します。
②平成28年10月14日(金) 13:30～16:00	藤田公仁子 氏 藤田 昇治 氏	富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授 弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	
③平成28年12月14日(水) 14:00～16:00	船水 則義 氏 藤田 昇治 氏	千年公民館 少年教育指導員 弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	



### ① 「堀越公民館の少年教育のあゆみ」

事例発表：阿部 恵子（堀越公民館 社会教育指導員）

「青少年を対象とした事業をどのように展開するべきか」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：39票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
前半	30	9			
後半ワークショップ	16	22			1

## ②「学校－地域－公民館」

講師：藤田 公仁子（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門 教授）  
藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）  
有効回答票数：9票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
前半	2	7			
後半ワークショップ	6	3			

## ③「地区社協との共催事業～三世代交流もちつき大会～」

事例発表：船水 則義（千年公民館 少年教育指導員）  
「地域組織との「協働・協同」により事業の発展をめざそう」  
講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）  
有効回答票数：25票

### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
前半	5	18	1		1
後半ワークショップ	7	17			1

### 参加した動機・理由（複数回答可）

	第1回	第2回	第3回
公民館の仕事について基本的なことから学びたかったから	15		5
ワークショップに関心を持ったから	2	2	1
上司に参加するようすすめられたから	9	3	5
友人・知人からすすめられたから			
日常業務の参考にしたかったから	21	3	14
研修に参加することは、当然だと思っていたから	11	3	4
前にも研修会に参加して参考になったから	10	2	7
その他：	1		2

## 平成28年度 弘前市公民館関係職員研修会を終えて

高 森 紀 之  
(弘前市教育委員会 生涯学習課)

昨年度に引き続き、弘前大学を会場に1回、事例発表担当公民館等を会場に2回、公民館関係職員研修会を開催しました。

弘前大学を会場とした研修会では、国で進めている「学校と地域の連携・協働」に繋がるテーマ（「学校-地域-公民館」）を設定し、学校と地域を結ぶ公民館活動の在り方について講義と演習を通して、今後の事業の在り方、公民館の在り方について参考となる研修となりました。

また、今年度で4年目となった地区公民館の事例発表は、これまで他の地区公民館の発表を受けていることもあり、プレゼンも上手くできており、事業の企画・実施以外の部分においてもこの研修を通して職員の能力向上が図られていると感じています。さらには、発表後の質疑においても発表事例を深く掘り下げた質問が多く、成果と課題の共有が図られています。

各公民館の事例を通しての成果や課題等についてのワークショップは、抽象的なものではなく個々の事業の具体的な内容であることから、情報共有を図ることにより他館での事業実施にあたっての参考となる内容となっています。さらに事例発表担当公民館側から見ると実施者側で想定している成果以外の成果の発見や、課題の共有により、課題解決に向けた糸口を見出す機会に繋がっています。

今年度の事例発表は、「堀越公民館の少年教育のあゆみ」、「千年公民館の三世代交流事業」の2事例で、共に子どもが関係する事業の発表となりました。これまでも少年教育分野に関係する事例が多く発表され、情報共有されてきていることから、次年度以降は少年教育分野以外の領域に関する事例についても、成果や課題等について公民館全体で情報共有ができるよう検討していきます。

最後に、今年度の公民館関係職員研修には延べ92名の参加者があり、多くの職員で成果・課題等を共有でき、各公民館の今後の事業展開の参考となっていることから、次年度以降も引き続き実施していきたいと考えています。

「トークと歌でたどる、私たちの昭和」			
対象者	一般、地区老人クラブ会員	受講者数	延べ 59名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	弘前市教育委員会、弘前市立清水公民館
会場	弘前市立清水公民館		
日時	講師	所属	実施概要
平成28年 8月 9日(火) 10:00~11:30	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	自分達が歩んできた昭和とりわけ戦後 にという時代を振り返るとともに、当時流行 した歌と一緒に歌うことで、地域住民同士 の交流を深めます。



### 「トークと歌でたどる、私たちの昭和」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：46票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	23	14		1	8
内容	12	18	3		13
話し方	10	4	14	4	14
雰囲気	23	1	8		14

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男						2	11	
女			1			3	25	
無回答					1		2	1

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌			1		1			
新聞								
DM								
テレビ・ラジオ								
知人から						1	16	
インターネット								
その他						3	20	
無回答						1	2	1

## 弘前大学連携事業「トークと歌でたどる、私たちの昭和」を開催しました。

千葉 千鶴子

(弘前市立清水公民館事務長兼社会教育指導員)

平成28年8月9日(火) 10:00~11:30 弘前市立清水公民館集会室において、清水地区老人クラブ連合会と弘前市立清水公民館共催の研修会で清水地区老人クラブ会員、一般市民を対象とした、弘前大学連携事業「トークと歌でたどる、私たちの昭和」は、藤田昇治氏を講師として行なわれ、男性21名と女性36名、そして鱒ヶ沢教育委員会教育課から女性2名の計59名が参加されました。

イベントは、藤田昇治氏が選んだ昭和の歌17曲にちなんだ映像やトークの後、一曲ずつ伴奏に併せて、皆さんで歌い上げました。〈戦後のスタート〉として「リンゴの唄」から始まり、最後は参加者の手拍子も加わり、「青い山脈」で終了しました。



参加者の方々からは、「懐かしい歌を歌えました。」、「楽しい時間を過ごしました。」、「参加して、とても楽しかった。」等の声をいただきました。

清水公民館では高齢者教室事業の参集を主に各老人クラブ(4クラブ)会長へお願いしています。老人クラブ会員減少により、活動財源の危機にあると聞いていますが、運営費を駆使してジャンボタクシーを使うクラブ、運転ができない高齢者や足腰の悪い高齢者を運転ができる元気な高齢者が一人で何度も行き来するクラブと、今回の研修会に参加者が多かったのは、研修内容と各老人クラブ会長が会員の勧誘・口コミなどにご尽力頂いたからだと思います。

公民館としては、これからも常に情報収集のアンテナを広げ、高齢者にとって魅力ある事業を目指していきたいと思っています。

子どもの育ちを考えるゼミナール			
対象者	子どもに携わる職業（教員・保育者・児童厚生員等）、実践者（子ども会、NPO等）、子どもの育ち・学校外教育に関心のある方		受講者数 延べ 54名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	—
会場	① 弘前大学人文社会科学部共用スペース（307） ②～⑤ 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室		
日時	講師	所属	実施概要
①平成28年9月14日(水) 18:30～20:30	深作 拓郎 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター講師	『子ども白書2016』を手掛かりに、子どもの成育環境についての的確に捉えながら、自由に意見を交わすことで相互学習を深めていくことを目的に開催する。
②平成28年10月12日(水) 18:30～20:30			
③平成28年11月9日(水) 18:30～20:30			
④平成28年12月14日(水) 18:30～20:30			
⑤平成29年1月5日(木) 18:30～20:30	森本 扶 氏	子ども白書編集委員会編集委員長	



参加無料

### 子どもの育ちを考えるゼミナール 弘前

『子ども白書 2016』を手掛かりに、子どもの成育環境について自由に意見を交わすことで相互学習を深めていきましょう。

**\* 対象 \***  
子どもに携わる職業(教員・保育者・児童厚生員等)、実践者(子ども会・NPO等)  
子どもの育ち・学校外教育に関心のある方 15名程度



**\* 日時 \***  
9月～1月の毎月第2水曜日 18:30～20:30  
①平成28年9月14日(水) ②平成28年10月12日(水)  
③平成28年11月9日(水) ④平成28年12月14日(水)  
⑤平成29年1月5日(木)

**\* 会場 \***  
①～③ 弘前大学人文社会科学部 3階 共通スペース(部屋番号307)  
④、⑤ 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室 (人文社会科学部 3階)

**\* 受講料 \***  
無料 (テキスト代を別途徴収)

**\* 主催・講師 \***  
弘前大学生涯学習教育研究センター  
深作拓郎  
(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)

**\* 申し込み・お問い合わせ先 \***  
弘前大学生涯学習教育研究センター  
TEL・FAX: 0172-39-3146 【受付時間 10:30-16:00(平日)】  
E-mail: sgcenter@hirosaki-u.ac.jp **申込締切日: 9月7日(水)**

※ お寄せ頂いた個人情報の管理には万全を期しております。  
本学事業の目的以外に使用することはありません。

講師：深作 拓郎（弘前大学生涯学習教育研究センター 講師）  
森本 扶（子ども白書編集委員会編集長）

有効回答票数：11票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	4	4	3		
内容	4	5	1		1
資料	5	5	1		
雰囲気	7	3	1		

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男					1			
女	1	3	1	1	2			
無回答					2			

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌					2			
新聞								
DM				1	1			
テレビ・ラジオ								
知人から		2			1			
インターネット								
その他	1	1	1					
無回答					1			

## 「子どもの育ちを考えるゼミナール」

深 作 拓 郎

（弘前大学生涯学習教育研究センター 講師）

「子どもの育ちを考えるゼミナール」は8年目を迎えた。

最年少は高校生・最年長は…（笑）と、世代や立場を超えて「子どもの主体性」を護るための大人の役割・環境醸成とは何か、例年同様『子ども白書』（本の泉社）を用いて子どもの成育環境の現状を捉えながら相互学習を行っていった。

今年度は例年より少ない5回の開催であったこともあり、輪読した項目も「18歳選挙権と子どもの参加」「家族」「子どもの貧困・子ども食堂」と限られたことは残念であるが、各回のレポートを①子ども白書、②参加者各自の実践、の2本立てとしたこともあり、より複層的に議論を深めることができた。

最終回では『子ども白書2016』編集委員会委員長の森本扶氏をお招きして、ゼミ生3名（参加2年目の高校生、6年目、7年目の社会人）から、「子ども白書をこう読んだ」と題したレポート発表と森本氏からの解説、熱い討論も行うことができた。

加えて、各回の報告レジュメがしっかりとした内容になってきていることも成果として挙げられる。自分の想いや考えを相手に伝わるように「話す・読む・書く」という過程が熟してきているのではないだろうか。

2016年には弘前と八戸で「こどものまち」が行われた。いずれも、このゼミの受講者たちが中心メンバーでゼミでの学習内容を事業化させていったが、一部企画・運営・参加になってしまっている。ゼミでの学習成果と共通実践がよりリンクできるように工夫させていくことが課題である。

**日本社会教育学会第63回研究大会会場校企画 弘前大学生涯学習教育研究センター開設20周年企画「地域づくりと大学開放」**

<b>対象者</b>	日本社会教育学会会員、青森県内の社会教育行政関係者、大学開放に関心のある市民一般	<b>受講者数</b>	延べ 110名
<b>主催</b>	弘前大学生涯学習教育研究センター	<b>共催</b>	—
<b>会場</b>	弘前大学総合教育棟 4階401教室		
<b>日時</b>	<b>講師/所属</b>	<b>実施概要</b>	
平成28年9月16日(金) 16:10~18:10	<p>&lt;登壇者&gt;                      コメンテーター：                      木村 純(北海道大学 名誉教授)                      発表者：                      藤田 昇治(弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授)                      坂本 徹(青森県総合社会教育センター 所長)                      相馬 康穂(プロジェクトおおわに事業協同組合)                      司 会：                      藤田 公仁子(富山大学地域連携推進機構生涯学習部門 教授)                      深作 拓郎(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)</p>	<p>「地域づくりと大学開放」というテーマのシンポジウムを開催することになりました。また、弘前大学生涯学習教育研究センターが開設20周年を迎えたことから共催事業とし、広く社会教育・生涯学習に関わりのある方・興味関心のある方にも参加していただける企画としました。</p> <p>◆内 容                      取り上げる内容は                      ①自治体と共催した大学開放を中核に据えて展開してきた弘大生涯学習教育研究センターのこれまでを振り返ります。                      ②社会人の学び直し(高齢世代・現役世代)を科目履修制度、「学習相談」機能との関連からも検討していきます。                      ③地域が抱える課題解決に向けて協働するという機能への要望から、地域と大学のコーディネート機能について検討します。                      ④自治体社会教育、住民の地域づくり運動において「大学開放」がどう貢献してきたのか、批判的に捉えていきます。</p>	







弘前大学生涯学習教育研究センター・日本社会教育学会第63回研究大会 共同企画

## 「地域づくりと大学開放のシンポジウム」

2016年、弘前大学生涯学習教育研究センターは開設20周年を迎えました。  
これまでも県内自治体・教育委員会と共催による公開講座・講演会の開催などを通して、  
大学開放・大学の地域貢献を積極的に実施してまいりました。  
この度日本社会教育学会第63回研究大会が本学で開催されることから、共催企画としてシンポジウムを開催することになりました。  
地域が抱える多様な課題についての住民の学習活動と課題克服に向けた実践、それとの関わりにおける「大学開放」の内容・意義、今後の「地域づくり」や地域生涯学習の推進などの観点から考えていきます。  
参加無料！是非ともご参加ください。

### 登壇者

コメンテーター：木村 純（北海道大学名誉教授）  
発表者：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター准教授）  
坂本 徹（青森県総合社会教育センター所長）  
相馬 康穂（プロジェクトおおわに事業協同組合）  
司会：藤田 公仁子（富山大学）、深作 拓郎（弘前大学）

日時 2016年9月16日（金）16：10～18：10

会場 弘前大学総合教育棟4階 401教室  
※公共交通機関のご利用をお願いいたします。

参加費 無料

（学会主催の他のプログラムへの参加は別途参加費が必要）

対象 大学開放に関心のある一般市民、自治体・教育行政関係者  
日本社会教育学会会員

主催 弘前大学生涯学習教育研究センター・日本社会教育学会

### お問い合わせ先

弘前大学生涯学習教育研究センター  
TEL・FAX：0172-39-3146【受付時間 10：30～16：00（平日）】  
E-mail：[sgcenter@hirosaki-u.ac.jp](mailto:sgcenter@hirosaki-u.ac.jp)



白神自然環境人材育成講座 [履修証明プログラム]				
対象者	白神山地で今やっている自分の活動を学術的にも考えたい人、白神山地をテーマに地域活性化に取り組みたい人		受講者数	第一期生 10名 ※延べ 191名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	—
会場	【1】弘前大学総合教育棟 304講義室、【2】弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室、【3】弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室、南部町農林漁業体験実習館チュリウス			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①～⑬ 平成28年10月6日(木) ～平成29年2月9日(木) 16:00～17:30	石川 幸男 氏 中村 剛之 氏	弘前大学白神自然環境研究所 教授 弘前大学白神自然環境研究所 准教授	【1】生物学の世界—生物多様性とその保全—	この講座は、弘前大学における履修証明プログラムに関する規程に基づくものであり、120時間以上の履修等の要件を満たした修了者には、履修証明書が発行されます。講座では、白神山地をはじめとする青森県の自然環境に深い見識を持ち、環境の保全に配慮しながら、自然資源の管理と活用をすることのできる人材の育成を目的としており、弘前大学の教養科目(96時間)と白神を深く学ぶ特設科目(47時間)を組み合わせた計10科目(143時間)の専門人材育成講座で、白神山地と周辺地域について体系的に学ぶことができます。特設科目の約半分が実査とワークショップからなり、実践的に学べるのが特徴です。 講義は、2年間をかけて学び、修了後は、弘前大学が実施する白神をテーマとした事業への参画や、地域に新たな価値をもたらすことが期待されています。
①平成29年1月19日(木) 17:40～19:10 ②平成29年1月26日(木) 17:40～19:10 ③平成29年2月2日(木) 17:40～18:40	石川 幸男 氏 中村 剛之 氏	弘前大学白神自然環境研究所 教授 弘前大学白神自然環境研究所 准教授	【2】白神保全論	
①～③ 平成29年2月11日(土) 10:00～12:00 13:00～15:00 15:10～17:10 ④平成29年2月18日(土) 10:30～15:30	竹内賢一郎 氏 坂本 崇 氏 工藤 雅世 氏 竹ヶ原 公 氏	西目屋村産業課 課長 弘前観光コンベンション協会事務局 局長 青森大学社会学部 教授 NPO法人ひろだいりサーチ 理事長	【3】白神観光戦略論	



つがる市連続講演会「地域課題・生活課題に取り組む人材育成を図る」				
対象者	一般	受講者数	延べ 19名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	つがる市教育委員会	
会場	①～③ つがる市生涯学習交流センター「松の館」			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年10月8日(土) 13:00～15:00	黄 孝春 氏	弘前大学人文社会科学部 教授	「中国経済の行方」	地域住民の多様な学習要求に応えるとともに、地域課題・生活課題に取り組み、課題解決を図ろうとする人材の育成を目指します。
②平成28年10月15日(土) 13:00～15:00	石塚 哉史 氏	弘前大学農学生命科学部 准教授	「TPPと地域農業」	
③平成28年10月22日(土) 13:00～15:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	「地方創生の課題に取り組もう」	



### ①「中国経済の行方」

講師：黄 孝春（弘前大学人文社会科学部 教授）

有効回答票数：8票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	4	2	1		1
内容	2	3	1		2
資料	2	2			4
話し方	2	3	1		2
雰囲気	3	4			1

### ②「TPPと地域農業」

講師：石塚 哉史（弘前大学農学生命科学部 准教授）

有効回答票数：5票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	2	2		1	
内容	2	1	2		
資料	2	3			
話し方	2	2	1		
雰囲気	1	3	1		

### ③「地方創生の課題に取り組もう」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：4票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	4				
内容	2		1	1	
資料		2	1	1	
話し方	1	3			
雰囲気	1	3			

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男			1			5	4	
女					3		3	
無回答						1		

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌							2	
新聞								
DM					3	3		
テレビ・ラジオ								
知人から								
インターネット			1					
その他						2	4	
無回答						1	1	

## つがる市・弘前大学公開講座事業内容評価書

越後谷 嶺

(つがる市教育委員会社会教育文化課 主査)

### 【概要】

今年度は「地域課題・生活課題に取り組む人材育成を図る」をテーマに公開講座を行いました。

「中国経済」「TPP」「地方創生」の3つをキーワードに、地域・生活の課題について理解を深めるために、弘前大学より3名の先生方をお迎えし、ご講義いただきました。

### 【内容】

- ・第1週(10/8)「中国経済の行方」では、未だに成長著しい中国経済について、その現状や経済成長の影響による中国国内の変化について学びました。
- ・第2週(10/15)「TPPと地域農業」では、TPPが地域に与える影響(食糧自給率等)についての講義でした。
- ・第3週(10/22)「地方創生の課題に取り組もう」では、少子高齢化、人口減少、地域格差等、地域の衰退が懸念される中で、いかに地方創生を図るのかという事について考えさせられました。

### 【成果】

本講座の常連さんが熱心な受講姿勢を見せて下さいました。

質疑応答では受講生が積極的に質問し、各回とも大いに盛り上がりました。

また、南部地方からの受講者もあり、受講生の新規開拓に可能性を見せることが出来ました。

### 【課題】

受講者数がのべ19名であり、定員の4分の1程度しかありませんでした。受講生増加のために、広報の方法、日時調整、学習内容などを工夫する必要を感じました。

常連受講者(60代以上)も大切にしつつ、20代~50代の方にも興味を持っていただけるような、学習テーマや参加しやすい日程を模索していきたいと思えます。

三沢市講演会「青森県の縄文遺跡と世界遺産」				
対象者	一般市民	受講者数	延べ 48名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	三沢市教育委員会	
会場	①～② 三沢市公会堂 3階 第8・9集会室			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年10月14日(金) 18:30～20:00	藤田 昇治氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	「文化財を活用し、地域の活性化を図ろう」	三沢市が現在取り組んでいる「文化ボランティア」の育成を図る事業の一環として、三沢市の縄文遺跡や地域に継承・保存されてきた文化財について理解を深め、さらにその活用を図ることの意義について学ぶ機会とします。
②平成28年10月21日(金) 18:30～20:00	関根 達人氏	人文社会科学部 教授	「北海道・北東北地域の縄文遺跡とその世界遺産としての価値」	



平成28年度三沢市公開講座  
**青森県の縄文遺跡と世界遺産**

三沢市が現在取り組んでいる、「文化ボランティア」の育成を図る事業の一環として、縄文遺跡や、地域に継承・保存されてきた文化財について理解を深め、さらにその活用を図ることの意義について学びます。文化ボランティアに興味のある方、地域の魅力について学びその知識を仕事に役立てたい方など、どなたでもご参加いただけます。

※受講料は無料となっておりますので、ぜひこの機会にご参加ください。

【本講座はあおり県民カレッジ単位認定講座です。4単位(全2回出席)】

10月14日(金)18:30～20:00  
**文化財を活用し、地域の活性化を図ろう**  
弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授 藤田昇治

10月21日(金)18:30～20:00  
**北海道・北東北地域の縄文遺跡と  
その世界遺産としての価値**  
弘前大学人文社会科学部 教授 関根 達人

会場 三沢市公会堂 3階 第8・9集会室  
定員 60名  
対象者 一般  
受講料 無料  
主催・共催 弘前大学生涯学習教育研究センター・三沢市教育委員会  
申込方法 氏名・住所・電話番号(差し支えなければ年齢・性別・職業)をご記入の上、下記申込先へ電話・FAX又は下記申込用紙にてお申込みください。申込み締め切りは10月3日(月)です。  
※お寄せいただいた個人情報管理には万全を期しております。本事業の目的以外に使用することは  
ありません。

申込先 三沢市教育委員会生涯学習課 TEL:0170-63-0111(内線300) FAX:0170-62-9863

..... 切り取り線 .....

受講申込用紙(平成28年度公開講座)

氏名(ふりがな)	電話番号	年齢	性別	職業
ご住所 千				

### ①「文化財を活用し、地域の活性化を図ろう」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：22票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	3	10	4		5
内容	3	6	6		7
資料	1	10	4	1	6
話し方	2	8	5	6	1
雰囲気	4	11	3		4

②「北海道・北東北地域の縄文遺跡とその世界遺産としての価値」

講師：関根 達人（弘前大学人文社会科学部 教授）

有効回答票数：14票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	5	7			2
内容	5	6	1		2
資料	5	5			4
話し方	5	8			1
雰囲気	4	7			3

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		2		2	2	6	3	
女						7	10	
無回答					2	2		

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌		1			1	11	6	
新聞								
DM						3		
テレビ・ラジオ								
知人から		1		1	3		3	
インターネット				1				
その他						1	1	
無回答							3	

平成28年度弘前大学公開講座「青森県の縄文遺跡と世界遺産」

沼 畑 有 乃

（三沢市教育委員会 生涯学習課 主査）

今年度は、「青森県の縄文遺跡と世界遺産」をテーマに講座を開催した。三沢市の縄文遺跡や、地域に継承・保存されてきた文化財について、またそれらを活用することの意義について学んだ。講師の方々の豊富な知識により、地域に伝わる文化の大切さを深く知る機会となり、参加者から大変好評だった。

メリット

- ・文化財を継承していくためには、世代を超えての交流や、コミュニケーションが大事という大きな気がつきがあった。
- ・多くの参加者が、今後、縄文遺跡について深く学んでいきたいと思えるきっかけとなった。
- ・地域の活性化についても考えることができた。
- ・国内の世界遺産についても知ることができた。また、世界遺産登録についての課題や、登録への難しさも学ぶことができた。
- ・県内に伝わる古い歌の映像が流れた際、偶発的に参加者が合唱し、一体感を得られた。
- ・今年度も受講料無料で開催できたことによって、市民の方々に気軽に参加していただくことができた。

デメリット

- ・昨年度に引き続き全2回の講座となった。弘前大学から講師をお招きして講座を開催する大変貴重な機会のため、来年度は回数増を目指す。

総合文化祭事業「大学生と語り合おう らぶちるカフェ」			
対象者	中学生、高校生	受講者数	延べ 100名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	—
会場	弘前大学人文社会科学部 3 階共用スペース (307)		
日時	講師	所属	実施概要
平成28年10月22日(土) 10:00~16:00 平成28年10月23日(日) 10:00~16:00	深作 拓郎 氏 弘前大学教員・ 学生研究会 「らぶちる -Love for children-」	弘前大学生涯学習 教育研究センター 講師	中高生を主対象に、日常のことや学校での生活、友人関係などについて、大学生と語り合う、「サロン形式」の交流会。

## 弘前大学総合文化祭事業 「大学生と語り合おう らぶちるカフェ」

深 作 拓 郎

(弘前大学生涯学習教育研究センター講師)

「らぶちるカフェ」の開設は今年で 5 年目となった。

総合文化祭に来場する小～高校生がらぶちるメンバーと自由に語り合うことで素になれる時間が創れることを目指し、サロンの空間と機能を提供している。

今年度は、開催直前に教室変更を余儀なくされ、どうにか人文社会学部棟で開催することができた。

事前の周知がないなかでも、毎年来室する常連の子どもたちを中心に約 100 名の来室者であった。

子どもたちが大学生と語り合う内容は、学校や大人への不満、将来のことなどが主であり、子どもたちが抱える深刻な悩みが垣間見え、子どもたちの常設的な居場所が必要であることを改めて感じた。

また、今年度の特徴としては、大学見学で来場した受験生とその家族が数名来室し、受験のことや合格後の生活等についてのアドバイスなども行ったことも特筆できる。このことから、学校や家庭とは違う「第三の領域」を求めている子どもたちへのアプローチが急務であることを改めて実感した。

学生提案型の事業としてノウハウの蓄積もされつつある。大学開放と学生の関連からも分析していきたい。

総合文化祭事業「あそびのサミット」			
対象者	小学生・中学生、高校生	受講者数	延べ 260名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	—
会場	弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室		
日時	講師	所属	実施概要
平成28年10月22日(土) 10:00~16:00 平成28年10月23日(日) 10:00~16:00	深作 拓郎 氏 弘前大学教員・ 学生研究会 「らぶちる - Love for children-」	弘前大学生涯学習 教育研究センター 講師	地域活動に携わる中高校生・大学生は、日ごろ地域社会において、幼児や小学生を対象に「遊び」を最大限に活用したさまざまなプログラムを展開している。彼らの最大限のツールである「あそび」を用いて、来場者にその活動の一端を紹介していくことを目的に実施する。 あわせて、この部屋を開設することにより、企画者が科学研究費助成金を受けて調査した「子どもの主体形成と大人の役割」の成果の一端を紹介していきたい。



## 弘前大学総合文化祭事業 地域活動に携わる中高校生・大学生発 「あそびのサミット」

深 作 拓 郎

(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)

この事業は、専任教員が科研費研究の調査を通じて関係構築をした、岩手・青森にて地域活動をしている中高校生を招き、「遊び」を通じて団体間の交流を図るとともに、それぞれの活動を来場者へアピールする機会とすることを目的に、学生・教員研究会「らぶちる」による学生提案型事業として開催した。


2日間で、5団体 30名の中高校生が来場した子どもたちや家族連れに遊びを通じた交流を図った。充実していた2日間ではあったが、例年より子どもの数が少ないこと、人通りの少ない場所であったことから、来場した子どもの数は約200名であった。また、中高校生と大学生間の意見交換などの交流を図ることや、一緒に企画・構想を練るといったことを省いたため、物足りなさも否めなかった。

今後は、企画・構想段階から中高校生との協同作業なども取り入れながら事業を推進していきたいと考えている。



総合文化祭事業「トークと歌で再発見する日本の自然・四季・文化」			
対象者	一般	受講者数	延べ 23名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	—
会場	弘前大学総合教育棟1階 共用会議室		
日時	講師	所属	実施概要
平成28年10月23日(日) 10:00~12:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習 教育研究センター 准教授	トークをまじえ、日本の自然・歴史・文化にちなんだ曲をみんなで歌い、参加者同士の交流を図ります。







**参加無料** 平成28年度 弘前大学総合文化祭  
生涯学習教育研究センターイベント

## トークと歌で再発見する日本の自然・四季・文化

トークをまじえ、日本の自然・歴史・文化にちなんだ曲をみんなで歌い、参加者同士の交流を図ります。



- トーク：藤田 昇治先生（弘前大学生涯学習教育研究センター准教授）  
伴奏者：今福 隆昌さん（弘前大学教育学部）
- 開催日：平成28年10月23日（日）
- 時 間：10:00 ~ 12:00
- 場 所：弘前大学総合教育棟 共用会議室（弘前市文京町1）
- 対象・定員：一般・30名
- 締切日：平成28年10月18日（火）
- 申込み方法：講座名・氏名・住所・電話番号・年齢・性別・ご職業をご記入のうえ、はがき・FAX・E-mail 等でお申込みください。  
※ご参加の皆様には、「歌集」をお返しします。この「歌集」を参考に歌って頂く予定です。





〒036-8560  
青森県弘前市文京町1番地  
弘前大学生涯学習教育研究センター  
TEL&FAX: 0172-39-3146（平日：10:30~16:00）  
E-Mail: saecenter@hrosaki-u.ac.jp

◆主催 弘前大学生涯学習教育研究センター  
※お寄せ頂いた個人情報は管理には万全を期しております。  
本学の目的以外に使用することはありません。

【国立大学フェスタ2016】  
協会ウェブサイト  
<http://www.janup/univ/fes>



### 総合文化祭事業

#### 「トークと歌で再発見する日本の自然・四季・文化」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：21票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	13	6		1	1
内容	10	6	2		3
話し方	11	4	3	1	2
雰囲気	13	1	3	1	3

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男				1		2	3	
女				1	2	2	3	
無回答						2	5	

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌					1		1	
新聞						1	4	
DM					1	4	4	
テレビ・ラジオ				1		1	1	
知人から				1				
インターネット				1				
その他							1	
無回答								

## 総合文化祭事業を終えて

藤 田 昇 治

(弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授)

総合文化祭事業として、今年度は「トークと歌で再発見する日本の自然・四季・文化」というテーマの事業を10月23日（日）に実施した。参加者は23人であった、これまでは、「トークと歌でたどる昭和戦後史」と題する事業として実施してきたが、「昭和戦後史」の振り返りを3年かけて終了したからである。このイベントは、「総合文化祭」に協賛した企画として、一般市民が気軽に参加できるものであり、また、「歌を歌う」ことを通じて自己実現を図ることができる事業である。曲の合間に「トーク」を交え、日本の自然・社会・歴史・文化状況などについて理解を深めることができるイベントでもあることから、例年20人前後の参加者があり、リピーターも多い。

今回は、高度経済成長期以降急速に地域の開発が進行したり農業生産において農薬の使用が普及したことで生物の生態系が変容してきたこと、生業の中心であった農林水産業が大きく変容する中で年中行事などの「文化的営み」が衰退してきたこと、さらに今日、「地球温暖化」といった問題が顕在化してきていること、などをベースとした「トーク」を行った。8月には、東北地方太平洋側に台風が直接襲来し、岩手県などで多くの被害を与えたということの記憶もあたらしく、「地球温暖化」ということについても身近なこととして受け取っているようであった。

選曲は、「赤トンボ」や「花」、「青い山脈」のように、耳なじんではいて参加者みんなが歌えるものとした。全体としては参加した多くの人は、歌とトークを楽しんでいた。参加者の大半が中高年であることから、とかく社会的に孤立しがちな状況にある中で、みんなと一緒に歌う機会は、「社会参加」の良い機会となっていることは、アンケートの結果からも言えるのではないか。

## 企業・行政・NPO法人で働く人のための学習講座 「企業経営・地域課題に理解を深めよう」

<b>対象者</b>	企業・行政・NPO法人で働く人、 企業している人、企業経営に関心のある人	<b>受講者数</b>	延べ 20名	
<b>主催</b>	弘前大学生涯学習教育研究センター	<b>共催</b>	NPO法人 R.ぷらっと	
<b>会場</b>	①～④ 弘前大学創立50周年記念会館 2階 会議室 2			
<b>日時</b>	<b>講師</b>	<b>所属</b>	<b>演題</b>	<b>実施概要</b>
①平成28年11月1日(火) 18:30～20:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習 教育研究センター 准教授	「企業経営の発展と 地方創生を図る」	企業経営者や企業 経営を目指す人、さら に企業や行政・ NPOで勤務している 人で企業経営に興味 関心がある人を対象 として、経営に関す る基礎的な知識の修 得を目指すとともに、 地域活性化の課題に ついて考える。
②平成28年11月8日(火) 18:30～20:00	秋葉まり子 氏	弘前大学教育学部 教授	「産直で測る地域の 活性化」	
③平成28年11月15日(火) 18:30～20:00	中澤 侃志 氏	NPO法人 「R.ぷらっと」 理事、弘前市職員	「経営者に求められる 基本的な資質と 能力の向上を図る」	
④平成28年11月22日(火) 18:30～20:00	土井 良浩 氏	弘前大学地域社会 研究科 准教授	「地域活性化を図る 担い手育成の課題」	



### ① 「企業経営の発展と地方創生を図る」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：7票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	2	3	1		1
内容	1	1	3		2
資料	1		4		2
話し方	1	1	2	1	2
雰囲気	1	2	2		2

### ② 「産直で測る地域の活性化」

講師：秋葉 まり子（弘前大学教育学部 教授）

有効回答票数：3票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度		3			
内容		3			
資料		1	2		
話し方		2	1		
雰囲気		1	2		

**生涯学習講座**

**企業・行政・NPO法人で働く人のための学習講座**

**企業経営・地域課題に理解を深めよう**

企業経営者や企業経営を目指す人、さらに企業や行政・NPOで勤務している人で企業経営に興味関心がある人を対象として、経営に関する基礎的な知識の修得を目指すとともに、地域活性化の課題について考えよう。

<b>第1回</b>	演題：「企業経営の発展と地方創生を図る」 日時：平成28年11月1日(火) 18:30～20:00 講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）	
<b>第2回</b>	演題：「産直で測る地域の活性化」 日時：平成28年11月8日(火) 18:30～20:00 講師：秋葉 まり子（弘前大学教育学部 教授）	
<b>第3回</b>	演題：「経営者に求められる基本的な資質と能力の向上を図る」 日時：平成28年11月15日(火) 18:30～20:00 講師：中澤 侃志（NPO法人「R.ぷらっと」理事・弘前市職員）	
<b>第4回</b>	演題：「地域活性化を促す担い手育成の課題」 日時：平成28年11月22日(火) 18:30～20:00 講師：土井 良浩（弘前大学地域社会研究科 准教授）	

会 場：弘前大学50周年記念会館2階 会議室2  
 対 象：企業・行政・NPO法人で働く人、企業している人、企業経営に関心のある人  
 定 員：20名 受講料：無料  
 第1回開講まで先着順となります。  
 申込み：会場の1階受付の申込書  
 主 催：弘前大学生涯学習教育研究センター  
           ・NPO法人「R.ぷらっと」

氏名・住所・電話番号・年齢・性別・職業をご記入の上、印刷・FAX・Eメール等で申し込みください。  
 開講まで個人用紙に記入して会場まで持参してください。

**【申込先・問合せ】**  
 〒030-8000  
 青森県弘前市大基町1番地  
 弘前大学生涯学習教育研究センター  
 TEL/FAX 0172-28-2146【受付時間 10:30～16:00（平日）】  
 E-Mail agcenter@irohki-u.ac.jp  
 〒7716 http://www.uro.oihira.ac.jp/agcenter/

### ③「経営者に求められる基本的な資質と能力の向上を図る」

講師：中澤 侃志（NPO法人「R.ぶらっと」理事・弘前市職員）

有効回答票数：6票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	1	5			
内容		5		1	
資料	1	2	3		
話し方	2	3	1		
雰囲気	1	3	2		



### ④「地域活性化を図る担い手育成の課題」

講師：土井 良浩（弘前大学地域社会研究科 准教授）

有効回答票数：4票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度		3	1		
内容		2	2		
資料		2	2		
話し方		3		1	
雰囲気		2	2		



#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男			1	2	1	4	4	
女				1	5			
無回答					2			

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌							4	
新聞								
DM					4	4		
テレビ・ラジオ								
知人から				1				
インターネット				1				
その他			1	1	4			
無回答								

## 企業・行政・NPO講座を終えて

藤田 昇 治  
(弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授)

企業・行政・NPO法人で働く人を主な対象とした事業として、今年は11月1日から22日までの毎週火曜日、夕方6時30分から8時の時間帯で、「企業経営・地域課題に理解を深めよう」を基本テーマとして、全4回の講座として実施した。第1回は「企業経営の発展と地方創生を図る」(生涯学習教育研究センター准教授・藤田昇治)、第2回「産直で測る地域の活性化」(教育学部教授・秋葉まり子)、第3回「経営者に求められる基本的な資質と能力の向上を図る」(NPO「R.ぶらっと」理事・中澤侃志及び相内理事長)、第4回「地域活性化を図る担い手育成の課題」(地域社会研究科准教授・土井良浩)、というテーマで企画実施された。

企業や行政等で働く人々の中には、必ずしも職場で十分働きがいを持つことができないでいる人、職場の人間関係で悩んでいる人、地域課題などに興味関心を抱きながらも積極的に関わりを持ちきれないでいる人なども多いと考えられる。この講座は、そうした人々のエンパワーメントを志向する事業としてスタートさせてきた、という経緯がある。今年度は、「経営」にも焦点を当てた講座として企画され、新たな受講者の掘り起こしと地域のニーズへの対応が図られた。

参加者数は、第1回7人、第2回3人、第3回6人、第4回4人とバラツキがあり、また、必ずしも多いとは言えない。それでも昨年度と比較して若干の増加を見せた。今後企業等への広報活動をいかに効率的に行うべきか、という課題を残している。しかし、参加者からの質問・疑問に講師が積極的に応じ、とりわけ第3回の場合は、実践報告という意味合いも強かった事から多くの質問が寄せられ、参加者にとっては実りの多いものとなった、ということができる。

鱈ヶ沢町はまなす学級「トークと歌でたどる、私たちの昭和」			
対象者	概ね65才以上の町民、一般	受講者数	延べ 37名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	鱈ヶ沢町教育委員会
会場	鱈ヶ沢町山村開発センター		
日時	講師	所属	実施概要
平成28年11月22日(火) 10:00~11:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習 教育研究センター 准教授	高齢社会において、自分自身の生き方を見つめ直し、積極的に学習に参加することにより見聞を広め、豊かな人生を送ることを目的とします。



### 「トークと歌でたどる、私たちの昭和」

講師：藤田 昇治（弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授）

有効回答票数：25票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	9	15	1		
内容	10	15			
話し方	11	4	10		
雰囲気	13		12		

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		1			1	1		
女		1	2	1	2	2	14	
無回答								

#### 受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌				1		1	5	
新聞								
DM							1	
テレビ・ラジオ								
知人から		1	1		2	1	4	
インターネット								
その他		1	1		1	1	4	
無回答								

## 平成28年度「鱒ヶ沢はまなす学級」第7回学習会 「トークと歌でたどる、私たちの昭和」

佐藤 順子

(鱒ヶ沢町教育委員会教育課 社会教育班)

平成28年11月22日(火)10:00~11:00、鱒ヶ沢町山村開発センターに於いて、「鱒ヶ沢はまなす学級」第7回学習会が、「トークと歌でたどる、私たちの昭和」をテーマに弘前大学生涯学習教育研究センター准教授、藤田昇二治氏を招いて開催されました。

当日は、受講生37名、教育委員会関係者11名の計48名が参加されました。

講演では、藤田氏が選んだ昭和の歌を各テーマごとに優しい口調でお話し(トーク)しながら進行されました。

まずは、戦後の再スタートとしての「リンゴの唄」から始まり、次に、平和や自然環境問題に関係した歌、さらに、TVや学園ソング・フォークソング等が続きました。藤田氏のトーク後には、必ず、そのテーマにちなんだ歌をプラスということで、当教育課職員のピアノ伴奏に併せながら会場の皆さんと一緒に歌いました。最後の「青い山脈」まで皆さん、とても和やかな雰囲気、また、懐かしそうに歌っていました。

受講生の方からは、「知ってる歌ばかりなので、楽しく歌えた!」「お腹の底から、思い切り声をだして歌うことができ、サッパリした。ストレスが解消できた」「皆と一緒に、楽しい雰囲気の中で歌い、楽しく過ごすことができ良かった」等のうれしい感想が多く寄せられました。

そして、藤田氏が今回の資料として提供して下さった、「歌集2016」の全13曲すべてが、とても良い曲ばかりなので、今後は色々なところで活用していきたいと思います。

放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会				
対象者	児童クラブやなかよし会などの児童保育、放課後子ども教室等のスタッフ他、希望する一般市民		受講者数	延べ 80名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	弘前市
会場	①、② ヒロロ3階 駅前こどもの広場 多世代交流室2			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年11月25日(金) 10:00~12:00	長崎 由紀 氏	岩手県立児童館いわて子どもの森 チーフプレーリーダー	「遊びを通した 子育て支援-児童館・児童厚生員の役割とは」	なかよし会や児童館等のスタッフを対象とし、多様な子ども達の心地よい居場所や環境をどのように作り出すのかを学ぶ機会とする。特に、昨年度、静岡県富士市のNPO法人ゆめ・まち・ねっと代表 渡部達也氏、渡部美樹氏を招聘し研修会を開催したところ、参加者からの意見として、子ども達の理想的な居場所として認識できたが、それに至るまでの具体的な手法について知りたい旨の意見が多かった。そこで今年度は、昨年ニーズを反映し、「身近で」、「手の届く範囲で」、「取り組みやすい」、より具体的な居場所の実現を目指す。全ての子ども達が認められ、受け入れられる環境づくりを進めるため、先進的な実践から成果のある講師を招き、多様な子どもの理解を図りながら子ども達にとって居心地の良い居場所を考える実践型の研修会を開催する。
②平成28年12月2日(金) 10:00~12:00	寺田恵美子 氏  コーディネーター 深作 拓郎 氏	児童厚生一級特別指導員・秋田市飯島南児童センター勤務	「子どもの居場所としての児童館-子どもを主役にしていくために」	



①「遊びを通した子育て支援－児童館・児童厚生員の役割とは」

講師：長崎 由紀（岩手県立児童館いわて子どもの森チーフプレーリーダー）

有効回答票数：31票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	26	4	1		

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		3		1		1		
女		1	4	7	11	2		1
無回答								



放課後の 研修会

## 子どもの居場所づくりを考える

遊ぶ 学ぶ 感じる

↓

大切な場所

「子どもにとって、居たい場所とは？」  
子どもの笑顔が輝く居場所の価値を高めるちょっとした工夫とコツ。  
学校でも家庭でもない、子どもにとって大切な場所を一緒に考えます。

---

**11月25日(金)**  
10:00~12:00

「遊びを通した子育て支援－児童館・児童厚生員の役割とは」

＜講師＞  
長崎由紀氏（岩手県立児童館いわて子どもの森チーフプレーリーダー）

＜コーディネーター＞  
深作拓郎氏（弘前大学生涯学習教育研究センター講師）

---

**12月2日(金)**  
10:00~12:00

「子どもの居場所としての児童館－子どもを主役にしていくために」

＜講師＞  
寺田恵美子氏（児童厚生一級特別指導員・秋田市飯島南児童センター勤務）

＜コーディネーター＞  
深作拓郎氏（弘前大学生涯学習教育研究センター講師）

---

**場 所** ヒロコ3階 健康ホール（駅前町9-20）

**定 員** 40名（定員になり次第締め切り） **受講料** 無料

**対 象** 児童館やなかよし会などの学童保育のスタッフ、放課後子ども教室のスタッフ、希望する一般市民

※主催※ 弘前大学生涯学習教育研究センター・弘前市

※問い合わせ※ 弘前市子育て支援課子育て戦略担当 TEL: 0172-40-7038

②「子どもの居場所としての児童館－子どもを主役にしていくために」

講師：寺田 恵美子（児童厚生一級特別指導員・秋田市飯島南児童センター勤務）

有効回答票数：39票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	29	9	1		

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		3	2			1		
女		6	7	5	12	1		1
無回答						1		



## 放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会

中澤 侃 志

(弘前市健康福祉部子育て支援課 子育て戦略担当)

誰にだって、かつて子どもだった時期がある。経験もある。私も含め、児童館、児童センター、学童保育の先生たちも、子ども達の親御さんにも同様にある。

今回の研修会で、確実にあったはずの子ども時代を私は鮮明に思い出した。

へそ曲がりだった私は、大人や他人から教えてもらう事が大っ嫌いな子どもだった。特に、簡単に答えを教える大人が嫌いで、たびたび話を聞かず叱られたものだ。話を黙って聞かない私は、今でいう大人の言うことを聞かない「気になる子」だったはずだ。

しかし、当時の私には、それ相応の言い分があった（誰も聞いてくれなかったが…、幸運にも聞いてくれる人がいたとしてもうまく伝える事ができたかは自信が無い）。何はともあれ、簡潔に言うと私は「自分だったらもっと面白くできる」と思っていたのである。

今回の居場所づくりの研修会は、そんな私の記憶を呼び戻してくれた。

「材料だけ提供し遊び方は子ども達に考えさせる」

何とワクワクする言葉だろうか。私は、主催者でありながら、講師の先生が次々繰り出す「遊び」に対し、子どもの時のように「自分だったら…」と考えて自分も遊びに加わりたくてムズムズしてしまった。一瞬に子どもに戻ってしまったわけである。

周りを見渡すと、私のような参加者がたくさんいた。目をキラキラさせて、遊びに集中していた。中でも、皆が思いつきもしない遊び方を披露する参加者もいて、羨望の眼差しで見られていた（なぜか、悔しい）。

昨年度、弘前大学生涯学習教育研究センター深作先生と打ち合わせを重ね実施した居場所づくりの研修会は、自然の中で子ども達をノビノビと遊ばせる子どもの究極の居場所といった研修内容で、アンケートでも「怪我をした時の責任は誰がとるのか」とか、「自分達では到底出来そうにもない」とかの声が聞かれ、参加者のどこか他人事のような雰囲気が気になっていた。その経緯を踏まえ、今年度は、子どもの居場所に関わる大人たちにとって、「より身近で簡単で取組みやすい」を狙いとして、隣県の岩手県と秋田県から講師を招いて実施した。その成果は、最初にも話したとおりである。

「子どもの気持ちを理解するためには、子どもの気持ちになればいい」簡単なことだ。その経験と答えは実は皆がそれぞれ持っている。今回の研修のアンケート結果は、子どものように弾けた感想が多かったことは、研修の成果を実感できる一つの指標だ。

学校でもなく、家庭でもない、その狭間で放課後の子ども達の居場所は、ただ在るだけではつまらない。その価値が高い方が良い。子どもにとっても見守る大人にとっても楽しい方が良い。

私の子どもの時代とは違い、子どもを取り巻く様々なりスクが存在する。地域の見守りも薄い。そんな現代であるが、いつの時代も子ども達は、その環境に合わせ自分達で工夫して楽しめる可能性を秘めている。また、子ども達に関わる私たち大人もそうであると信じたい。子ども達の居場所は、それを最大限生かせる場所でありたい。

「トークと歌で迎えよう冬、クリスマスとお正月2016 !!」			
対象者	一般	受講者数	延べ17名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	—
会場	弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室		
日時	講師	所属	実施概要
平成28年12月17日(土) 10:00~12:00	藤田 昇治 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授	クリスマスと正月にちなんだトークを まじえながら、クリスマス・正月・冬の季節 にちなんだ曲をみんなで歌い、参加者同 士の交流を図ります。



参加無料 平成28年度 弘前大学生涯学習教育研究センターイベント 

## トークと歌で迎えよう冬、クリスマス、そしてお正月2016 !!

クリスマスと正月にちなんだトークをまじえながら、クリスマス・正月・冬の季節にちなんだ曲をみんなで歌い、参加者同士の交流を図りましょう。

**■講 師:** 藤田 昇治 (弘前大学生涯学習教育研究センター准教授)  
**件 名:** 少福 麗香 (弘前大学教育学部学生)

**■日 時:** 2016年12月17日(土) 10時30分~12時

**■会 場:** 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室  
(弘前市文京町1 弘前大学人文社会科学部3階)

**■定 員:** 30名

**■参 加 費:** 無料

**■対 象:** 一般

**■申 込 先:** 弘前大学生涯学習教育研究センター

**■申 込 締 切:** 12月14日(水)

**■申 込 方 法:** 氏名・住所・電話番号・年齢・性別・ご職業  
を本人のうえ、ほかき・FAX・E-mail等でお申込み  
ください。

※ご参加の際には、「歌集」をお渡しします。  
この「歌集」を参考に歌っていく予定です。

**【曲目】**  
1. 冬の季節・節定にちなんで  
・寒い朝  
・冬の夜  
・銀色の道  
・雪の降る朝を、他

2. 冬の遊び・スポーツ  
・雪山真歌  
・ペタン、他

3. クリスマス関連  
・ジングルベル  
・きよしこの夜、他

4. 正月を迎える  
・お正月  
・一月一日

右記の地図を参考に、会場の人文社会科学部3階  
生涯学習教育研究センター多目的室へお越しください。

〒030-8660 弘前市文京町1  
弘前大学生涯学習教育研究センター  
TEL&FAX: 0172-39-3146 (平日: 10:30~16:00)  
E-MAIL: escenter@hirotsaki-u.ac.jp

◆主催 弘前大学生涯学習教育研究センター  
※お申し込みには個人情報は必要ありません。  
本学の連絡以外に使用することはありません。




### 「トークと歌で迎えよう冬、クリスマスとお正月2016 !!」

講師：藤田 昇治 (弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授)

有効回答票数：17票

#### 講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	14	2			1
内容	15	1			1
話し方	13	1	1		2
雰囲気	15	1	1		

#### 受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男						1	6	
女					2	2	2	2
無回答							2	

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌							1	1
新聞							2	
DM					2	3	5	
テレビ・ラジオ								
知人から							1	1
インターネット								
その他							1	
無回答								

## 「トークと歌で迎えよう、冬、クリスマスとお正月2016」を終えて

藤 田 昇 治

(弘前大学生涯学習教育研究センター 准教授)

「トークと歌」と題する事業として、昨年度同様にクリスマス間近の12月17日（土）に、「トークと歌で迎えよう冬、クリスマスとお正月2016」を実施した。

歌う曲目は昨年同様、「冬の季節」と「師走」にちなんだ曲として、「寒い朝」、「冬の星座」などを、「冬の遊び・スポーツ」にちなんだ曲として「雪山賛歌」、「スキー」などを、「クリスマス」にちなんだ曲として「ジングルベル」や「きよしこの夜」などを、そして「お正月」にちなんだ曲として「一月一日」などを歌った。みんなで歌える曲目とそれにちなんだトークの内容が限定されることになるのだが、今年度は「冬」に関連する曲目として「銀色の道」と「冬の夜」を新たに付け加えることにした。

参加者は19人。「友人にも声を掛けて当日参加の人と一緒に来た」という参加者もいた。終了後のアンケートでは概ね好評であったが、「今回初めて参加しましたが、歌う曲目の選曲も、トークの内容もとても感動的でした。来年も是非やって欲しい」と話しかけてきた人もいた。

このイベントは、弘前大学が主催する他の講座と比較して、一般市民が気軽に参加できるものであり、また、「歌を歌う」ことを通じて自己実現を図ることができる事業である。曲の合間に「トーク」を交えることで、一定の「学習」も図られており、例年20人前後の参加者があり、リピーターも多い。市民にとって「気軽に参加し学び合うことができる」事業として定着している、ということができないのではないか。

中泊町子育て支援講演会「ママのためのリフレッシュ講座」			
対象者	小泊地区で育児中の保護者	受講者数	延べ7名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	中泊町教育委員会
会場	こども園こどもり		
日時	講師	所属	実施概要
平成29年3月6日(月) 10:00~11:30	北島麻衣子氏 高間木静香氏 橋本 美亜氏	弘前大学保健学 研究科 助教 弘前大学保健学 研究科 助教 弘前大学保健学 研究科 助手	地域で育児をしている母親が、本講座を通して心身ともに健やかに生活していくための一助となるために、リフレッシュできるツールを用いながら、育児に関する知識や技術を学習する機会とする。



## ママのための リフレッシュ講座

日 時：平成29年3月6日(月) 10:00~11:30  
場 所：こども園こどもり  
対象者：子育て中の方(15名)  
申込先：こども園こどもり 64-2241(棟方先生)  
社会教育課 57-2111(内線1922)  
申込み〆切 2月28日(火)

**参加費  
無料**

**内容**

①エッセンシャルオイルを使ったハンドクリーム作り  
何種類かのエッセンシャルオイル(精油)の香りを楽しんでみた後、  
気に入った香りのオイルを使ってハンドクリームを作ります。  
初めてでも簡単にできますよ。

②子どもの健康と育児のお悩み相談会  
小児看護を専門としている教員とお話をしてみませんか?  
子どもの健康のことや子育てのこと、こんな時はどうしたら良い?という  
疑問や質問にもお答えします。

**講師**  
弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域  
高間木 静香、北島 麻衣子、橋本 美亜

問合せ：社会教育課 成田 57-2111(内線1922)

主催：弘前大学生涯学習教育研究センター、中泊町教育委員会

## 2. 学部の主催事業など

### 【人文社会科学部】

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学と地域づくり連携事業「地域未来創生塾 @中央公民館」  平成28年9月14日(水)～ 平成29年1月25日(水) 18:30～20:00 第2および第4水曜日	弘前大学人文社会科学部 准教授 児山 正史	第1回	「弘前市の人口減少対策を読む」
	弘前大学人文社会科学部 准教授 長谷河亜希子	第2回	独占禁止法入門「消費生活の舞台裏をのぞいてみよう」
	弘前大学人文社会科学部 講師 恩田 陸	第3回	地方鉄道の現状と活性化の在り方
	弘前大学人文社会科学部 准教授 南 修平	第4回	巨大都市ニューヨークの誕生－摩天楼の頂とその下に
	弘前大学人文社会科学部 講師 片岡 太郎	第5回	地域有形文化財の保存対策と非破壊透視技術による活用新提案
	弘前大学人文社会科学部 講師 桑波田浩之	第6回	経済学で読み解く 地域と都市の経済発展
	弘前大学人文社会科学部 講師 武井 紀子	第7回	本を集める、人を育てる～東奥義塾高等学校所蔵 弘前藩校資料調査をてがかりに～
	弘前大学人文社会科学部 教授 山田 巖子	第8回	東北の民俗神「授かる」「うつらはる」オシラサマ
	弘前大学人文社会科学部 准教授 日比野愛子	第9回	ゲームで思いめぐらす、地域での働き方
	弘前大学人文社会科学部 教授 曾我 亨	第10回	人口減少問題の克服策を探る
弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊			
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> 弘前文化センター第3会議室（9月28日のみ工作実習室） <b>【対 象】</b> 弘前市および近隣にお住まいの高校生・一般の方 <b>【定 員】</b> <b>【参加費】</b> 無料		第1回 5名 第2回 6名 第3回 4名 第4回 5名 第5回 6名 第6回 7名 第7回 9名 第8回 10名 第9回 8名 第10回 20名	<b>【主催】</b> 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター <b>【共催】</b> 弘前市教育委員会（中央公民館） <b>【後援】</b> 弘前市、東奥日報社、陸奥新報社

名 称・開催日	講 師	内 容
<b>平成28年度地域未来創生センターフォーラム</b>		「博物館的想像力 渋沢敬三と今和次郎－民具学・考現学と青森県－」
平成28年9月24日(土) 13:00～16:30	天理大学文学部 准教授 丸山 泰明、他	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学人文社会科学部棟 4階多目的ホール <b>【対象】</b> 一般市民、行政関係者、学生 <b>【定員】</b> 100名 <b>【参加費】</b> 無料	77名	<b>【主催】</b> 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター <b>【後援】</b> 青森県教育委員会、弘前市教育委員会、三沢市教育委員会、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社

名称・開催日	講師	内容
<b>シンポジウム「裁判員裁判と被告人の更生」</b>		
平成28年10月29日(土) 14:30~18:00	弘前大学人文社会科学部 准教授 平野 潔  特定非営利活動法人 マ ザーハウス 理事長 五十嵐弘志、他	第1部 裁判員裁判の可能性と課題 第2部 裁判員としてできること、市民として できること 第3部 パネルディスカッション
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学人文社会科学部棟 4階多目的ホール <b>【対象】</b> 教職員、学生、一般の方どなたでも <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b> 無料	50名	<b>【主催】</b> 弘前大学人文社会科学部、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、教育学部

名称・開催日	講師	内容
<b>国際公開講座2016「日本を知り、世界を知る」 日本から世界へ—時空をこえる人文学—</b>		
平成28年11月3日(木) 10:00~16:30	弘前大学人文社会科学部 講師 武井 紀子  弘前大学人文社会科学部 講師 亀谷 学  弘前大学人文社会科学部 准教授 澤田 真一  弘前大学人文社会科学部 教授 関根 達人  国立韓国放送通信大学 校・日本学科 教授 李 愛淑	講演1 古代東北の文字文化をさぐる 講演2 イスラーム史の中の「カリフ」 講演3 ニュージーランドから学ぶ共生の作法 講演4 考古学から見たアイヌと和人  特別講演 『源氏物語』から世界へ
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学創立50周年記念会館 2階 岩木ホール <b>【対象】</b> 一般市民 <b>【定員】</b> 100名 <b>【参加費】</b> 無料	98名	<b>【主催】</b> 弘前大学人文社会科学部、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター <b>【後援】</b> 弘前市、東奥日報社、陸奥新報社

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>「消費者フォーラム in 弘大」</b>		「みんなでつくる消費者市民社会」	
平成28年11月 5 日(土) 13:00～16:00	横浜国立大学 教授 西村 隆男、他		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学人文社会科学部棟 4 階多目的ホール 【対 象】消費者市民社会について学びたい方であればどなたでも 【定 員】100名 【参加費】無料		36名	【主催】弘前大学人文社会科学部、青森県、NPO青森県消費者協会 【協力】青森中大学院大学、青森大学、青森県消費者問題研究会

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>「青森ブランド価値創造研究シンポジウム」</b>		「水産資源の地域ブランド化に向けた挑戦」	
平成28年11月18日(金) 14:30～17:00	株式会社 A & C 代表取締役 宮地 猛、他		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学創立50周年記念会館 2 階 岩木ホール 【対 象】 【定 員】 【参加費】無料		50名程度	弘前大学人文社会科学部グローバル経営研究室

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会</b>		「美濃国大垣藩藩校の蔵書」	
平成28年12月18日(日) 13:00～16:30	福井大学国際センター 准教授 膽吹 覚、他		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学人文社会科学部棟 4 階多目的ホール 【対 象】一般市民 【定 員】100名 【参加費】無料		81名	【主催】弘前大学人文社会科学部、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【共催】株式会社 北原研究所 【後援】東奥日報社、株式会社 陸奥新報社、東奥義塾高等学校

## 【医学研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成28年度弘前大学医学研究科公開講座 「お口の健康から全身の健康へ」		「お口の健康から全身の健康へ」 講義1 「口腔の健康と全身の関係—岩木プロジェクトから見えてきたこと—」 講義2 「口腔ケアはなぜ必要か？」 講義3 「歯周病と糖尿病の甘い関係」	
平成28年9月2日(金) 18:00~20:00	弘前大学大学院医学研究科 教授 小林 恒 弘前大学大学院医学研究科 講師 久保田耕世 梅原歯科医院 院長 梅原 一浩		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 医学部コミュニケーションセンター 【対 象】 一般、学生、教職員 【定 員】 80名 【参加費】 無料		72名	弘前大学医学研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成28年度弘前大学医学研究科公開講座 「健康・医療講演会」		「胃・大腸・肺がん—予防・早期発見と治療—」 講演1 「胃・大腸の癌について」 講演2 「肺の癌について」	
平成28年10月15日(土) 14:00~16:00	町立大鰐病院 副院長 大川 恵三 弘前大学医学部附属病院 呼吸器内科 講師 當麻 景章		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 大鰐町地域交流センター 鰐come (わにかむ) 多目的ホールあじやら 【対 象】 一般、教職員、学生 【定 員】 100名 【参加費】 無料		40名	弘前大学医学研究科・町立大鰐病院



## 【保健学研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>市民公開講座</b> <b>「第7の栄養素 ファイトケミカルって何？」</b>		第Ⅰ部 自然の恵み トマト・リコピンと健康 講演：野菜と健康 第Ⅱ部 酸化ストレスとリコピン 講演1：活性酸素と健康 講演2：放射線治療による皮膚反応へのリコピン効果の可能性 講演3：抗酸化食品のがん放射線治療への寄与 “急性有害事象の治療における臨床的可能性”	
平成28年 6月 5日(日) 10:00～12:30	カゴメ株式会社 イノベーション本部自然健康研究部 相澤 宏一 弘前大学保健学研究科 教授 細川洋一郎 弘前大学保健学研究科 教授 井瀧千恵子 むつ総合病院副院長・弘前大学医学部臨床教授・弘前大学生体応答科学研究センター 真里谷 靖		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> むつ市立図書館 あすなるホール <b>【対 象】</b> 市民 <b>【定 員】</b> <b>【参加費】</b> 無料		50名	<b>【主催】</b> 弘前大学保健学研究科 <b>【共催】</b> 地域保健医療教育研究センター・生体応答科学研究センター

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>特別企画・市民公開講座「医療から介護への境目のない連携をめざして」</b>		「身近な問題：地域医療保険介護のしくみについて」 「地域医療及び介護を支える専門職」	
平成28年 8月 8日(月) 10:00～11:30	弘前大学保健学研究科 生体検査科学領域 地域保健医療教育研究センター長 丹藤 雄介 弘前大学保健学研究科 看護学領域 地域保健医療教育研究センター 北嶋 結 (司会) 弘前大学大学院 保健学研究科 看護学領域 地域保健医療教育研究センター 木立 るり子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> 弘前大学保健学研究科 6階第63講義室 <b>【対 象】</b> どなたでも <b>【定 員】</b> <b>【参加費】</b> 無料		39名	弘前大学保健学研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>市民公開講座「減塩はアンチエイジング」</b>		健康寿命延伸のための生活習慣病予防は、青森県民にとって喫緊の課題です。本公開講座では、「減塩はアンチエイジング」というテーマで、食習慣が私たちの身体に及ぼす影響を中心に、講師がわかりやすく説明します。	
平成28年10月22日(土) 10:00～11:30	弘前大学保健学研究科 教授 長内 智宏		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> 弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホール <b>【対 象】</b> 一般市民、学生等 <b>【定 員】</b> <b>【参加費】</b> 無料		76名	弘前大学保健学研究科

### 【理工学研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>「地質の日」 in弘前2016</b>		<p>午前の部：恐竜のペーパークラフトを作成し、また化石を観察する。古生物を通して、子供たちが過去の地球について考えるきっかけとしてもらう。</p> <p>午後の部：講演「下北の地質とジオパーク」を行い、講演終了後は弘前大学資料館の企画展「下北の地形・地質とジオパーク」の展示解説を行う。これらを通して、一般市民の方々に我々が生活する地球について学び、考える機会をもって頂く。</p>	
平成28年 5月14日(土) 10:00～12:30(午前の部) 13:30～15:00(午後の部)	弘前大学理工学研究科 講師 根本 直樹		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> 午前の部：弘前大学理工学部1号館（教室未定） 午後の部：弘前大学理工学部1号館、弘前大学資料館 <b>【対 象】</b> 午前の部：小～中学生 午後の部：高校生以上 <b>【定 員】</b> 午前の部：15名程度 午後の部：100名程度 <b>【参加費】</b> 無料		21名	弘前大学理工学部

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>夏休みの数学2016</b>		<p>中学校や高等学校の数学の教科書に出てくる数学の世界のすぐ近くに面白い話題がたくさんあり、そのような数学の魅力を高校生や一般市民に知ってもらうための企画。</p> <p>「素数とふれあう旅によう！」 「正12面体と真法恵賢」</p>	
平成28年 8月 6日(土)～ 平成28年 8月 7日(日)	弘前大学理工学研究科 准教授 立谷 洋平 弘前大学理工学研究科 教授 中里 博		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学理工学部 2号館 <b>【対象】</b> 中学校、高校の数学担当教員、一般市民、高校生 <b>【定員】</b> 40名 <b>【参加費】</b> 無料	38名	弘前大学理工学部

名称・開催日	講師	内容
<b>2016年度「化学への招待」弘前大学一日体験化学教室</b>		先端科学・技術の一端を担う化学に興味を抱いてもらえるよう、高校生（中学生）を対象に「化学への招待」を開催します。
平成28年 8月 9日(火) 10:00～16:30	1. 講演 弘前大学理工学研究科 教授 阿部 敏之 2. 実験 A) 弘前大学理工学研究科 准教授 川上 淳 B) 弘前大学理工学研究科 教授 糠塚 いそし 弘前大学理工学研究科 准教授 北川 文彦 弘前大学理工学研究科 准教授 野田 香織 C) 弘前大学理工学研究科 准教授 鷺坂 将伸 D) 弘前大学理工学研究科 教授 安川あけみ E) 弘前大学理工学研究科 助教 大田 俊 F) 弘前大学理工学研究科 助教 山崎 祥平 G) 弘前大学理工学研究科 准教授 宮本 量 H) 弘前大学理工学研究科 准教授 増野 敦信	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 理工学研究科、教育学部 <b>【対象】</b> 高校生（中学生・一般も可） <b>【定員】</b> 60名 <b>【参加費】</b> 無料	103名	弘前大学理工学研究科、日本化学会東北支部

名称・開催日	講師	内容
<b>楽しい科学</b>		理工学部の実験室をみなさんに開放します。教員や学生のていねいな指導のもとで、いろいろな実験や実習を体験することができます。
平成28年10月23日(日) 10:00～16:00	弘前大学理工学研究科教員	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学理工学部 <b>【対象】</b> 小学生、中学生とその父母 <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b> 無料	995名	弘前大学理工学研究科

名称・開催日	講師	内容
<b>サイエンスへの招待</b>		理工学部で行なっている最新の研究や社会のために役立つ研究の内容を、教員や学生がわかりやすく紹介します。また、いろいろな実験や実習の体験をとおして科学のおもしろさにふれることができます。
平成28年10月23日(日) 10:00~16:00	弘前大学理工学研究科教員	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学理工学部 <b>【対象】</b> 小学生、中学生、高校生、一般 <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b> 無料	995名	弘前大学理工学研究科

名称・開催日	講師	内容
<b>弘前大学理工学部自然エネルギー学科開設記念シンポジウム</b>		基調講演 「自然エネルギーの現状と弘前大学への期待」 講演Ⅰ 「青森県の新たなエネルギー産業振興戦略について」 講演Ⅱ 「弘前型スマートシティ構想」 講演Ⅲ 「平川市地域新エネルギービジョン」 講演Ⅳ 「自然エネルギー学科の取り組みと地域貢献」
平成28年10月28日(金) 14:00~17:20	(一社) 日本エネルギー学会会長 (公財) 地球環境産業技術研究機構(RITE)理事・研究所長 山地 憲治 青森県エネルギー総合対策局エネルギー開発振興課GM 澤頭 潤 弘前市都市環境部理事兼スマートシティ推進室長 鈴木 政孝 平川市経済部農林課 課長補佐 加藤 芳和 弘前大学理工学部自然エネルギー学科長 教授 阿布 里提	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> アートホテル弘前シティ3階サファイア <b>【対象】</b> 教職員、学生、一般、企業関係者 <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b> 参加無料、交流会5,000円	200名	<b>【主催】</b> 弘前大学理工学研究科 <b>【共催】</b> 青森COC+推進機構 <b>【後援】</b> 平川市

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>弘前大学理工学研究科×函館工業高等専門学校学術交流締結記念シンポジウム</b>		基調講演 「北の時代到来～北海道新幹線開業と東北放射光計画～」	
平成29年1月17日(火) 14:00～16:30	弘前大学理工学部 数物科学科 教授 宮永 崇史  函館工業高等専門学校 社会基盤工学科 准教授 宮武 誠  弘前大学理工学部 自然 エネルギー学科 教授 阿布 里提  函館工業高等専門学校 物質環境工学科 教授 上野 孝  弘前大学理工学部 地球 環境防災学科 教授 片岡 俊一	研究内容紹介 「函館/津軽海峡をフィールドとした海岸海洋工学に関わる研究」  「地域エネルギーの創造・利用に向けた自然エネルギー学科の取り組み」  「可食性高純度イカ墨色素粒子の工業材料への応用と新市場の展望」  「兵庫県南部地震と以降の地震動研究—青函を題材に」	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学理工学部1号館5階第10講義室 【対 象】 教職員、学生、一般 【定 員】 【参加費】 参加無料、情報交換会4,000円		80名	弘前大学理工学研究科

### 【農学生命科学部】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>弘前大学総合文化祭農学生命科学部公開講座 「たまごと牛乳の話」</b>		講演1:「たまごの話」 私たちが毎日のように食べている‘たまご’。毎日食べている割には知らないことも多いのでは?? ‘たまご’ のことをもっとよく知ると、毎日の食事が楽しくなるかも?! 知って得する「たまごの話」です。	
平成28年10月23日(日) 13:30～15:30	弘前大学農学生命科学部 教授 鈴木 裕之  弘前大学農学生命科学部 教授 戸羽 隆宏	講演2:「牛乳・乳製品の話」 牛乳、ヨーグルト、チーズおよびバターの製造法と成分の特徴、牛乳と健康、牛乳・乳製品と料理についてお話しします。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学農学生命科学部3階302講義室 【対 象】 一般市民 【定 員】 60名 【参加費】 無料		45名	弘前大学農学生命科学部

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>金木農場・藤崎農場 親子体験学習 「触れ合おう、人と自然と農業に！」</b>		弘前大学の農場ではイネ・畜産・リンゴの研究を行っており、その研究フィールドを活用した親子体験学習を行います。金木農場では親子が一緒になって、たくさんの自然と触れ合いながら田植えから白米までのコメ作りや羊の毛刈りを学び、藤崎農場ではリンゴの摘果(実選り)や収穫、昆虫採集を体験します。他にも、羊の毛を使った羊毛作品作りやもちつきの体験、じゃがいも栽培もあります。	
平成28年5月29日(土)～ 平成28年10月29日(土) 延べ5日間 9:30～15:30 ※第4回は午前で終了	弘前大学農学生命科学部 教職員		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】金木農場、藤崎農場 【対 象】小学生(但し、保護者2名以上であれば小学生と共に未就学児の参加も可能) 【定 員】先着25名(保護者1名につき、子ども2名まで) 【参加費】小学生無料、延べ5日間全額で大人1,200円(但し、大人2名以上から1名追加につき1,000円)		第1回 44名 第2回 57名 第3回 59名 第4回 63名 第5回 66名	弘前大学農学生命科学部附属 生物共生教育研究センター

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>公開講座「リンゴを科学する」</b>		リンゴ生産者やリンゴ関係者・一般市民を対象として、リンゴに関する様々な最新情報を提供する外、生物共生教育研究センター教員の研究の紹介を行います。	
平成28年12月10日(土) 9:00～15:55	青森県産業技術センター りんご研究所 葛西 智 弘前大学農学生命科学部 教授 佐野 輝男 弘前大学農学生命科学部 准教授 伊藤 大雄 農研機構東北農業研究セ ンター 長谷川啓哉		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】平川市生涯学習センター2F多目的ホール 【対 象】一般(リンゴ産業にかかわる方・一般市民) 【定 員】100名 【参加費】無料		127名	【主催】弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター、平川市 【後援】弘前市、藤崎町、板柳町

## 【地域社会研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>地域社会研究科公開セミナー 「人口減少社会における地域創生とは」</b>		「人口減少社会における地域創生とは」のテーマで、研究科の授業カリキュラムの一部を公開セミナーとして開放するものである。研究科の3講座に所属する各講師それぞれの視点により、地域の課題に着目した以下の内容で開講。	
平成28年10月26日(水)～ 平成28年12月7日(水) 18:30～20:00	弘前大学地域社会研究科 教授 北原 啓司 弘前大学地域社会研究科 教授 佐々木純一郎 弘前大学地域社会研究科 准教授 平井 太郎 弘前大学地域社会研究科 准教授 土井 良浩	第1回 成熟社会のまちづくり 第2回 地域経営における地場中小企業の役割 —経営改革とソーシャル・マーケティング— 第3回 地域に根ざした仕事づくり 第4回 市民主体の「まちづくり」の展望	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学総合教育棟2階206講義室 【対 象】 地域の社会人、自治体関係者、教育研究関係者、地域おこし等地域で活躍する団体・NPO等関係者 【定 員】 20名程度 【参加費】 無料		第1回 25名 第2回 18名 第3回 26名 第4回 24名	弘前大学地域社会研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>あおもりツーリズム創発塾公開講座 『ソウルフード津軽「現代に生きる保存食」 —津軽の保存食のフルコースをご堪能あれ—』</b>		雪深い津軽ならではの「保存食」に着目し、講演やワークショップを通じて保存食について知り、考えてもらうことに加え、来場者に町・村ごとにバリエーション豊かな保存食の試食提供を行うことにより、身体的にその存在意義を記憶・理解してもらうことを目的とした内容である。	
平成29年2月2日(木)	東北女子短期大学 教授 北山 育子 コトハジメ研究所 所長 山田さとみ 弘前大学人文社会科学部 教授 杉山 祐子 鶴田町食生活改善推進協 議会 木村夢知子 めん房たけや 武林 正書 津軽あかつきの会 町田 由紀 NPO法人横町十文字ま ち育て会 村上 陽心 弘前大学地域社会研究科 准教授 平井 太郎 弘前大学地域社会研究科 准教授 土井 良浩		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 かだれホール 弘前市百石町2-1 かだれ横丁内 【対 象】 一般 【定 員】 70名 【参加費】 無料		50名	弘前大学地域社会研究科

## 【白神自然環境研究所】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>白神自然環境研究所セミナー</b>		「昆虫標本の作り方」	
平成28年 6月18日(土) 13:00~16:00	弘前大学白神自然環境研 究所 准教授 中村 剛之		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 【対 象】 どなたでも 【定 員】 【参加費】 無料		5名	弘前大学白神自然環境研究所

開催日	講 師	内 容	
<b>白神自然環境研究所セミナー</b>		北海道の北限付近のブナ林を対象に、分布の様子と“北進途上仮説”についての講演。	
平成28年 7月11日(月) 18:00~19:30	北海道教育大学 並川 寛司		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 農学生命科学部302教室 【対 象】 どなたでも 【定 員】 【参加費】 無料		50名	弘前大学白神自然環境研究所

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>白神自然環境研究所セミナー</b>		「白神山地奥地探訪2016~静御殿、鬼の坪の今~」	
平成29年 3月24日(金) 17:00~18:00	弘前大学白神自然環境研 究所 助教 山岸 洋貴		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 コラボ弘大八甲田ホール 【対象】 どなたでも 【定員】 【参加費】 無料		22名	弘前大学白神自然環境研究所



開催日	講師	内 容	
<b>白神自然環境研究所観察会</b>		「観察園を歩こう」	
平成28年 5月21日(土) 10:00~13:00	弘前大学白神自然環境研究所 教授 石川 幸男 弘前大学白神自然環境研究所 准教授 中村 剛之 弘前大学白神自然環境研究所 助教 山岸 洋貴		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】白神自然観察園 【対象】どなたでも 【定員】 【参加費】100円（保険料として）		4名	弘前大学白神自然環境研究所

名称・開催日	講師	内 容	
<b>白神自然環境研究所観察会</b>		「夜の観察会」	
平成28年 7月29日(金) 18:30~20:30	弘前大学白神自然環境研究所 准教授 中村 剛之		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】白神自然観察園 【対象】どなたでも 【定員】 【参加費】100円（保険料として）		8名	弘前大学白神自然環境研究所

名称・開催日	講師	内 容	
<b>白神自然環境研究所観察会</b>		「森の動きを見る」	
平成28年 9月24日(土) 10:00~15:00	弘前大学白神自然環境研究所 教授 石川 幸男		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】白神自然観察園 【対象】どなたでも 【定員】 【参加費】100円（保険料として）		2名	弘前大学白神自然環境研究所

開催日	講師	内 容	
<b>白神自然環境研究所シンポジウム</b> <b>「自然史を学ぶ楽しみ」</b>		<p>このシンポジウムでは、初心に帰って、自然史を学ぶことの楽しさ、そこから見えてくる物事について、意見を交わします。また、新たな市民研究家を育成するために大学や博物館などの研究機関に何が出来るか、彼らの活動を支援し活性化する方法についても議論します。</p>	
平成28年10月15日(土) 14:00～17:00	弘前大学白神自然環境研究所 助教 山岸 洋貴 北海道大学総合学術博物館 副館長 大原 昌宏 静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム 学芸員 岸本 年郎 さっぽろ自然調査館 渡辺 修 弘前大学白神自然環境研究所 准教授 中村 剛之		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学農学生命科学部403講義室 <b>【対象】</b> 本学教職員、学生、一般 <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b>		65名	<b>【主催】</b> 弘前大学白神自然環境研究所 <b>【後援】</b> 青森県、環境省東北地方環境事務所、林野庁東北森林管理局、津軽昆虫同好会

### 【被ばく医療総合研究所】

名称・開催日	講師	内 容	
<b>浪江町 弘前大学 連携協定締結5周年記念講演会</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「浪江町の復興の現状」</li> <li>・「弘前大学による福島県浪江町復興支援活動の概要」</li> </ul>	
平成28年9月29日(木) 17:30～19:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県浪江町長 馬場 有</li> <li>・福島県浪江町復興支援プロジェクトワーキンググループ委員長（弘前大学被ばく医療総合研究所教授） 床次 眞司</li> </ul>		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部基礎大講堂 <b>【対象】</b> 教職員、学生、一般 <b>【定員】</b> 約280名 <b>【参加費】</b> 無料		90名	<b>【主催】</b> 弘前大学放射線安全総合支援センター

## 【医学部附属病院】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第130回青森眼科集談会</b>		網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫に対する現実的抗VEGF薬治療を目指して	
平成28年4月17日(日) 9:30~14:50	信州大学医学部 教授 村田 敏規		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対 象】眼科医、研修医、医学生 【定 員】特になし 【参加費】3,000円		50名	【共催】 弘前大学医学研究科（眼科学講座） 青森県眼科医会

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第10回弘前眼科セミナー</b>		視野に関する最新の情報と視神経疾患に関する最新の情報	
平成28年5月28日(土) 17:00~19:00	近畿大学医学部 教授 松本 長太 東京慈恵会医科大学 教授 敷島 敬悟		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】ホテルニューキャッスル 【対 象】眼科医、研修医、医学生 【定 員】特になし 【参加費】1,000円		30名	【共催】 弘前大学医学研究科（眼科学講座） 日本アルコン株式会社

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第10回弘前大学眼科セミナー</b>		OCTの2階調化による脈絡構造の解析	
平成28年6月4日(土) 17:00~19:00	鹿児島大学医学部 講師 園田 祥三		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対 象】眼科医、研修医、医学生 【定 員】特になし 【参加費】1,000円		30名	【共催】 弘前大学医学研究科（眼科学講座） 参天製薬株式会社

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>平成28年度 第2回青森県がん相談員研修</b>		がん専門相談員としてのコミュニケーションスキルが習得できる研修会	
平成28年 6月12日(日) 14:00～16:30	弘前駅前メンタルクリニック 院長 菊池 淳宏		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> 弘前大学医学部附属病院外来診療棟 4階 共用ミーティング室 <b>【対 象】</b> ・青森県のがん診療連携拠点病院のがん相談員 ・がん相談に従事している医療関係者 ・がん相談に関心のある医療従事者 <b>【定 員】</b> 20名程度 <b>【参加費】</b> 無料		12名	<b>【主催】</b> 青森県がん診療連携協議会相談支援部会 <b>【共催】</b> 弘前大学医学部附属病院

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>平成28年度 がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会</b>		模擬患者が参加する、難治性がん・再発・積極的抗がん治療の中止など、悪い知らせを患者に伝えるロールプレイ	
平成28年 8月20日(土) 10:00～18:00 平成28年 8月21日(日) 8:00～15:00	札幌市立札幌病院 医師 武村 史 都立駒込病院 臨床心理士 武村 尊生 国立精神・神経医療研究センター 臨床心理士 藤森麻衣子 埼玉県立がんセンター 医師 久保田靖子 岩手医科大学附属病院 看護師 佐々木真由美 名古屋徳洲会総合病院 医師 坂本 雅樹 群馬県立がんセンター 臨床心理士 大庭 章 秋田厚生医療センター 吉岡 知己 弘前大学大学院医学研究科 教授 佐藤 温ほか		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<b>【会 場】</b> 弘前大学医学部学生支援センター 1号棟 <b>【対 象】</b> がん診療歴3年以上の医師。2日間通して参加できる方。 <b>【定 員】</b> 16名 <b>【参加費】</b> 無料（ただし、昼食代および茶菓子代として3,000円を負担あり）		22名	<b>【主催】</b> 次世代がん治療推進専門家養成プラン <b>【共催】</b> 弘前大学医学部附属病院

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>みんなで知ろう！がんフェスティバル</b>		講演 1	がんと暮らし（お金と仕事）について
平成28年 8月28日(日) 講演 13:00～16:35 展示 12:00～17:00	NPO 法人がんと暮らし を考える会 副理事長 岡本 英夫 たびすけ合同会社西谷 代表 西谷 雷佐 国立研究開発法人 国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾 文彦	講演 2	がんでも旅に出よう
		講演 3	正しいがん情報の接し方
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】土手町コミュニティパーク多目的ホール 【対 象】がん患者・家族、企業、医療、福祉、行政、 一般市民など幅広くどなたでも 【定 員】100名 【参加費】無料		215名	弘前大学医学部附属病院

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>呼吸器ハンズオンセミナー</b>		シミュレーターを使った気管支鏡体験・ NPPV 実践講座、呼吸機能検査、画像診断のツ ボ等	
平成28年 9月 4日(日) 14:00～17:00	弘前大学医学部附属病院 教授 田坂 定智 弘前大学医学部附属病院 講師 當麻 景章		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】青森県立中央病院 【対 象】初期研修医、医学学生 【定 員】特になし 【参加費】無料		8名	【主催】 弘前大学医学研究科（呼吸器内科学講座）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>平成28年度 つがるブランド地域先導ナース育成事業 病院からつなぐ地域包括ケア看護実践者育成コース</b>		急性期から地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を提供できる看護師を育成する講義・実習・事例検討	
平成28年 9月10日(土) ～平成29年 1月28日(土) ※講義： 9月、11月、12月、1 月の各月 2 回程度土曜日 ※実習： 9月下旬～10月下旬の 平日 5 日間	弘前大学保健学研究科教 員ほか		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学保健学研究科ほか <b>【対象】</b> 病院で働いている看護師 <b>【定員】</b> 15名 <b>【参加費】</b> 無料	17名	<b>【共催】</b> 弘前大学保健学研究科 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内 容	
<b>市民公開講座</b>		乳がんと大腸がんの基礎知識と最新治療	
平成28年9月17日(土) 12:45～15:45	むつ総合病院外科 副部長 山田 恭吾 弘前大学医学部附属病院 助教 西村 顕正 弘前大学医学部附属病院 助教 長谷部達也 弘前大学医学研究科 助教 三浦 卓也		
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催	
<b>【会場】</b> むつ市立図書館内ホール <b>【対象】</b> 一般市民などどなたでも <b>【定員】</b> 特になし <b>【参加費】</b> 無料	74名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院 むつ総合病院	

名称・開催日	講師	内 容	
<b>外科手術セミナー 君もかつていい外科医になってみないか！「高校生外科手技体験セミナー」 in むつ市</b>		医療従事者自身が病院から外に出て、現地で子供たちと触れ合い、7つの模擬手術を体験してもらい、子供たちに医師の仕事の素晴らしさを知ってもらおう。	
平成28年9月17日(土)	弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院、青森市立市民病院の外科の医師		
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催	
<b>【会場】</b> 青森県立田名部高等学校 <b>【対象】</b> むつ市の高校2・3年生 <b>【定員】</b> 特になし <b>【参加費】</b> 無料	56名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院（外科）	

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>整形外科学講座主催 GOTS Traveling Fellow 講演会</b>		ドイツ・スイスオーストリアスポーツ医学会 (GOTS) のTraveling Fellowによる講演会	
平成28年 9月20日(火) 19:00～	Gernot Hertel, MD、 Regensburg, Germany Sebastian Thormann、 MD、Wolhusen、 Germany Thomas Niethammer、 MD、Munich、Germany Paul Brinkmeier, MD、 Osnabruck, Germany		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対 象】 医療従事者 【定 員】 特になし 【参加費】 無料		30名	【主催】 弘前大学医学研究科整形外科学講座

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>緩和ケア研修会</b>		「がん対策推進基本計画」において、すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得することが目標として掲げられています。 本研修会は、青森県内の医師及び看護師、薬剤師ほか医療スタッフを対象に、緩和ケアについての基本的な知識を習得する機会として、国の開催指針に沿って実施するものです。	
平成28年 9月24日(土) 8:30～18:10 平成28年 9月25日(日) 8:00～17:35	静岡県立静岡がんセンター 佐藤 哲観 山形県立河北病院 奥山 慎一郎 社会福祉法人 三井記念病院 三浦 剛史 八戸市立市民病院 佐藤 智 むつ総合病院 山田 恭吾 医療法人ときわ会 ときわ会病院 蝦名 正子 弘前駅前メンタルクリニック 院長 菊池 淳宏 弘前市立病院 副院長 松井 雅之 弘前大学医学研究科 准教授 古郡 規雄 弘前大学医学研究科 教授 佐藤 温		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部附属病院大会議室 <b>【対象】</b> 医師、看護師、薬剤師、医療スタッフ <b>【定員】</b> 45名程度 <b>【参加費】</b> 無料	41名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院

名称・開催日	講師	内容
<b>県民公開講座 腎臓を大切にして健康長寿を実現しよう</b>		
平成28年10月9日(日) 15:00~16:30	弘前大学医学研究科 准教授 中村 典雄 秋田大学医学部附属病院 教授 佐藤 滋 青森県臓器移植コーディネーター 鈴木 旬子 弘前大学医学部附属病院 助教 村上 礼一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓と健康長寿</li> <li>・腎移植治療最前線</li> <li>・青森県の献腎移植</li> </ul>
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> ホテル青森善知鳥の間 <b>【対象】</b> 一般市民 <b>【定員】</b> 特になし <b>【参加費】</b> 無料	83名	<b>【主催】</b> 青森県腎臓バンク/第81回日本泌尿器科学会 東部総会 <b>【共催】</b> 弘前大学医学研究科先進移植再生医学講座 弘前大学医学研究科泌尿器科学講座

名称・開催日	講師	内容
<b>臨地実習指導者育成研修会</b>		
平成28年10月24日(月) 9:00~16:30 平成28年11月28日(月) 9:00~16:30	株式会社ビジネスコンサルタント 木村 智子 弘前大学教育学部 講師 松本 大 弘前大学保健学研究科 准教授 小倉能理子 弘前大学保健学研究科 教授 井瀧千恵子	教育専門家の講義を聞いて教育の基礎を知り、人材育成のスペシャリストからコーチングを学んで相手との関わり方を身につける。
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 <b>【対象】</b> 看護学生の実習を受入れている施設の看護職 <b>【定員】</b> 15名 <b>【参加費】</b> 無料	18名 (延べ35名)	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院(看護部)



名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第18回家庭でできる看護ケア教室「今すぐできる脳卒中予防！～まずは血圧測定からはじめよう～」</b>		「今すぐできる脳卒中予防！～まずは血圧測定からはじめよう～」	
平成28年10月28日(金) 13:30～15:30	弘前大学医学部附属病院 脳卒中リハビリテーション看護認定 看護師 福岡 幸子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】 一般市民 【定 員】 30名 【参加費】 無料		13名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第131回青森眼科集談会</b>		眼底画像診断アップデート	
平成28年10月30日(日) 9:30～14:50	福島県立医科大学 教授 石龍 鉄樹		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対 象】 眼科医、研修医、医学生 【定 員】 特になし 【参加費】 3,000円		50名	【共催】 弘前大学医学研究科（眼科学講座） 青森県眼科医会

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第3回地域がん医療フォーラム in HIROSAKIがんと一緒に暮らせる社会へ ～そのために私たちは何をすべきか～</b>		第1部	患者の気持ち、家族の思い～がんと一緒に生きるということ～
		第2部	がんと一緒に暮らせる社会へ～そのために私たちは何をすべきか～
平成28年11月12日(土) 14:00～17:00	特定非営利活動法人愛媛がんサポート 理事長 松本 陽子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 アートホテル弘前シティ 【対 象】 医療従事者、大学生（大学院生・短大生含む）、専門学校生、高校生、行政関係者、教育関係者、一般市民 【定 員】 60名 【参加費】 無料		15名	【主催】 次世代がん治療推進専門家養成プラン 【共催】 弘前大学医学部附属病院

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>災害医療フォーラムin東京 病院からの全患者避難：経験から学ぶ</b>		災害で病院が使用不能となった場合の患者の避難と災害対応について、東日本大震災や阪神淡路大震災を経験した先生方の講演を通して病院防災を考える。	
平成28年11月20日(日) 10:00~15:00	きぬ医師会病院 脳外科 部長 柴田 智行  防災サポートおぢや・元 小千谷病院 看護部長 佐藤 和美  南愛媛病院名誉院長・元 川崎医科大学救急医学 教授 藤井 千穂  東北大学病院卒後臨床研 修センター 助教 菅野 武  東熊本病院 理事長 永田 壮一  工学院大学 教授 久田 嘉章  国立保健医療科学院 健康危機管理研究部長 金谷 泰宏  摂南大学理工学部 教授 池内 淳子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 一橋講堂 【対 象】 医療関係者、自治体・消防関係者 【定 員】 500名 【参加費】 無料		224名	【主催】 弘前大学 摂南大学

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第10回弘大病院がん診療市民公開講座</b>		演題1 知ってほしい！がんのリハビリテーション 演題2 婦人科がんの話	
平成28年12月4日(日) 13:00~15:30	弘前大学医学部附属病院 リハビリテーション科 科長 津田 英一  弘前大学医学部附属病院 産科婦人科科長 横山 良仁		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前市民会館大会議室 【対 象】 一般市民 【定 員】 100名 【参加費】 無料		95名	【主催】 弘前大学医学部附属病院 【共催】 次世代がん治療推進専門家養成プラン

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>青森県抗菌薬化学療法セミナー</b>		抗菌薬適正使用の実践	
平成28年12月12日(月) 18:00~18:45 平成28年12月13日(火) 18:00~18:45	弘前大学医学部附属病院 感染制御センター 副センター長 齋藤 紀先		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 12/12 弘前大学医学部附属病院小会議室 12/13 弘前大学医学部附属病院大会議室 【対 象】 医療職 【定 員】 特になし 【参加費】 無料		132 名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（感染制御センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>緩和ケア公開講座</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア概論</li> <li>・新時代の不眠症治療</li> <li>・イレウス・サブイレウスを繰り返す時の食事の工夫</li> </ul>	
平成29年1月26日(木) 18:00~19:30	弘前大学医学部附属病院 講師 木村 太 弘前大学大学院医学研究科 准教授 古郡 規雄 弘前大学医学部附属病院 主任管理栄養士 三上 恵理		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 医学部臨床小講義室 【対 象】 病院に勤務されている職員 【定 員】 特になし 【参加費】 無料		54名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（腫瘍センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>腎不全医療 入門</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎不全とその治療</li> <li>・腎移植の実際</li> <li>・臓器移植コーディネーターの役割</li> <li>・青森県の腎移植と弘大病院の役割</li> </ul>	
平成29年2月1日(水) 18:00~19:20	弘前大学医学部附属病院 助教 村上 礼一 弘前大学大学院医学研究科 講師 畠山 真吾 青森県移植コーディネーター 鈴木 旬子 弘前大学医学研究科 教授 大山 力		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前市医師会看護専門学校 <b>【対象】</b> 看護学生 <b>【定員】</b> 130名 <b>【参加費】</b> 無料	130名	<b>【主催】</b> 青森県腎臓バンク 第81回日本泌尿器科学会 東部総会 <b>【共催】</b> 青森県 弘前大学医学研究科先進移植再生医学講座 弘前大学医学研究科泌尿器科学講座

名称・開催日	講師	内容
<b>学びなおし研修～感染管理を身につけよう！～</b>		
平成29年3月1日(水) 13:30～16:45	弘前大学医学部附属病院 感染管理認定看護師 尾崎 浩美	医療関連感染への対策を遂行し安全な医療環境を提供するための専門知識と実践的なスキルを学ぶ。 <b>【講義】</b> ・感染対策の基本 ・職業感染対策 ・ノロウイルス対策 <b>【演習】</b> ・手指衛生 ・個人防護具の着脱 ・適切な針の処理 ・吐物処理
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 <b>【対象】</b> 医療機関（病院を除く）に勤務している看護師、現在仕事をしていない看護師 <b>【定員】</b> 20名 <b>【参加費】</b> 無料	21名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内容
<b>津軽（西北五）地域における医療の現状及び今後の課題</b>		
平成29年2月12日(日) 13:30～16:30	弘前大学医学部附属病院 病院長 福田 眞作 弘前大学大学院医学研究科 准教授 下山 克 弘前大学大学院医学研究科 准教授 中村 典雄	・西北五圏域における医療の在り方と今後の課題について ・つがる市での若年成人のピロリ菌検診と新しい胃がん予防 ・青森県の腎不全を減らすための第一歩～観察研究から得られたこと～
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 五所川原市ふるさと交流圏民センター（オルテンシア） <b>【対象】</b> 一般の方 <b>【定員】</b> 350名 <b>【参加費】</b> 無料	300名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学研究科（地域医療学講座） <b>【共催】</b> つがる西五北広域連合

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第11回訪問看護師学習会</b>		在宅ケアと感染予防	
平成29年 3月 4日(土) 13:30~16:00	弘前大学医学部附属病院 副看護師長 木村 俊幸 弘前大学医学部附属病院 感染管理認定看護師 尾崎 浩美		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】訪問看護師 【定 員】30名 【参加費】無料		15名	【主催】 弘前大学大学院医学研究科（総合 患者支援センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>平成28年度 認定看護師による公開講座</b>		がん患者のアピランスケアを知ろう～がん 患者の外見に目を向け、その人らしく生きるた めに～	
平成28年 5月27日(金) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病 院・看護師・栗津 朱美 弘前大学医学部附属病 院・看護師・阿保恵美子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】看護師免許をお持ちの方 【定 員】40名 【参加費】無料		26名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講 師	内 容	
平成28年 6月10日(金) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 奈良 順子 弘前大学医学部附属病院 看護師 片山 美樹	実践に活かそう！基礎から学ぶ心電図	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学研究科臨床大講義室 【対 象】看護師免許をお持ちの方 【定 員】50名 【参加費】無料		108名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講 師	内 容	
平成28年 7月 1日(金) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 浅利三和子	がん患者のせん妄について	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 <b>【対象】</b> 看護師免許をお持ちの方 <b>【定員】</b> 40名 <b>【参加費】</b> 無料	34名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講師	内容
平成28年 7月28日(木) 18:00～19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 佐藤裕美子	放射線診断Q & A
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 <b>【対象】</b> 看護師免許をお持ちの方 <b>【定員】</b> 60名 <b>【参加費】</b> 無料	32名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講師	内容
平成28年 9月2日(金) 18:00～19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 尾崎 浩美	血流感染を防ぐ感染対策
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学研究科臨床大講義室 <b>【対象】</b> 看護師免許をお持ちの方 <b>【定員】</b> 50名 <b>【参加費】</b> 無料	58名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講師	内容
平成28年 9月30日(金) 18:00～19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 桜庭 咲子 弘前大学医学部附属病院 看護師 古川真佐子 弘前大学医学部附属病院 看護師 鎌田恵里子	使えるフットケアの話～歩ける足を守るために～
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 <b>【対象】</b> 看護師免許をお持ちの方 <b>【定員】</b> 50名 <b>【参加費】</b> 無料	20名	<b>【主催】</b> 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講師	内 容	
平成28年10月14日(金) 18:00～19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 前田あかね	不妊症の予防について	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】 看護師免許をお持ちの方 【定 員】 30名 【参加費】 無料		5名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講師	内 容	
平成28年10月28日(金) 18:00～19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 成田亜紀子 弘前大学医学部附属病院 看護師 山内 真弓	患者の急変！意識レベルが低下した患者への 初期対応～ベテラン看護師はこのように考えて 行動する～	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】 看護師免許をお持ちの方 【定 員】 100名 【参加費】 無料		62名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

開催日	講師	内 容	
平成28年11月18日(金) 18:00～19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 福岡 幸子	もっと知ろう！脳卒中予防！	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】 看護師免許をお持ちの方 【定 員】 40名 【参加費】 無料		24名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名 称・開催日	講師	内 容	
<b>第1回肝臓病教室</b>		肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患について肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供や支援をしています。今回は、「肝炎治療について」をテーマに開催しました。	
平成28年6月3日(金) 17:30～18:30	弘前大学医学部附属病院 講師 遠藤 哲		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院内科外来 【対 象】 肝疾患患者、ご家族 【定 員】 15名 【参加費】 無料		9名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（肝疾患 相談センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第2回肝臓病教室</b>		肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患について肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供や支援をしています。今回は、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が、肝疾患について専門的情報を提供しました。	
平成28年 9月16日(金) 14:30~16:00	弘前大学医学部附属病院 講師 遠藤 哲 弘前大学医学部附属病院 看護師 弘前大学医学部附属病院 薬剤師 照井 一史 弘前大学医学部附属病院 管理栄養士 須藤 信子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院内科外来 【対 象】 肝疾患患者、ご家族 【定 員】 15名 【参加費】 無料		13名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（肝疾患相談センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第3回肝臓病教室</b>		肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患について肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供や支援をしています。今回は、「肝炎治療について」をテーマに開催しました。	
平成28年12月 2日(金) 17:30~18:30	弘前大学医学部附属病院 講師 遠藤 哲		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院内科外来 【対 象】 肝疾患患者、ご家族 【定 員】 15名 【参加費】 無料		4名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（肝疾患相談センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>第4回肝臓病教室</b>		肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患について肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供や支援をしています。今回は、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が、肝疾患について専門的情報を提供しました。	
平成29年 3月10日(金) 14:30~16:00	弘前大学医学部附属病院 講師 遠藤 哲 弘前大学医学部附属病院 看護師 弘前大学医学部附属病院 薬剤師 照井 一史 弘前大学医学部附属病院 管理栄養士 須藤 信子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院内科外来 【対 象】 肝疾患患者、ご家族 【定 員】 15名 【参加費】 無料		22名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（肝疾患相談センター）



## 【研究・イノベーション推進機構】

名 称・開催日	講 師	内 容
<b>弘前大学 起業家塾</b>		
平成28年 6月22日(水)～ 平成28年11月14日(月) 18:00～20:15 18:00～20:00	合同会社ユーグレナSMBC 日興リバネスキャピタル リアルテックファンド グロースマネージャー 山家 創  みちのく銀行 地域創生 部 担当役 小向 耕介  東京大学産学協創本部 助教 菅原 岳人  特定非営利活動法人産学 連携学会 理事・株式会 社ウェザーコック 専務取締役 山本 一枝  日本政策金融公庫 青森 支店 融資課長 松重 有祐  四元マーケティングデザ イン研究室 代表 四元 正弘  青森銀行 地域振興部 調査役 小野 毅  日本ベンチャー学会 事務局長 田村真理子	起業家塾では、レンタルラボ等のインフラを 活用し、学生や研究者を対象に、実際の起業家 等による講演及びワークショップを中心とした 起業家育成プログラムを実施することで、起業 への意識醸成を図り、起業（VB）の促進、研 究シーズ等を活用した起業家の育成及びイノ ベーションの創出を目指します。
会場・対象・定員・参加費		参加人数
<b>【会 場】</b> 弘前大学総合教育棟 他 <b>【対 象】</b> 青森県内の大学生、大学院生、研究者、 経営者 <b>【定 員】</b> 50名 <b>【参加費】</b> 無料		第1回 49名 第2回 32名 第3回 42名 第4回 38名 第5回 22名 第6回 51名
		<b>【主催】</b> 弘前大学研究・イノベ ション推進機構 イノベーション推進部門 <b>【共催】</b> 弘前市、(公財) 21青 森産業総合支援センター、 フューチャーベンチャーキャピ タル株式会社、ひろさき産学官 フォーラム、弘前商工会議所、 青森県中小企業団体中央会、 日本政策金融公庫、みちのく銀 行、青森銀行 <b>【後援】</b> 青森県

名 称・開催日	講 師	内 容
<b>弘前大学 知財塾</b>		
平成28年11月17日(木) 18:00～20:00	国立大学法人山口大学 大学研究推進機構 知的 財産センター長 有限会 社山口ティール・エル・オー 代表取締役社長 佐田 洋一郎	トラブルを起こさない研究成果の取り扱い方

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学創立50周年記念会館 2階 岩木ホール <b>【対象】</b> 教職員、学生、大学院生、一般企業 <b>【定員】</b> 50名 <b>【参加費】</b> 無料	56名	弘前大学 研究・イノベーション推進機構 知的資産部門

名称・開催日	講師	内容
<b>弘前大学 知財塾</b>		産学連携の担い手としてのTLO、その使命と実務
平成29年 2月10日(金) 18:30~20:00	株式会社東北テクノアーチ代表取締役社長 水田 貴信	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学医学部基礎校舎 1階 大会議室 <b>【対象】</b> 教職員、学生、大学院生、一般企業 <b>【定員】</b> 50名 <b>【参加費】</b> 無料	33名	弘前大学 研究・イノベーション推進機構 知的資産部門

### 【COI研究推進機構】

名称・開催日	講師	内容
<b>弘前大学COI特別講演会</b>		革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM) 「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」の拠点研究を推進するにあたり、データ解析の知見を深めること等を目的として開催します。
平成28年 8月22日(月) 13:30~14:30	東京大学医科学研究所研究倫理支援室 特任准教授 神里 彩子	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 医学研究科 基礎大講義室 <b>【対象】</b> 一般市民、学生、企業、研究者等 <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b> 無料	約70名	弘前大学COI研究推進機構

開催日	講師	内容
平成29年 3月 7日(火) 13:30~14:30	筑波大学 医学医療系 教授 我妻ゆき子	革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM) 「認知症・生活習慣病研究とビッグデータ解析の融合による画期的な疾患予兆発見の仕組み構築と予防法の開発」の拠点研究を推進するにあたり、コホート研究の知見を深めること等を目的として開催します。

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 医学研究科 基礎大講義室 <b>【対象】</b> 一般市民、学生、企業、研究者等 <b>【定員】</b> <b>【参加費】</b> 無料	約50名	弘前大学COI研究推進機構

名称・開催日	講師	内容
<b>弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム「健康『ビックデータ』研究最前線」</b> 平成28年9月23日(金) 13:00~17:00	弘前大学大学院医学研究科 教授 中路 重之 久山生活習慣病研究所 代表理事 清原 裕 楽天(株) 執行役員 濱野斗百礼 料理研究家 浜内 千波 イオンリテール株式会社 特別顧問 梅本 和典 (株)ベネッセホールディングス 西村 俊彦 弘前大学大学院医学研究科 准教授 高橋 一平 京都大学大学院 教授 奥野 恭史 東京大学医科学研究所ヘルスインテリジェンスセンター 教授 井元 清哉 東京大学大学院医学系研究科 教授 松山 裕 名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 講師 平川 晃弘 ライオン(株) 事業開発部長 和田 啓二 花王(株) エグゼクティブ・フェロー/弘前大学COI拠点IL 安川 拓次 エーザイ(株) コーポレートBD部長・執行役 鈴木 蘭美	本拠点がめざす「健やかに老いる社会」の実現に向けて、国民の健康寿命延伸とQOL（生活の質）・GNH（幸福度）向上をめざし、世界最大級の超多項目健康ビッグデータを活用した最先端研究成果等を紹介し、これらを活用した新たな産業創出・社会実装のあり方などを第一線の産学官関係者が結集して熱く議論します。

	<p>カゴメ(株) イノベーション 本部 自然健康研究部長 菅沼 大行</p> <p>(株)テクノスルガ・ラボ 代表取締役社長 望月 淳</p> <p>マルマンコンピュータ サービス(株) 営業部第一 営業Gリーダー 宮本 真弓</p> <p>京都府立医科大学サテラ イト拠点PL 奥村 太作</p> <p>東京大学「自分で守る健 康社会」COI 拠点PL 池浦 富久</p> <p>ひろさき健幸増進リー ダー会 会長 八木橋喜代治</p> <p>日経BP社 特命編集委 員 宮田 満</p> <p>COI研究アドバイザー (構造化チーム) / 名古 屋大学総長補佐・同大学 医学部附属病院 教授 水野 正明</p> <p>九州大学大学院医学研究 院(衛生・公衆衛生学分 野)教授/九州大学サテ ライト拠点PL 二宮 利治</p> <p>(株)ベネッセホールディングス R&amp;G本部 EdTech戦 略課プロデューサー 吉田富美子</p> <p>弘前大学COI拠点 事業 統括/マルマンコンピュ ータサービス(株) 常務取締役 工藤 寿彦</p>		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<p>【会場】一橋講堂・大ホール</p> <p>【対象】一般市民、学生、企業、研究者等</p> <p>【定員】500名</p> <p>【参加費】先着順・参加無料、交流会3,000円</p>		約700名	<p>【主催】弘前大学、青森県、弘前市</p> <p>【共催】(国研)科学技術振興機構(JST)</p> <p>【後援】文部科学省、経済産業省等</p>

名 称・開催日	講 師	内 容
<p>弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2017 「生活者の健康意識・行動を変える！」</p>		<p>青森県の短命県脱却と県民・国民の健康寿命延伸、「寿命革命」実現に向けて、弘前大学COI拠点による社会イノベーションの進展・方向性など、産学官の関係者トップが一堂に会して、真の「健康の姿（未来）」のあり方について熱く語ります。</p>
<p>平成29年1月27日(金) 13:00～17:20</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科 教授 中路 重之 ライオン株式会社 代表取締役、取締役社長 濱 逸夫 料理研究家 浜内 千波 楽天(株) アドソリューションズ事業 ソーシャルメディア事業課 シニアマネージャー 向谷 和男 弘前大学大学院医学研究科 准教授 高橋 一平 京都大学大学院医学研究科 教授 奥野 恭史 東京大学医科学研究所ヘルスインテリジェンスセンター 教授 井元 清哉 むつ市長 宮下宗一郎 黒石市教育委員会 教育長 山内 孝行 (株)ベネッセコーポレーション Kids &amp; Family 本部 本部長 西村 俊彦 (株)青森銀行 取締役 弘前地区営業本部長 石川啓太郎 全国健康保険協会 青森支部 支部長 工藤 達也 弘前大学COI拠点 実装統括/花王株(株) エグゼクティブ・フェロー 安川 拓次 イオンリテール(株) 特別顧問 梅本 和典 エーザイ(株) 執行役/コーポレートBD部 部長 鈴木 蘭美 カゴメ(株) イノベーション本部 自然健康研究部長 菅沼 大行 弘前大学COI拠点 事業統括/マルマンコンピュータサービス(株) 常務取締役 工藤 寿彦</p>	

	<p>京都府立医科大学サテライト拠点リーダー/(株)ベネッセスタイルケア 執行役員 奥村 太作</p> <p>日経BP社 特命編集委員 宮田 満</p> <p>COI研究アドバイザー(構造化チーム)/名古屋大学総長補佐・同大学医学部附属病院 教授 水野 正明</p> <p>一般社団法人 俯瞰工学研究所 代表理事 松島 克守</p>	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<p>【会場】アートホテル弘前シティ プレミアホール</p> <p>【対象】一般市民、学生、医療関係者、大学、企業、研究機関等</p> <p>【定員】300名</p> <p>【参加費】先着順・参加無料、交流会3,000円</p>	約500名	<p>【主催】弘前大学、青森県、弘前市</p> <p>【共催】(国研)科学技術振興機構(JST)、青森県医師会、健やか力推進センター、(公財)21あおもり産業総合支援センター、(地独)青森県産業技術センター、ひろさき産学官連携フォーラム等</p> <p>【後援】文部科学省、経済産業省等</p>

### 【COC推進機構】

名称・開催日	講師	内容
<p>平成28年度 COC+シンポジウム「学生が企業を変える！企業力強化に向けた採用戦略」</p> <p>平成29年3月9日(木) 13:00~16:00</p>	<p>弘前大学 理事(企画担当)・副学長 吉澤 篤</p> <p>NPO法人ETIC ローカルイノベーション事業部マネージャー 伊藤 淳司</p> <p>株式会社オフィス55 代表取締役 高木 茂</p>	<p>COC+の取り組み</p> <p>講演 「社長の夢をかなえた学生生活用術」</p> <p>講演 「採用難時代を勝ち抜く企業」</p>
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<p>【会場】アートホテル弘前シティ 3階プレミアホール</p> <p>【対象】青森県内の企業関係者、大学関係者、自治体関係者</p> <p>【定員】</p> <p>【参加費】無料</p>	130名	<p>【主催】青森COC+推進機構</p> <p>【共催】青森県立保健大学、東北女子大学、八戸工業大学、弘前学院大学、八戸学院大学、青森中央学院大学、弘前医療福祉大学、青森中央短期大学、八戸工業高等専門学校、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市</p>

## 【男女共同参画推進室】

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>女子学生による理系女子のための進路相談会</b>		弘前大学の理系分野の女子学部学生・大学院生が、理系分野への進学を考えている女子高校生からの進路や大学生活に関する疑問や不安等について相談に応じた。	
平成28年 8月 8日(月) 10:00~15:00	理工学部、農学生命科学部、教育学部(理系専修)の女子学部学生・大学院生		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学 総合教育棟ロビー・ホール 【対 象】 女子高校生 【定 員】 【参加費】 無料		43名	主催 弘前大学男女共同参画推進室

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>パネル展「弘前大学で活躍する女性研究者たち」</b>		弘前大学総合文化祭に訪れる地域の高校生や保護者を含む地域の方々や、本学の学生や職員を対象に、弘前大学の女性研究者の研究や人物についてパネル展を通じて紹介した。	
平成28年10月22日(土)・23日(日) 10:00~17:00			
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学 創立50周年記念会館ロビー 【対 象】 どなたでも 【定 員】 【参加費】 無料		158名	主催 弘前大学男女共同参画推進室

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」</b>		青森県内の女子高校生を対象とした実験と研究発表	
平成28年12月10日(土) 10:00~17:30 12月11日(日) 9:00~16:00	弘前大学理工学研究科 准教授 鳥飼 宏之		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学 理工学部校舎 1号館 3階 【対 象】 青森県内の高校の女子生徒 【定 員】 15名 【参加費】 無料		13名	主催 弘前大学男女共同参画推進室

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>女性研究者のための研究リーダー力向上支援セミナー「効果的な研究マネジメントのために ～慶応SDMにおける実践を中心的素材として～」</b>		文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の一環として、本学や地域の研究者等を対象に、研究プロジェクトやプログラムをマネジメントする上で求められるアプローチやマインドセット等について講演を実施した。	
平成29年 1月25日(水) 10:30～12:00	慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 講師 富田 欣和		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学 創立50周年記念会館会議室 2 【対 象】 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議構成機関の職員ほか 【定 員】 30名 【参加費】 無料		28名	主催 弘前大学、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>北東北女性研究者☆研究・交流フェア</b>		文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の一環として、下記プログラムを実施した。	
平成29年 3月 2日(木) 11:00～16:00	杏林大学医学部 教授 小林富美恵 BM Design研究所技術 コンセプトデザイナー 永合由美子	第1部 研究・交流フェア 共同研究支援経過報告、研究紹介等 第2部 ロールモデル講演会	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 いわて県民情報交流センター 8階会議室 803・804 【対 象】 どなたでも 【定 員】 100名 【参加費】 無料		80名	主催 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議、岩手大学 共催 いわて女性研究者支援ネットワーク構成機関、INS男女共同参画推進研究会



**【事務局】**

名 称・開催日	講 師	内 容
<b>食育・健康講座</b>		
平成28年 4月23日～ 平成28年 7月 9日 毎週土曜日 14:00～16:30	第1回 弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治、 弘前医療福祉大学短期大 学部 講師 三上 統生  第2回 弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治、 八戸プラザホテル料理部 部長 須田 忠幸  第3回 八戸工業大学工学部 教授 若生 豊、 弘前医療福祉大学短期大 学部 准教授 早川 和江  第4回 弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治、 静岡県立大学食品栄養科 学部 助教 伊藤 聖子  第5回 八戸工業大学工学部 教授 若生 豊、 弘前医療福祉大学短期大 学部 講師 三上 統生  第6回 弘前大学農学生命科学部 助教 前多 隼人、 メラローサ 管理栄養士 奥山 綾乃  第7回 弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治、 地方独立行政法人 青森 県産業技術センター、弘 前地域研究所 主任研究 員 高橋 匡  第8回 弘前医療福祉大学短期大 学部 講師 三上 統生、 八戸工業高等専門学校 准教授 山本 歩	青森県南部地方特産の機能性農水産物を素材 に、弘前大学など県内外の高等教育機関シーズ を活用し、新たな調理方法や加工技術による利 用を図る。食育文化の向上によって健康増進や 介護予防を促進し、地産地消の推進や6次加工 による生業事業の拡大と所得向上を通じて、食 による地域経済の創生に貢献するため実施した。  第1回 『サケの氷頭でアンチエイジング』 第2回 『長いもでインフルエンザを遠ざける』 第3回 『イカは若さを保つ海の健康食品』 第4回 『夢の健康作物アピオスで生活習慣病 を予防』 第5回 『知られざる健康食品、食用菊の力』 第6回 『ゴボウを食べて肥満予防と美肌効果』 第7回 『南部柿・桃は若返りの健康食品』 第8回 『カシスとブルーベリーで体を活性化』

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 弘前大学八戸サテライト（※初回のみ八戸ポータルミュージアム はっち5F共同キッチン） <b>【対象】</b> 県南地域に居住・勤務されている調理や加工に興味・関心のある方 <b>【定員】</b> 30名 <b>【参加費】</b> 無料	第1回 40名 第2回 39名 第3回 36名 第4回 41名 第5回 48名 第6回 45名 第7回 33名 第8回 45名	弘前大学八戸サテライト

名称・開催日	講師	内容
<b>やさしい中国語（台湾華語）おもてなし講座</b>		
平成28年6月21日～ 平成28年7月26日 毎週火曜日 14:00～16:00	弘前大学 非常勤講師 呉 書雅	観光業界では、近年急激に増加した中華圏観光客に対する対応力や接客技術を強化することが求められている。中華圏である台湾の生活様式や食文化、中国語（台湾華語）による実践的な会話を学ぶことによって、対中華圏観光客へのおもてなしの充実やコミュニケーション能力の向上を図ります。  第1回 『ガイドダンス・基本』 第2回 『ショッピング・接客』 第3回 『食事・飲食・食文化』 第4回 『宿泊・ホテルでのおもてなし』 第5回 『観光・交通・道案内・お出迎え』
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 八戸サテライト研修室 <b>【対象】</b> 観光事業に携わる事業者・従業員 <b>【定員】</b> 各回30名（先着順に受付） <b>【参加費】</b> 講義は無料 ※ 2,000円（欠席する講座がある場合でもテキスト代として、八戸観光創造委員会が徴収）	第1回 27名 第2回 28名 第3回 23名 第4回 24名 第5回 29名	弘前大学八戸サテライト、八戸観光創造委員会

名称・開催日	講師	内容
<b>平成28年革新的なものづくり企業連携交流サロン</b> テーマ：水産加工業		
平成28年7月26日(火) 18:00～20:00 平成28年11月30日(水) 18:00～20:00	ファシリテータ： 弘前大学研究推進部 地域連携コーディネーター 上平 好弘  パネラー： 第1回 五戸水産株式会社 代表取締役 五戸 睦子、 合同会社マルカネ 代表社員 秋山 兼男、 ぜんぎょれん八戸食品株式会社 顧問 左館 大洋	競争的資金（「ものづくり補助金」をはじめとした国や県の補助金等）を獲得しながら革新的な取組を行っている市内事業者の方々をパネラーとして招き、パネルディスカッションを実施した。  第1回 『ものづくり補助金採択企業の生の声を聞こう！』  第2回 『ものづくり補助金採択企業の生の声を聞こう！』

	第2回 株式会社サンライズ・エー・イー 代表取締役 池澤 昭博、 有限会社美豊 代用取締役 小松 正美、 株式会社ミナミ 取締役工場長 松下 武志		
	会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】	八戸サテライト	第1回 20名	弘前大学八戸サテライト、八戸市（商工課）
【対象】	八戸市内外の企業、一般、学生、大学等	第2回 29名	
【定員】	30名程度		
【参加費】	無料		

名称・開催日	講師	内容
<b>イノベーション経営戦略講座</b>		
平成28年10月11日 ～平成29年3月7日 毎週火曜日 15:00～17:00 ※第3講義11月9日のみ 水曜日	第1回 株式会社フランチイズ アドバンテージ 代表取締役社長 田嶋 雅美氏 第2回 弘前大学八戸サテライト 客員教授 高橋 俊行 第3回 弘前大学八戸サテライト 客員教授 高橋 俊行 第4回 弘前大学人文社会科学部 准教授 熊田 憲 第5回 弘前大学大学院地域社会 研究科 教授 佐々木純一郎 第6回 株式会社ノイエ 代表取締役 熊谷 淳一氏 第7回 弘前大学人文社会科学部 教授 保田 宗良 第8回 有限会社宮下会計事務所 公認会計士 宮下 宗久氏	地域の中小企業が、地域経済の担い手として 存続・発展していくために、経営革新が求めら れているなか、次世代経営を担う人材の育成 と、産学官交流によるネットワークを通して、 地方創生に寄与することを目的とします。  第1回 『企業の盛衰はリーダーシップで決まる』 第2回 『新たな時代の潮流を読み』 第3回 『ビジョナリ経営はなぜ強いのか』 第4回 『地域中小企業の経営とイノベーション』 第5回 『新たな市場創出のマーケティング戦略』 第6回 『販売促進とブランド戦略』 第7回 『中小サービス業のマーケティング戦略』 第8回 『財務管理により経営の舵をとる』 第9回 『中小企業のための市場優位の経営戦 略』 第10回 『スマートデバイス時代のマーケティ ング戦略』 第11回 『牛若丸はなぜ弁慶に勝てたのか？』 第12回 『グローバル時代における地域企業の イノベーション戦略』

	第9回 弘前大学人文社会科学部 准教授 高島 克史  第10回 株式会社コンシス 代表取締役 大浦 雅勝  第11回 弘前大学八戸サテライト 客員教授 高橋 俊行  第12回 多摩川精機株式会社 代表取締役副会長 萩本 範文氏	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> デーリー東北新聞社 6F メディアホール <b>【対象】</b> 中小企業の経営者・管理職 <b>【定員】</b> 30名（先着順に受付） <b>【参加費】</b> 無料	第1回 45名 第2回 32名 第3回 30名 第4回 32名 第5回 26名 第6回 39名 第7回 25名 第8回 31名 第9回 24名 第10回 23名 第11回 19名 第12回 38名	<b>【主催】</b> デーリー東北新聞社 弘前大学八戸サテライト <b>【後援】</b> 八戸市（商工労働部商工課）、八戸商工会議所

名称・開催日	講師	内容
<b>三沢健康フェア 食育健康セミナー</b>		
平成28年10月29日(土) 10:00～12:00 （三沢健康フェアは、午前9時30分～15時）	弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治  弘前大学農学生命科学部 助教 前多 隼人  メラローサ 管理栄養士 奥山 綾乃	三沢健康フェアの開催に合わせて、三沢地区における特産の健康に優しい農産物を食材に、弘前大学の先生による機能性（効果・効用）のお話を聞きながら、フードコーディネーターから美味しい調理、料理の仕方を学んで、三沢市の地産地消による健康づくりと農業振興に寄与するため実施します。
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> 三沢市総合社会福祉センター2F <b>【対象】</b> 三沢健康フェアにお越しの、健康と食育に関心のある方 <b>【定員】</b> 100名 <b>【参加費】</b> 無料	150名	弘前大学八戸サテライト、三沢市（市民生活部健康推進課）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>サービスイノベーションセミナー ～IoT時代における新たな「おもてなし」観光サービス戦略～</b>			
平成28年12月14日(水) 13:00～16:00	経済産業省 商務情報政策局サービス政策課長 佐々木啓介  株式会社フランチャイズ アドバンテージ 代表取締役社長 田嶋 雅美  株式会社フランチャイズ アドバンテージ 社員2名	『IoT時代における新たな「おもてなし」観光サービス戦略』  人口減少時代においてサービス業の振興を図るには、AIを活用したIoTによって、日本ならではの「おもてなし」の質を維持することが求められる。そこで、チェーンビジネスの専門家より、サービス業の新たな戦略とおもてなしプロジェクトを提案していただき、八戸地域のサービス業の振興に寄与することを目的とします。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 八戸商工会館3F 第1会議室 【対 象】 中小サービス事業者（飲食・ホテル・旅館・ドラッグストア・スーパー・百貨店など） 【定 員】 50名（先着順） 【参加費】 無料		31名	【主催】 弘前大学八戸サテライト 【共催】 アイピー倶楽部 【後援】 八戸市（担当：商工労働部商工課）、八戸商工会議所

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>韓国語講座</b>			
平成29年2月22日(水)～ 平成29年3月22日(水) 毎週水曜 14:00～15:30	弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター 非常勤講師 鹿嶋 英愛	訪日外国人は年々増加し続けており、国では2020年までに4000万人を目標に掲げている。当青森県においても外国人来訪者は増加し続けており、特に韓国と青森間の定期航路もあることから韓国人も多く訪れている。今回の講座では、韓国の生活様式や食文化、実践的な会話を学ぶことによって韓国人に対するおもてなしの充実やコミュニケーション能力の向上を図ります。  第1回 『ガイドランス・基本』 第2回 『ショッピング・接客』 第3回 『食事・飲食・食文化』 第4回 『宿泊・ホテルでのおもてなし』 第5回 『観光・交通・道案内・お出迎え』	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 八戸サテライト 【対 象】 観光事業に携わる事業者・従業員 【定 員】 各回24名（先着順に、最大30名まで受付） 【参加費】 講義は無料 ※テキスト代として初回受講時に2,000円程度		第1回 14名 第2回 13名 第3回 12名 第4回 12名 第5回 12名	弘前大学八戸サテライト、八戸観光創造委員会

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>種差海岸『食』のブランディング研究会</b>			
第1回 平成29年2月20日(月) 14:00~16:00	第1回 弘前大学八戸サテライト 客員教授 高橋 俊行	地元食材を利用した新たな料理や調理方法を研究開発することにより、種差地区の飲食店・民宿事業者の事業意識の醸成と、種差海岸の観光事業振興、観光消費需要創出を目的とします。	
第2回 平成29年3月15日(水) 14:00~16:00	深浦町観光課 主幹 鈴木 治朗	第1回 『種差の観光事業を考える』 『深浦マグロステーキ丼 開発物語』	
第3回 平成29年3月22日(水) 14:00~16:00	第2回 八戸ハマリレーションプロジェクト 古川 篤	第2回 『魚を食べるおいしさとたのしさを感 じる』	
	第3回 学校法人専修大学 石巻 専修大学 経営学部 教授 石原 慎士	第3回 『地域ブランド形成に向けた取り組み』	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 八戸市立南浜公民館（第1・2回）、種差海岸インフォメーションセンター（第3回）		第1回 15名	【主催】 弘前大学八戸サテライト 【共催】 種差観光協会 【後援】 八戸市観光課、公益社団法人八戸観光コンベンション協会
【対 象】 種差海岸の食堂・民宿事業者		第2回 13名	
【定 員】 15名		第3回 15名	
【参加費】 無料			

名 称・開催日	講 師	内 容	
<b>～市民ボランティア講座&amp;ワークショップ～ 第1回 市民ボランティア講座</b>			
平成28年6月1日(水) 18:00~19:30	大阪大学大学院人間科学研究科 教授・NPO法人 日本災害救援ボランティアネットワーク 理事長 渥美 公秀 弘前大学医学科 1年 津島 太陽	『熊本地震現地調査ボランティア活動報告』 発災直後から現地で活動を行っているNPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク理事長渥美公秀氏と、弘前大学医学科1年津島太陽さんによる現地の状況、ボランティア活動の状況についての報告。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学人文社会科学部棟 4F 多目的ホール		36名	弘前大学ボランティアセンター
【対 象】 市民、学生、行政関係者、教職員			
【定 員】 設定なし			
【参加費】 無料			

名 称・開催日	講 師	内 容	
～市民ボランティア講座&ワークショップ～ 第2回 市民ボランティア講座		『熊本地震現地調査報告』 発生から6ヵ月が経過した熊本地震の被災地の現状とボランティア活動の状況、募金の集計報告などを行った。また台風10号により甚大な被害に見舞われた岩手県久慈市、岩泉町への緊急支援活動の経緯と活動状況、今後の活動計画などについても報告した。	
平成28年11月25日(金) 18:00～19:30	弘前大学ボランティアセンター 副センター長・弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学人文社会科学部棟 4F 多目的ホール 【対 象】 市民、学生、行政関係者、教職員 【定 員】 【参加費】 無料		24名	弘前大学ボランティアセンター

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学ボランティアセンター活動報告会基調講演		基調講演 「熊本地震の大学教職員と学生の取り組み」	
平成29年3月10日(金) 18:10～19:00 (活動報告会は18:00～20:00)	熊本学園大学ボランティアセンター ボランティアコーディネーター 照谷明日香		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 ヒロロ 3F 健康ホール 【対 象】 市民、学生 【定 員】 60名 【参加費】 無料		61名	弘前大学ボランティアセンター

名 称・開催日	講 師	内 容	
むつサテライトキャンパス経営者向け講座 ～収益性を基礎とした入門経営～		第1回 シラバスによる事業ガイダンス 第2回 経営計画と経営戦略 第3回 収益性指標の体系 第4回 見積財務諸表と収益性指標 第5回 ラーメン店の経営計画1 第6回 ラーメン店の経営計画2 第7回 ラーメン店の経営計画3 第8回 ラーメン店の経営計画4 第9回 ラーメン店の経営計画5 第10回 ラーメン店の経営計画6 第11回 ラーメン店の経営計画7 第12回 企業の収益性分析を行う1 第13回 企業の収益性分析を行う2 第14回 復習 第15回 まとめ	
平成28年7月7日(木) ～12月8日(木) 16:00～17:30 全15回	青森中央学院大学 経営法学部 教授 井口 義久 氏		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> むつ市立図書館視聴覚ホール <b>【対象】</b> 若手経営者、金融機関若手従業員、一般市民 <b>【定員】</b> 30名 <b>【参加費】</b> なし	延べ 119名	むつサテライトキャンパス

名称・開催日	講師	内容
<b>むつサテライトキャンパス高校生向け講座「くらしと地域～地域を考える視点を養う～」</b>		
平成28年 7月23日(土) ～12月10日(土) 13:00～16:15 全7回 ※12/10のみ 10:00～17:30	青森中央学院大学 経営法学部 教授 高山 貢 弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男	第1回 日本の人口構造とむつ市産業構造の変化と中小企業 第2回 GDPの見方、むつ市のGDP経済成長と景気変動 第3回 家計消費と支出 むつ市の雇用と失業、労働力人口 第4回 金融の仕組み 財政の仕組み 第5回 物価、インフレ、デフレ 為替、株価 第6回 グローバル社会と地域 第7回 予備講義 グループ発表
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> むつ市立図書館視聴覚ホール <b>【対象】</b> むつ市内高校生、一般市民 <b>【定員】</b> 30名 <b>【参加費】</b> なし	延べ 223名	むつサテライトキャンパス

名称・開催日	講師	内容
<b>むつサテライトキャンパス食育健康講座</b>		
平成28年11月10日(木) ～平成29年 2月23日(木) 13:00～15:30 全4回	弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治 弘前医療福祉大学短期大学部 講師 三上 統生 むつグランドホテル 洋食料理長 木村圭司郎 下北ブランド研究所 研究管理委員 清野 貴将 川内町漁業協同組合 加工課長 板井 直樹	第1回 サケ・マスの氷頭（ひず）でアンチエイジング 第2回 夢の健康作物アピオスで生活習慣病を予防 第3回 ミネラルの宝庫ナマコでアンチエイジングを 第4回 豊富な食物繊維ツルアラメで大腸癌予防を



会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
<b>【会場】</b> むつ来さまい館イベントホールB <b>【対象】</b> 一般市民 <b>【定員】</b> 50名 <b>【参加費】</b> なし	延べ 162名	むつサテライトキャンパス

### Ⅲ. センター関連規則等

## 1. センター関連規則

(1) 弘前大学生涯学習教育研究センター規程

(平成16年4月1日制定)  
規程第144号  
最終改正：平28.3.18)

(趣旨)

**第1条** この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号。以下「管理運営規則」という。）第6条第2項の規定に基づき、弘前大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

**第2条** センターは、学内共同教育研究施設として、生涯学習に関する教育（医学及び保健に関することを含む。）及び研究を行い、弘前大学（以下「本学」という。）の教育研究の進展と地域における生涯学習の振興に資することを目的とする。

(業務)

**第3条** センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習に関する教育内容及び教育方法の研究
- (2) 社会人を対象とする公開講座等の生涯学習事業の実施
- (3) 生涯学習指導者の養成
- (4) 生涯学習に関する情報の収集及び提供
- (5) 生涯学習に関する相談事業
- (6) 生涯学習に関する調査・研究報告書等の刊行
- (7) メディカルコミュニケーションセンターの業務に関すること。
- (8) その他生涯学習に関すること。

(職員)

**第4条** センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任担当教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

**第5条** センター長は、センターの業務を掌理する。

**第6条** 削除

(センター協力教員)

**第7条** センターに、センターが行う事業を円滑に実施するため、センター協力教員を置くことができる。

- 2 センター協力教員の任期は、担当する業務が終了するまでの期間とする。
- 3 センター協力教員は、学長が任命する。

(運営委員会)

**第8条** センターの管理運営に関する事項を審議するため、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

**第9条** センターの事務は、社会連携部社会連携課において処理する。

(その他)

**第10条** この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

**附 則**

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成21年2月9日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成21年5月28日から施行し、改正後の規定は、平成21年4月1日から適用する。

**附 則** (平成22年5月17日規程第53号)

この規程は、平成22年5月17日から施行する。

**附 則** (平成23年7月28日規程第68号)

この規程は、平成23年7月28日から施行し、改正後の規定は、平成23年5月20日から適用する。

**附 則** (平成25年4月19日規程第74号)

この規程は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日から適用する。

**附 則** (平成26年5月16日規程第61号)

この規程は、平成26年6月1日から施行する。

**附 則** (平成27年3月20日規程第48号)

この規程は、平成27年3月20日から施行する。

**附 則** (平成27年9月14日規程第212号)

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

**附 則** (平成28年3月18日規程第126号)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

(2) 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会内規

(平成16年4月1日制定)  
(最終改正：平25.4.19)

(趣旨)

**第1条** この内規は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第95条及び弘前大学生涯学習教育研究センター規程第8条の規定に基づき、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

**第2条** 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任教員
- (3) 各部局から推薦された教員各1名
- (4) 学長が指名する教員以外の職員1名
- (5) その他委員長が必要と認めた職員

2 前項第3号の委員は、学長が任命する。

(委員の任期)

**第3条** 前条第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

**第4条** 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

3 運営委員会に副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

**第5条** 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員の代理出席)

**第6条** 委員に事故があるときは、当該委員の指名した者が委員として代理出席することができる。

(委員以外の出席)

**第7条** 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

**第8条** 運営委員会に専門的事項を調査し、又は企画、立案若しくは実施をするため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の名称、組織及び運営については、運営委員会が別に定める。

(庶務)

**第9条** 運営委員会の庶務は、研究推進部社会連携課において処理する。

(その他)

**第10条** この内規に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

**附 則**

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この内規は、平成16年10月1日から施行する。

**附 則**

この内規は、平成17年10月28日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

**附 則**

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

**附 則**

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

**附 則** (平成25年4月19日)

この内規は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日から適用する。

### (3) 白神自然環境人材育成講座専門委員会に関する要項

(平成28年7月25日制定)

#### 第1 趣旨

この要項は、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会内規第8条の規定に基づき設置する弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会白神自然環境人材育成講座専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### 第2 業務

専門委員会は、白神自然環境人材育成講座（以下「講座」という。）に係る次に掲げる業務を行う。

- (1) 講座計画（カリキュラム編成を含む。）に関すること。
- (2) 履修及び修了等履修生の修学に関すること。
- (3) 履修生支援に関すること。
- (4) その他講座の重要事項に関すること。

#### 第3 組織

- 1 専門委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
  - (1) センター長
  - (2) センターの専任担当教員
  - (3) センター長が必要と認めた職員
- 2 専門委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 3 委員長は、専門委員会を主宰し、その議長となる。
- 4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

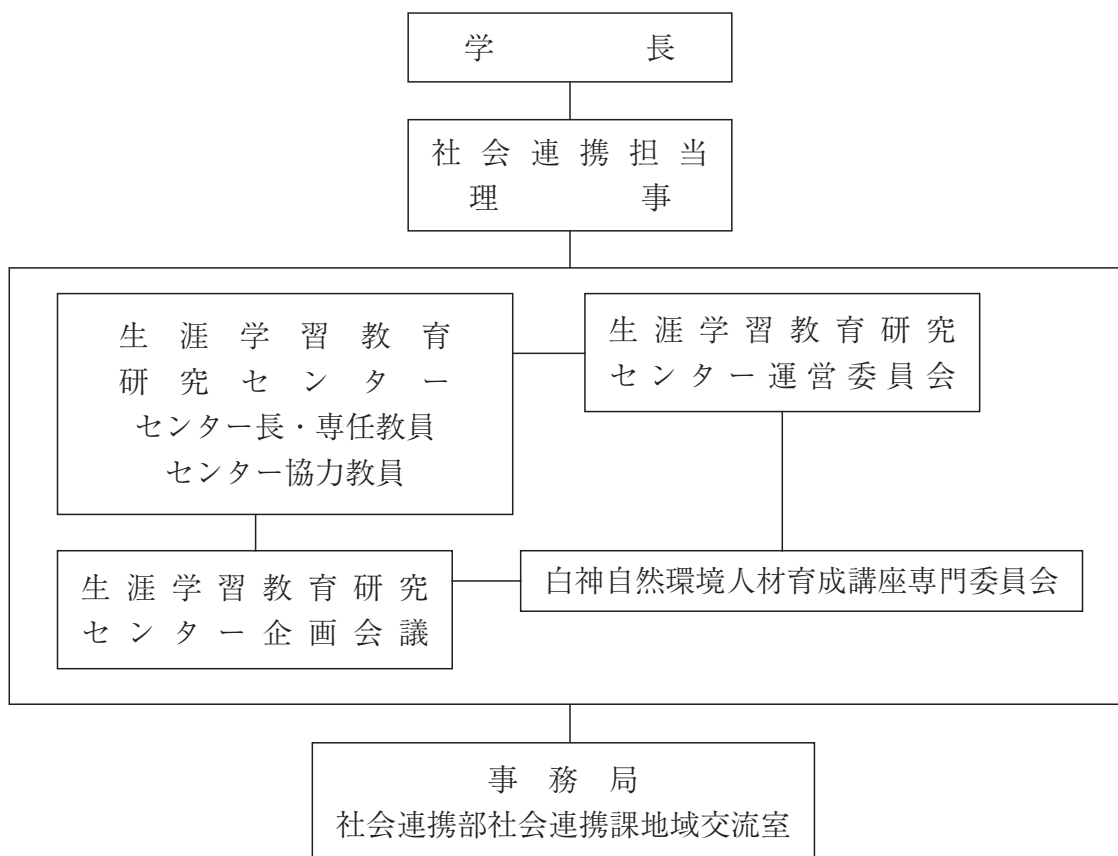
#### 第4 庶務

専門委員会の庶務は、社会連携部社会連携課地域交流室において処理する。

#### 附 則

この要項は、平成28年7月25日から実施する。

## 2. 組織



### ○生涯学習教育研究センター運営委員会

生涯学習教育研究センター	教授	曾我亨
生涯学習教育研究センター	准教授	藤田昇治
生涯学習教育研究センター	講師	深作拓郎
人文社会科学部	教授	大橋忠宏
教育学部	教授	大坪正一
医学研究科	教授	大山力
保健学研究科	講師	七島直樹
理工学研究科	准教授	齋藤玄敏
農学生命科学部	准教授	園木知典
社会連携部社会連携課	課長	小田桐努

### ○センター協力教員

人文社会科学部	准教授	金目哲郎 (28.4.1~30.3.31)
教育学部	准教授	小瑠史朗 (28.4.1~30.3.31)
農学生命科学部	准教授	石塚哉史 (28.4.1~30.3.31)
白神自然環境研究所	准教授	中村剛之 (28.4.1~30.3.31)
地域社会研究科	准教授	平井太郎 (28.4.1~30.3.31)

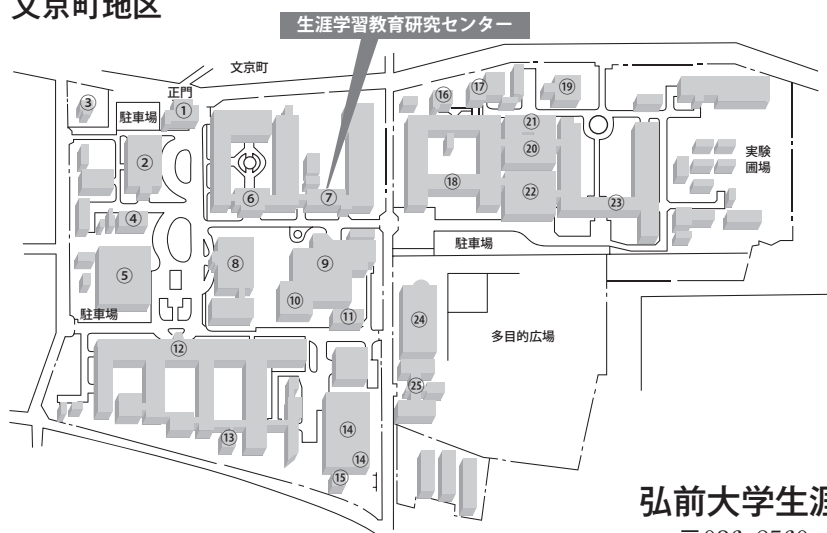


○白神自然環境人材育成講座専門委員会

生涯学習教育研究センター	教授	曾我 亨
生涯学習教育研究センター	准教授	藤田 昇治
生涯学習教育研究センター	講師	深作 拓郎
人文社会科学部	准教授	金目 哲郎
教育学部	准教授	小瑤 史朗
農学生命科学部	准教授	石塚 哉史
白神自然環境研究所	教授	石川 幸男
白神自然環境研究所	准教授	中村 剛之
社会連携部社会連携課	課長補佐	金沢 伸也

### 3. 地図・連絡先

#### 文京町地区



- |                       |                 |            |
|-----------------------|-----------------|------------|
| ①案内所(守衛所)             | ②事務所            | ③弘大カフェ     |
| ④保健管理センター             | ⑤創立50周年記念会館     | ⑥総合教育棟     |
| ⑦人文社会科学部校舎            | ⑧附属図書館          | ⑨学生食堂      |
| ⑩大学会館                 | ⑪合宿所及びサークル共用施設  | ⑫教育学部校舎    |
| ⑬教育学部附属<br>教育実践総合センター | ⑭第一体育館          | ⑮弓道場       |
| ⑯地震火山観測所              | ⑰総合情報処理センター     | ⑱理工学部1号館   |
| ⑲遺伝子実験施設              | ⑳附属コラボレーションセンター | ㉑農学生命科学部校舎 |
| ㉒創立60周年記念会館<br>コラボ弘大  | ㉓理工学部2号館        |            |
| ㉔第二体育館                | ㉕武道館            |            |

#### 弘前大学生涯学習教育研究センター

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
 人文社会科学部3F  
 TEL (0172) 39-3146 (直通)  
 FAX (0172) 39-3146

#### 事務局

##### 社会連携部社会連携課

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
 TEL (0172) 39-3980  
 FAX (0172) 39-3919

## 編 集 後 記

生涯学習教育研究センター年報第20号が刊行となりました。20という数字からお分かりのとおり、2016年度はセンター創立20周年の節目の年でした。日本社会教育学会の第63回研究大会が本学で開催されたことから、学会との共同企画として「地域づくりと大学開放」というタイトルでシンポジウムを開催いたしました。今日の大学開放は「教育+研究+社会（地域）貢献の総合体」であるという仮説を立て、当センター専任教員である藤田昇治先生をはじめとする3人の登壇者の発表、フロアーを交えた意見交換を行いました。本年報に掲載されている藤田先生の論文は、この時の発表がベースとなっておりますので、ご一読いただけると当日の様子もわかるかと思えます。

シンポジウムでも話題となりましたが、生涯学習教育研究センターを取り巻く環境、求められる役割も変化してきております。以前は、大学の教員が地域へ出向いていき、研究成果を講義する講演会形式が多かったのですが、数年前からは、対象者に応じて人数規模で、内容を精査し、受講者と一緒に課題やアイデアを出し合えるワークショップ形式を取り入れたスタイルとなってきております。それは、地域と大学が協働して地域課題の解決に取り組む双方向的の関係性を構築していくことが期待されているからです。興味のある方は「Ⅱ. 事業報告」をじっくりとお読みいただければと思いますし、これまで刊行された年報の事業報告と対比させながらお読みいただくと、より具体的にご理解いただけるのではないかと思います。過去の年報は、センターのホームページに掲載されております。

最後に、センターが発足した1998年に着任され、センターとともに20年歩まれてきた藤田昇治先生が、この3月31日をもって定年退官されました。これまでのご功勞に感謝申し上げますと共に、今後のご健勝とご発展をお祈りいたします。

---

---

発行 平成 29 年 5 月 27 日

### 弘前大学生涯学習教育研究センター 年報 第 20 号

発行 弘前大学生涯学習教育研究センター

〒036-8560 弘前市文京町1番地

☎ (0172) 39-3146

印刷 やま と 印 刷 株 式 会 社

〒036-8061 弘前市神田4丁目4-5

☎ (0172) 34-4111

---

---

ANNUAL REPORT  
CENTER FOR RESEARCH AND EDUCATION OF LIFELONG LEARNING  
HIROSAKI UNIVERSITY  
NO.20, 2017

---

CONTENTS

Academic Articles

The Prospect of Regional Lifelong Learning and University Extension FUJITA Shoji .....	1
---	---

Activity Reports: Center for Research and Education of Lifelong Learning .....	13
--	----

The Faculties and Other On-campus Organizations .....	56
---	----

Rules and Organization .....	101
------------------------------	-----

---